

令和4年度

男女共同参画に関する
市民・職員意識調査

報 告 書

令和4年9月

加茂市 総務課 男女共同参画係

目次

頁

I	市民アンケート調査概要	1
II	市民アンケート調査結果	2
1	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	職業	3
(4)	婚姻状況	3
(5)	就労状況	4
(6)	子どもの有無	4
(7)	世帯構成	5
2	男女平等について	6
(1)	家庭や結婚生活について	6
①	結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	7
②	結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	8
③	結婚したら、夫婦は同じ姓を名乗るべきだ	9
④	子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい	10
⑤	妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ	11
⑥	妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするほうがよい	12
⑦	男同士、女同士の結婚を認めるべきだ	13
⑧	一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である	14
(2)	男女の地位の平等について	15
①	家庭の中で	16
②	職場の中で	17
③	社会慣習（しきたり）について	18
④	法律や制度面で	19
⑤	政治・経済活動の場で	20
⑥	学校教育の場で	21
⑦	地域社会の中で	22
⑧	社会全体について	23
(3)	家庭生活の仕事の分担	24
①	生活費をかせぐ	25
②	家計の管理	26
③	日常の買い物	27
④	食事のしたく、後片付け	28

	頁
⑤ 洗濯・掃除	29
⑥ 家族の介護	30
⑦ 育児、子どものしつけや教育	31
⑧ 町内会などの地域活動	32
(4) 女性の社会参加についての考え方	33
3 教育について	34
(1) 希望する子どもの育て方	34
(2) 子どもに受けさせたい教育程度	35
① 女の子の場合	36
② 男の子の場合	37
4 男女の職業生活に対する考え方について	38
(1) 職場における男女間の格差	38
(2) 女性が仕事に就くことについての考え	40
(3) 女性が働き続ける上で困難だと思うこと	41
(4) 育児休業や介護休業の取得について	43
(5) 育児休業の取得希望について	44
(6) 育児休業の取得状況について	45
(7) 育児休業を取得しなかった理由	46
(8) 女性が働く環境について	48
① 働く場が多い	49
② 能力発揮の場が多い	50
③ 労働条件が整っている	51
④ 育児施設が整備されている	52
⑤ 昇進・給与等に男女の差別的扱いがない	53
⑥ 結婚・出産退職の圧力等がない	54
⑦ 家族の理解や協力が得やすい	55
5 ワーク・ライフ・バランスについて	56
(1) 希望のワーク・ライフ・バランス	56
(2) 現実の生活状況	57
(3) ワーク・ライフ・バランスの満足度	58
(4) 満足していない理由	59
6 男女の人権について	61
(1) 夫婦間の暴力	61
① 殴る、蹴る、物を投げつけるなどの行為を受ける	63
② お金を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的に苦しめる	64
③ 家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない	65
④ 「別れるなら自殺する」などと言う	66
⑤ 相手が大切にしている物を壊す	67

	頁
⑥ 性的な行為を強要されたり、避妊に協力しない……………	68
⑦ 見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる……………	69
⑧ 親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限する……………	70
⑨ 電話・メール・SNSの内容を細かくチェックする……………	71
⑩ 何を言っても無視する……………	72
⑪ 大声でどなられたり、脅されたりする……………	73
⑫ 子どもの目の前で、殴る、大声でどなるなどの行為を受ける……………	74
(2) 配偶者などから（への）暴力行為（DV）を受けた（行った）経験の有無……………	75
(3) 配偶者などから（への）暴力（DV）に関する相談先……………	76
7 防災・災害復興対策について……………	78
(1) 防災・災害復興対策に関する考え方……………	78
① 仮設トイレを男女別に設置できないことがあっても、やむを得ない……………	79
② 女性用トイレの数は、男性用トイレの数より多く設置すべきだ……………	80
③ 着替えや授乳のための部屋を用意すべきだ……………	81
④ 女性だけ（男性だけ）でくつろげる部屋も用意すべきだ……………	82
⑤ 洗濯物干し場を男女別に設置できなくてもやむを得ない……………	83
⑥ 同性のアドバイザーに心配ごとなどを相談できる窓口を設置すべきだ……………	84
⑦ 避難所を運営するメンバーに男女が同じように加わることは重要だ……………	85
⑧ 性的な被害を受けないように自分で気をつけるべきだ……………	86
8 男女共同参画の推進に関することについて……………	87
(1) 法律や制度の認知度……………	87
(2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと……………	89
9 自由記入の結果……………	92

Ⅲ 職員アンケート調査概要	98
Ⅳ 職員アンケート調査結果	99
1 回答者の属性	99
(1) 性別	99
(2) 年齢	99
(3) 職位	100
(4) 婚姻状況	100
(5) 就労状況	101
(6) 子どもの有無	101
(7) 世帯構成	102
2 男女平等について	103
(1) 男女の地位の平等について	103
(2) 男女が社会のあらゆる分野に参画していくために最も重要なこと	105
3 男女の職業生活に対する考え方について	106
(1) 職場における男女間の格差	106
(2) 育児休業の取得について	108
(3) 育児休業を利用する上で支障となること	109
(4) 現状についての考え方	110
(5) 女性の職域拡大・登用をすすめるために重要なこと	111
(6) 管理職への昇格・昇任について	112
(7) 管理職への昇格・昇任を希望する理由	113
(8) 管理職への昇格・昇任を希望しない理由	114
4 ワーク・ライフ・バランスについて	115
(1) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと	115
5 人権について	116
(1) 職場でハラスメントを受けた経験の有無	116
(2) ハラスメントを受けた時の対処法	117
6 男女共同参画に関する施策などについて	118
(1) 法律や制度の認知度	118
7 自由記入の結果	121

(付) 調査票

I 市民アンケート調査概要

1 調査方法

- (1) 調査地域 加茂市全域
- (2) 調査対象 加茂市在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 標本抽出法 住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送により回収
- (6) 調査期間 令和 4 年夏期 (8 月～9 月)

2 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女平等について
- (3) 子育てや教育について
- (4) 男女の職業生活に対する考え方について
- (5) ワーク・ライフ・バランスについて
- (6) 男女の人権について
- (7) 防災・災害復興対策について
- (8) 男女共同参画社会の推進に関することについて

3 回収結果

- (1) 有効回収票 827 票 (男性 362 票、女性 455 票、
男性、女性のどちらでもない 1 票、性別不明 9 票)
- (2) 有効回収率 41.4%

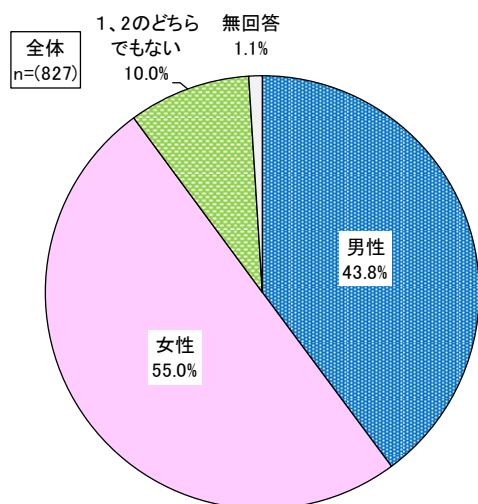
◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

- 1. 本文及び図表中の回答者の割合は、百分比 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2. 図表中の「n (number of cases の略)」とは、回答者総数 (該当者質問では該当者数) のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
- 4. 回答数が極端に少ない (概ねに 10 以下の) 属性については分析対象外とした。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

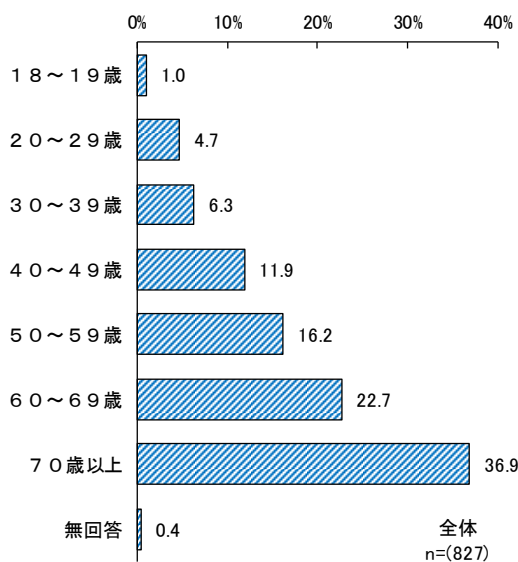
1 回答者の属性

(1) あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)



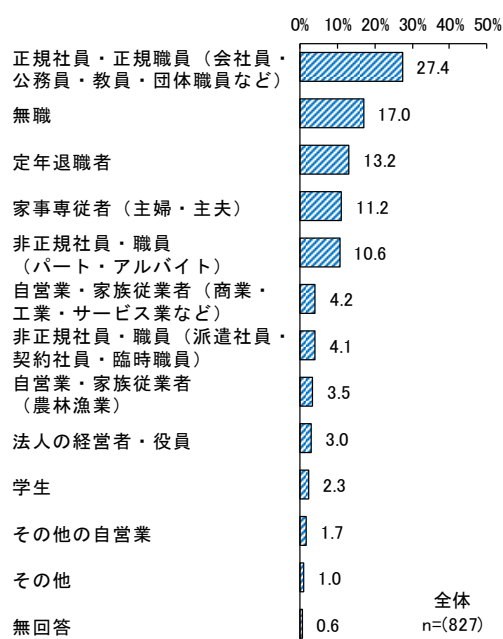
性 別		
回答者総数	100.0%	(827人)
男性	43.8%	(362人)
女性	55.0%	(455人)
その他	0.1%	(1人)
無回答	1.1%	(9人)

(2) あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)



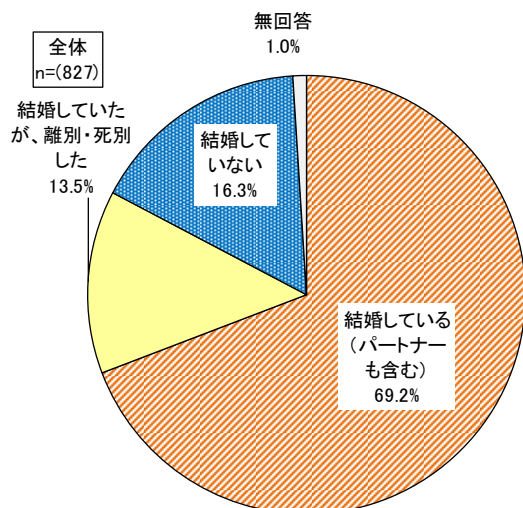
年 齢 別		
回答者総数	100.0%	(827人)
18～19歳	1.0%	(8人)
20～29歳	4.7%	(39人)
30～39歳	6.3%	(52人)
40～49歳	11.9%	(98人)
50～59歳	16.2%	(134人)
60～69歳	22.7%	(188人)
70歳以上	36.9%	(305人)
無回答	0.4%	(3人)

(3) あなたのご職業は何ですか。(○は1つだけ)



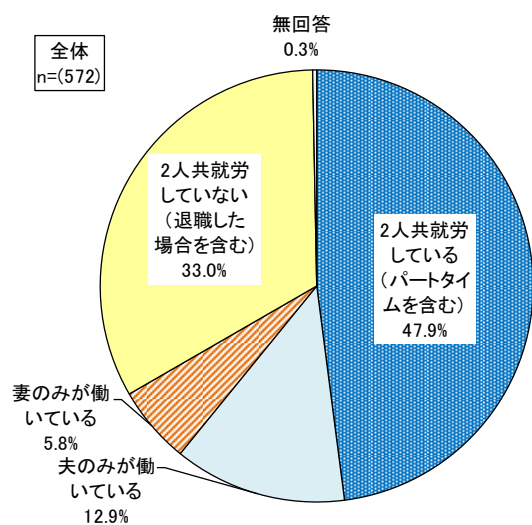
職業別	
回答者総数	100.0% (827人)
正規社員・正規職員 (会社員・公務員・教員・団体職員など)	27.4% (227人)
非正規社員・職員 (派遣社員・契約社員・臨時職員)	4.1% (34人)
非正規社員・職員 (パート・アルバイト)	10.6% (88人)
法人の経営者・役員	3.0% (25人)
自営業・家族従業者 (農林漁業)	3.5% (29人)
自営業・家族従業者 (商業・工業・サービス業など)	4.2% (35人)
その他の自営業	1.7% (14人)
家事専従者 (主婦・主夫)	11.2% (93人)
学生	2.3% (19人)
無職	17.0% (141人)
定年退職者	13.2% (109人)
その他	1.0% (8人)
無回答	0.6% (5人)

(4) あなたは現在結婚されていますか。(○は1つだけ)



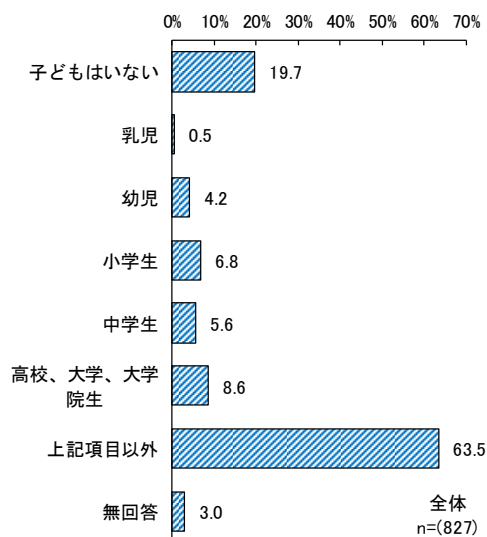
婚姻状況	
回答者総数	100.0% (827人)
結婚している (パートナーも含む)	69.2% (572人)
結婚していたが、離別・死別した	13.5% (112人)
結婚していない	16.3% (135人)
無回答	1.0% (8人)

(5) [(4) で「1. 結婚している (パートナーも含む)」と答え方にお伺いします]
あなた方ご夫婦の就労状況は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)



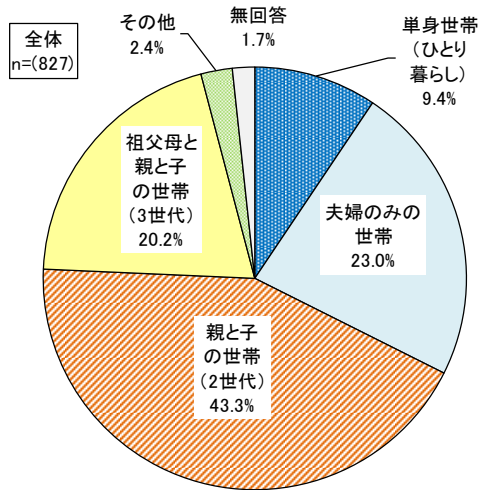
回答者総数	割合	人数
2人共就労している (パートタイムを含む)	47.9%	(274人)
夫のみが働いている	12.9%	(74人)
妻のみが働いている	5.8%	(33人)
2人共就労していない (退職した場合を含む)	33.0%	(189人)
無回答	0.3%	(2人)

(6) あなたにはお子さんはいますか。(○はあてはまるものすべて)



回答者総数	割合	人数
子どもはいない	19.7%	(163人)
乳児 (1歳未満)	0.5%	(4人)
幼児 (1歳以上～小学校就学前)	4.2%	(35人)
小学生	6.8%	(56人)
中学生	5.6%	(46人)
高校、大学、大学院生 (高専、短大、専門学校生を含む)	8.6%	(71人)
上記項目以外 (学校は卒業した、既に働いている、結婚した等)	63.5%	(525人)
無回答	3.0%	(25人)

(7) あなたのご家庭の構成（同居の家族のみ）は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

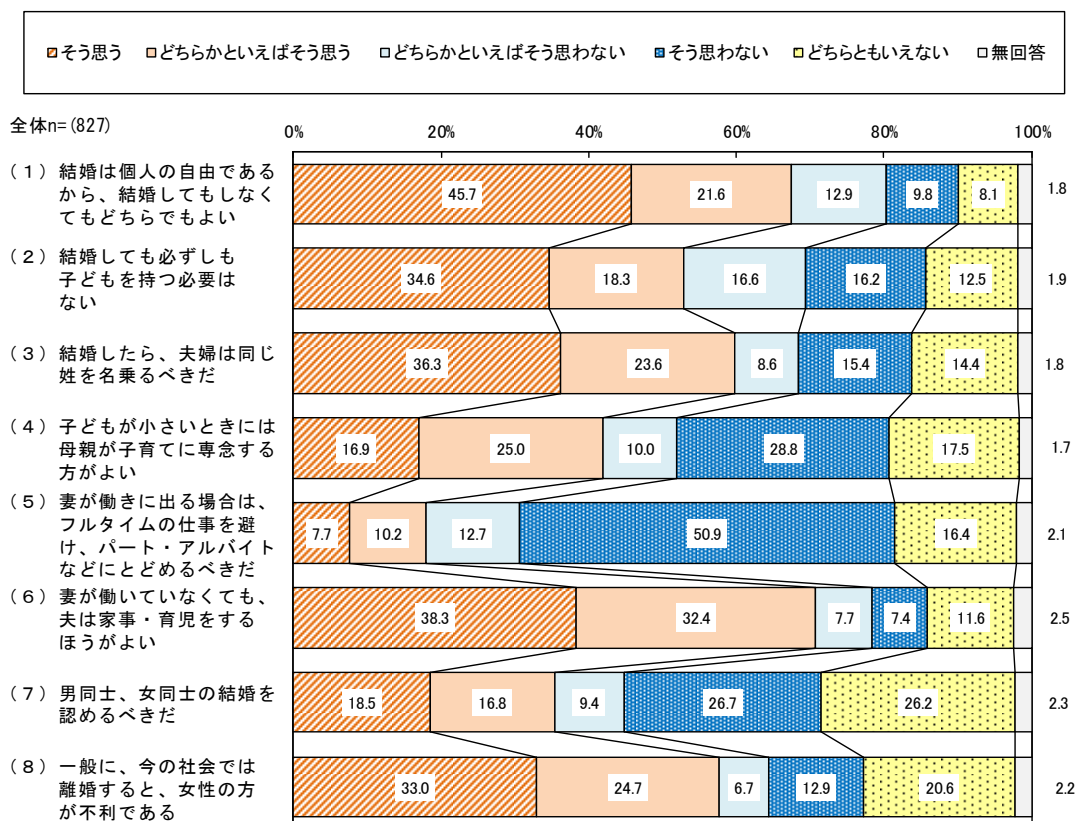


世帯構成		
回答者総数	100.0%	(827人)
単身世帯 (ひとり暮らし)	9.4%	(78人)
夫婦のみの世帯	23.0%	(190人)
親と子の世帯 (2世代)	43.3%	(358人)
祖父母と親と子の世帯 (3世代)	20.2%	(167人)
その他	2.4%	(20人)
無回答	1.7%	(14人)

2 男女平等について

(1) 家庭や結婚生活について

問1 結婚や家庭生活などに関する(1)～(8)の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれでしょうか。それぞれ1つずつお選びください。



<全体結果>

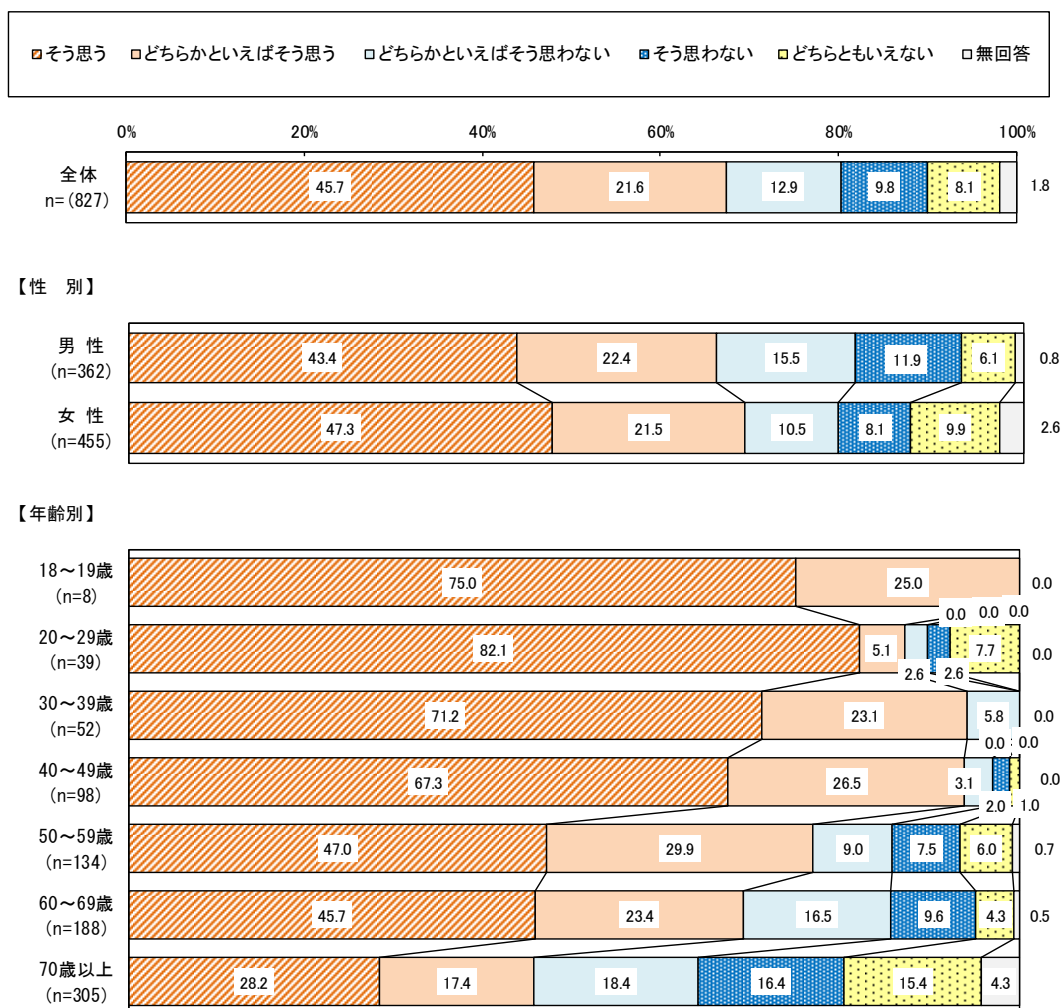
家庭や結婚生活について8つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(6) 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするほうがよい】が最も高く、約7割となっている。以下、【(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】が7割弱、【(3) 結婚したら、夫婦は同じ姓を名乗るべきだ】、【(8) 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である】、【(2) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】が5割台、【(4) 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい】が4割台、【(7) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】が3割台、【(5) 妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ】が2割弱となっている。

【(5) 妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ】と【(7) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】の2項目は、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』計の割合が、『思う』計の割

合を上回っている。

① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



<全体結果>

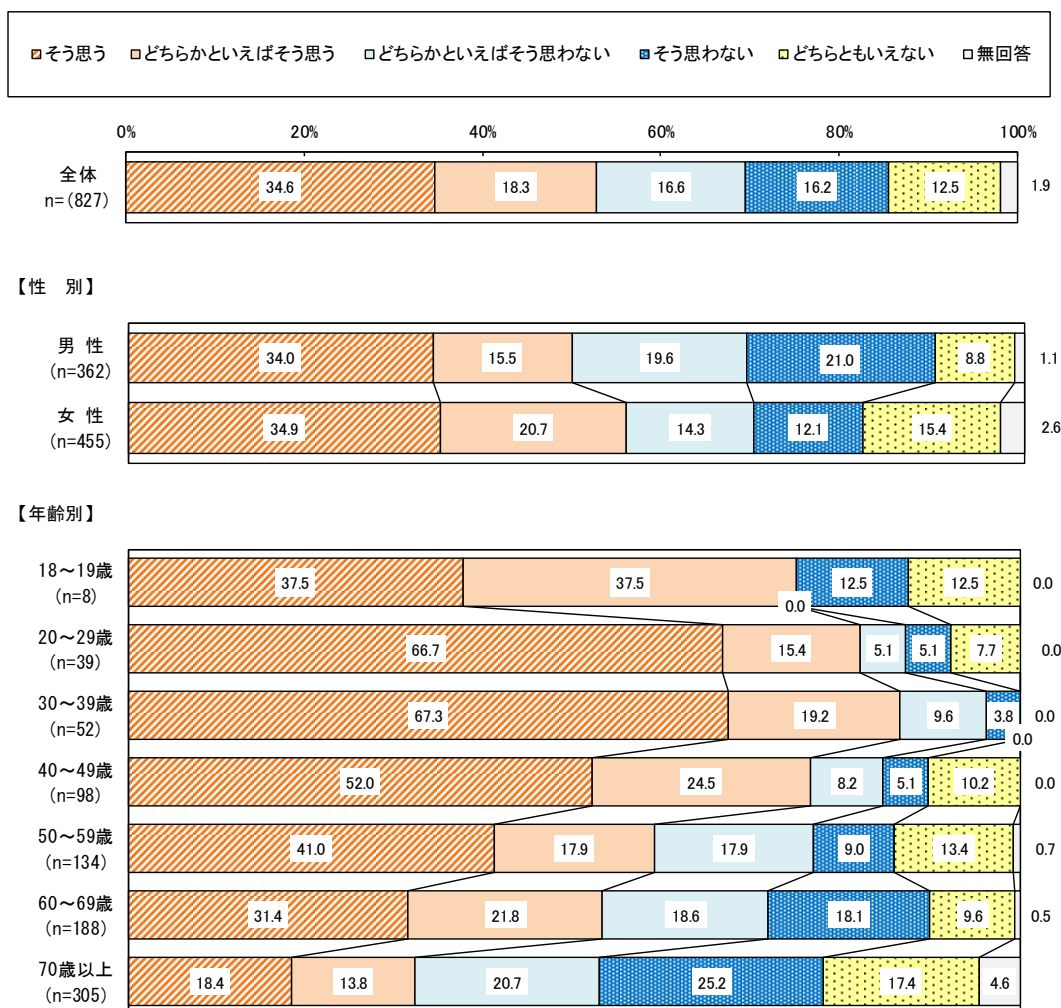
【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を44.7ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方がやや高く、『思わない』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、30歳代と40歳代で9割強と高くなっている。

② 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



<全体結果>

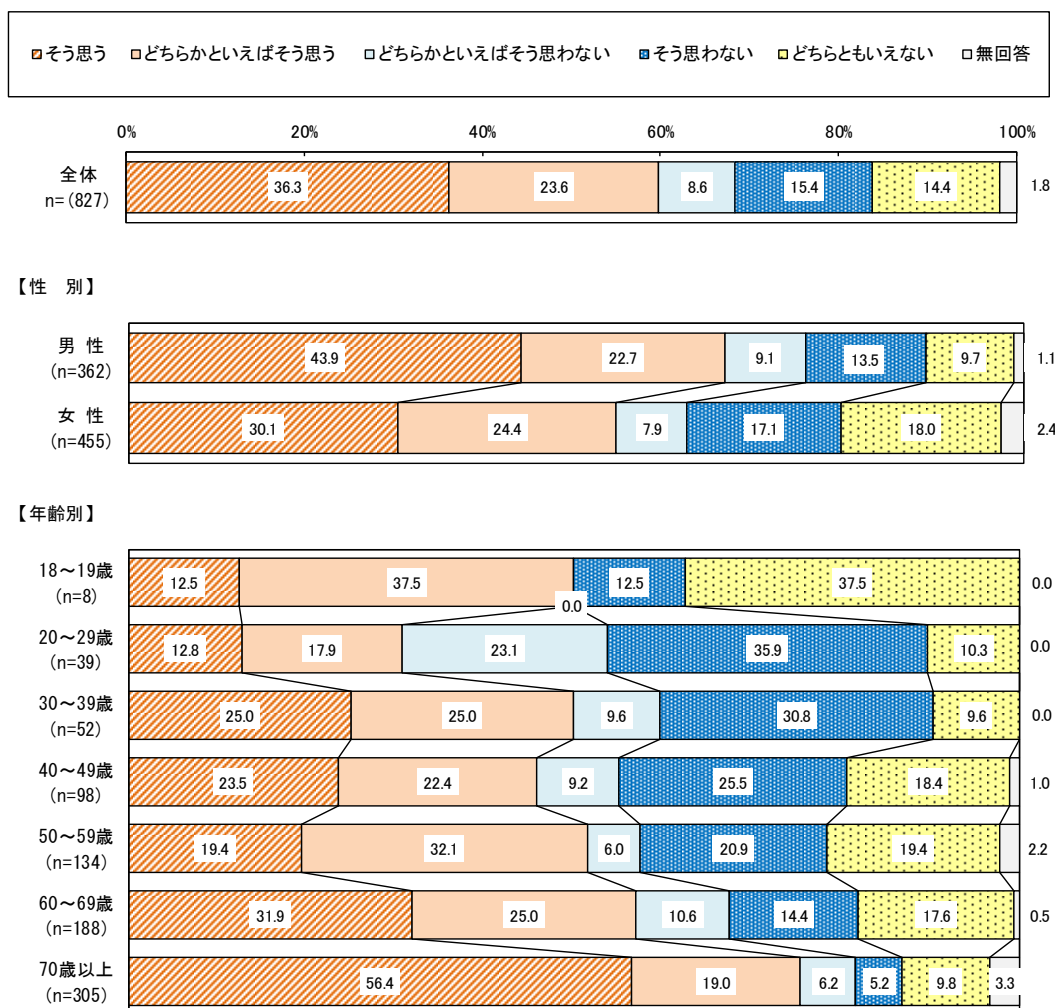
【結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を20.0ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が6割弱と高く、『思わない』計の割合は、男性の方が約4割で高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代と30歳代が8割強で高く、70歳以上で低くなっている。

③ 結婚したら、夫婦は同じ姓を名乗るべきだ



<全体結果>

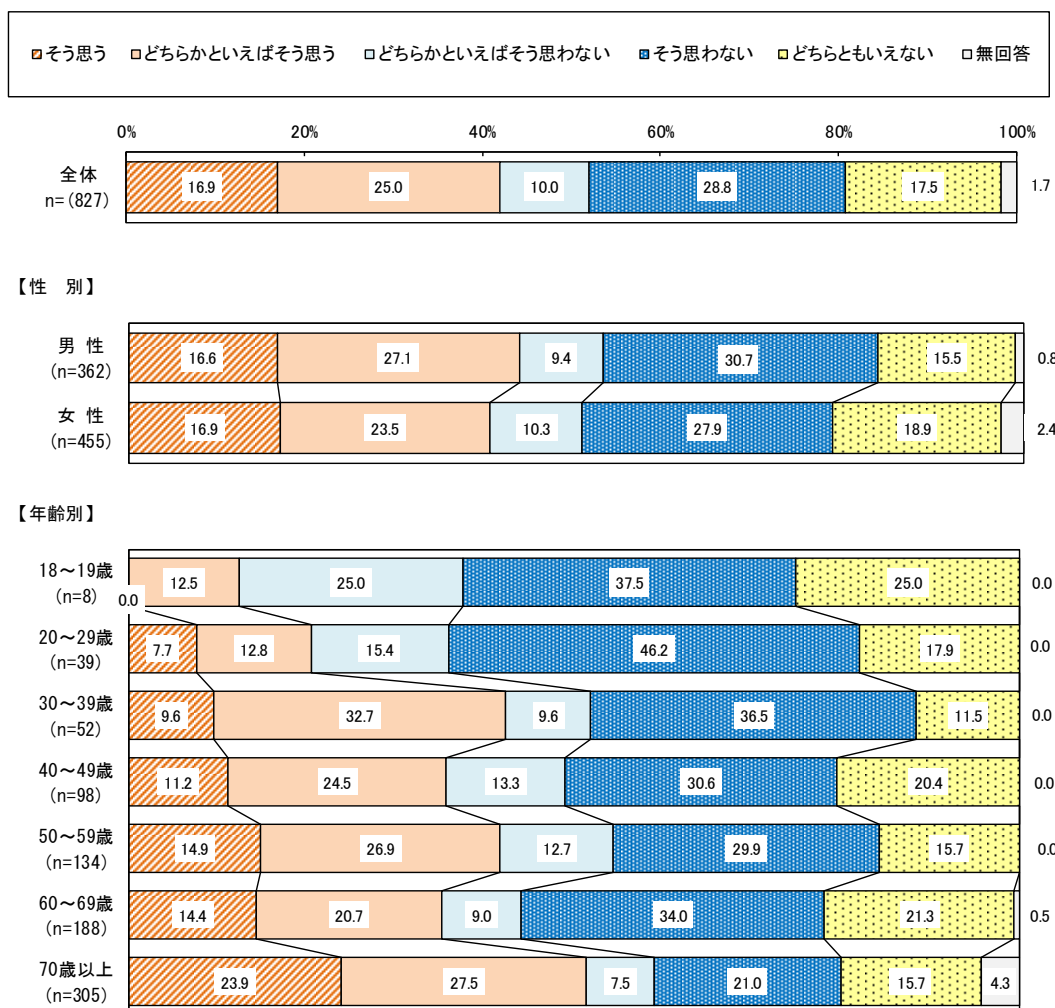
【結婚したら、夫婦は同じ姓を名乗るべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を36.0ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、男性の方が7割弱で高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、70歳以上で最も高くなっている。

④ 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい



<全体結果>

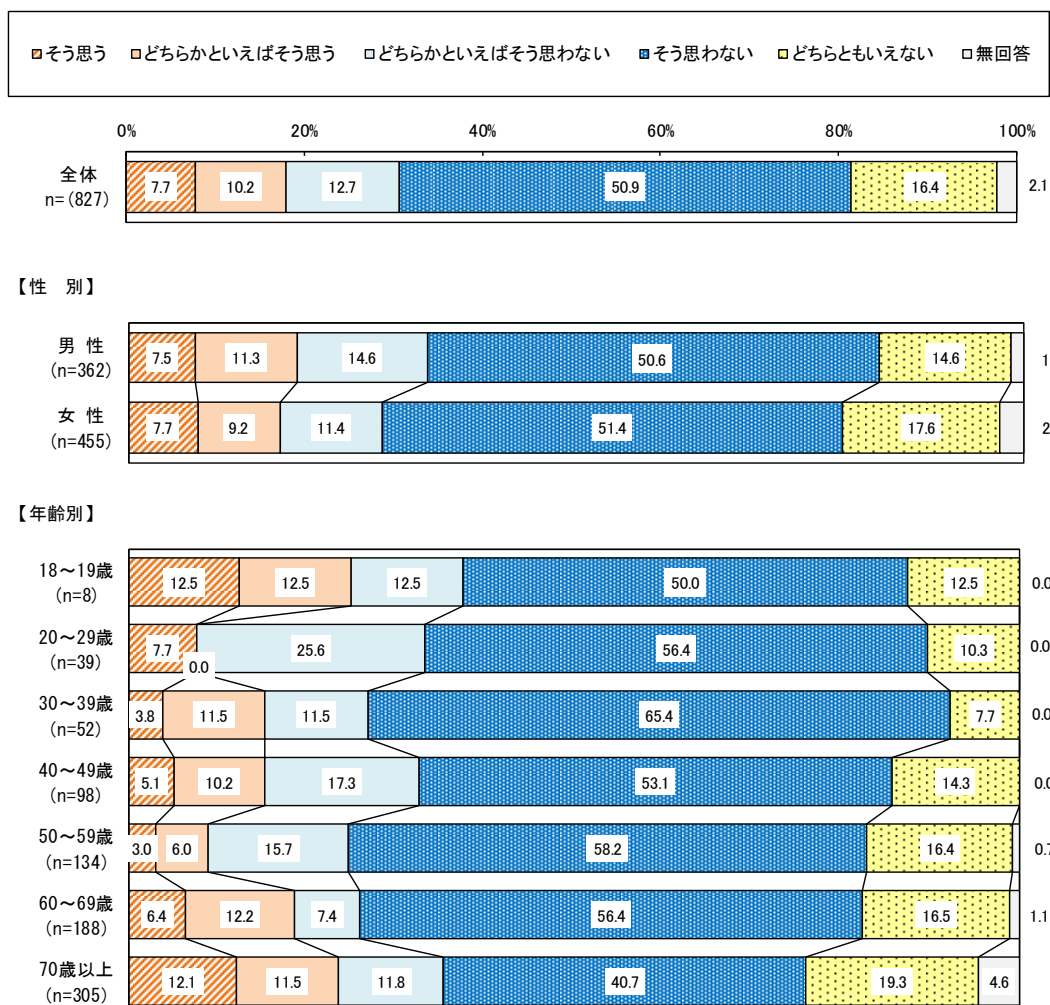
【子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい】については、『思う』計の割合と、『思わない』計の割合が拮抗している。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、70歳以上で最も高く、5割を超えている。

⑤ 妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ



<全体結果>

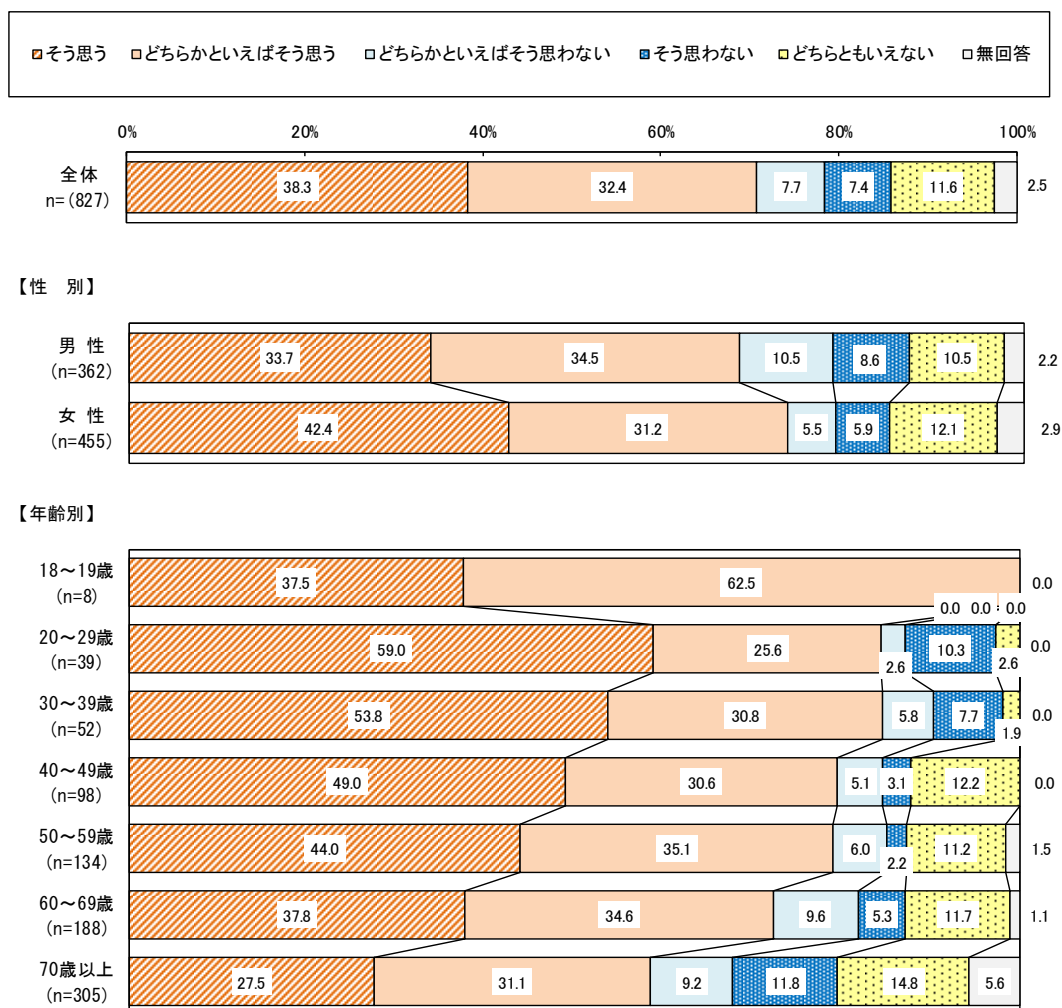
【妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を45.7ポイント下回った。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、70歳以上で高く、2割を超えている。『思わない』計の割合は、20歳代で高く、8割を超えている。

⑥ 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするほうがよい



<全体結果>

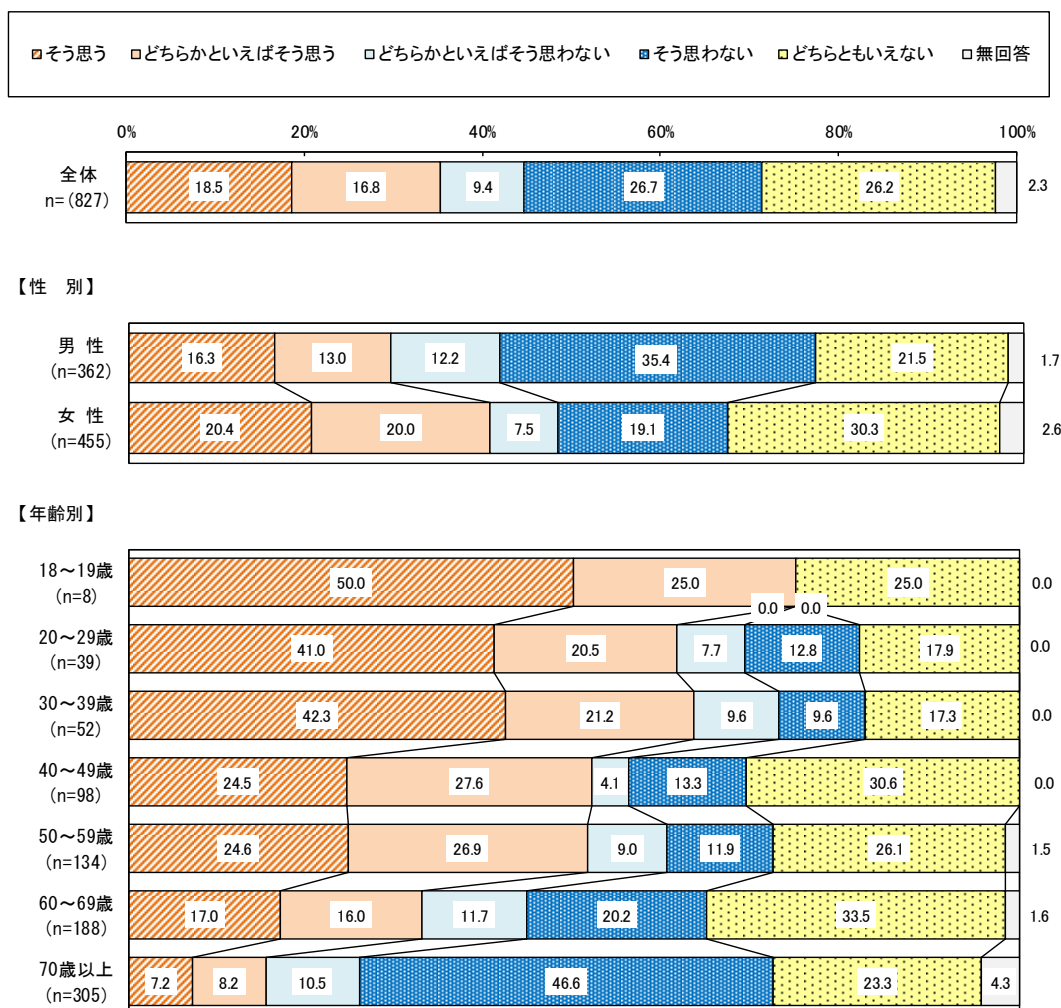
【妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするほうがよい】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を55.6ポイント上回った。

<性別・年齢別・婚姻状況別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が高く、『思わない』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代で最も高くなっている。

⑦ 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ



<全体結果>

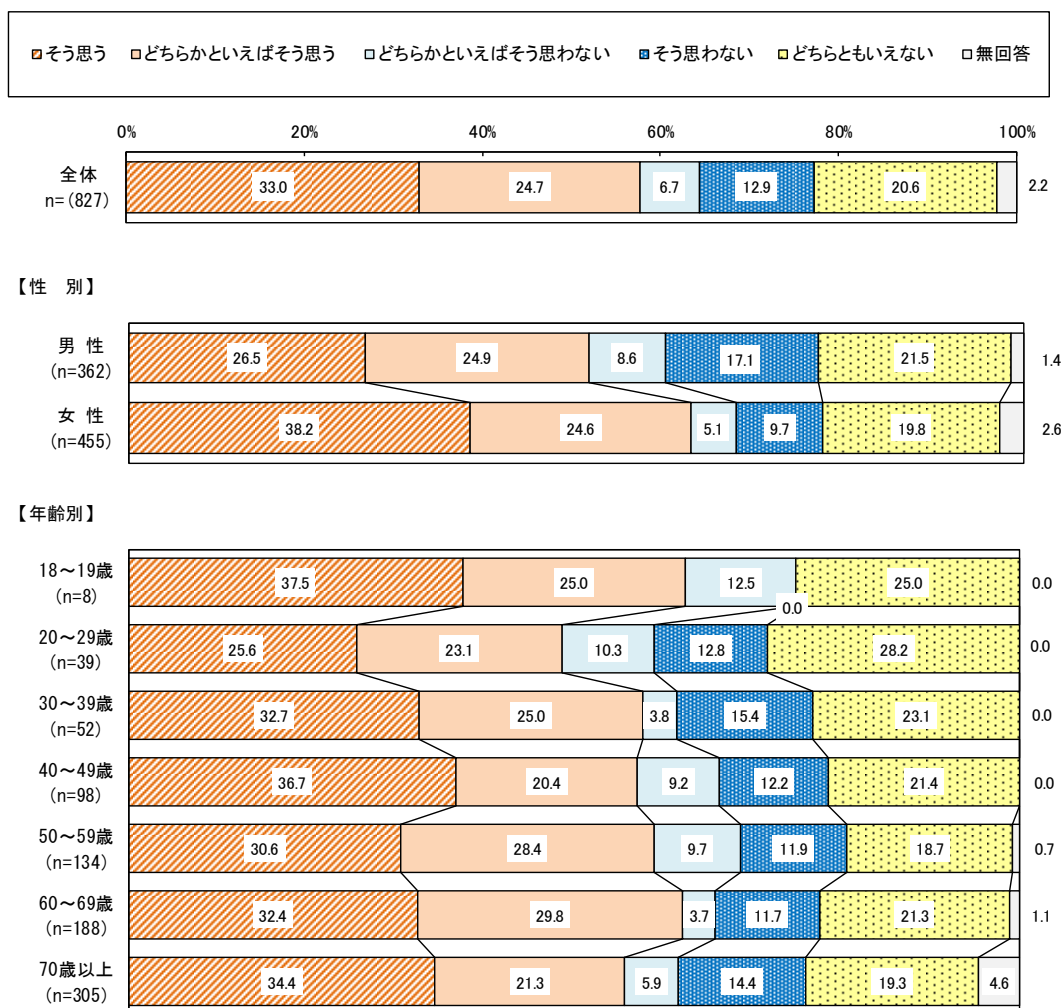
【男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】については、『思う』計の割合と、『思わない』計の割合が拮抗している。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が高く、『思わない』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代と30歳代で高く、6割を超えている。『思わない』計の割合は、70歳以上で最も高く、6割弱となっている。

⑧ 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である



<全体結果>

【一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を38.1ポイント上回った。

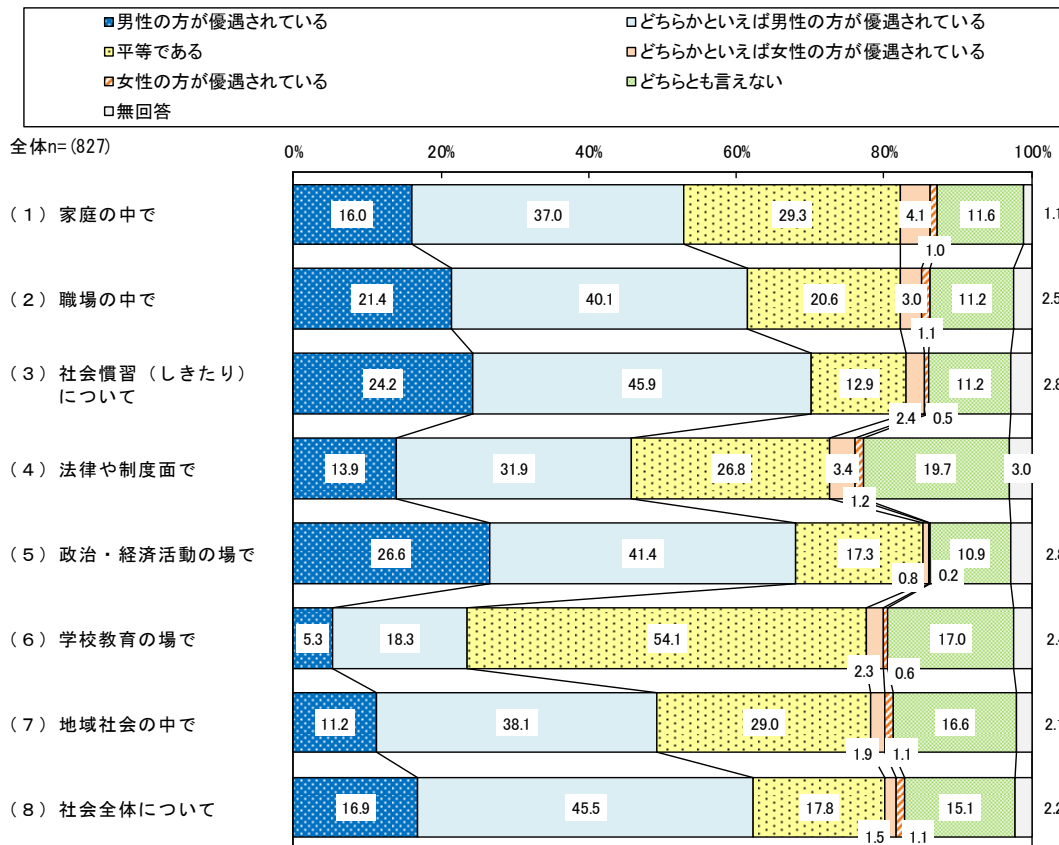
<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が高く、『思わない』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、60歳代で最も高く、6割強となっている。

(2) 男女の地位の平等について

問2 あなたは、(1)～(8)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



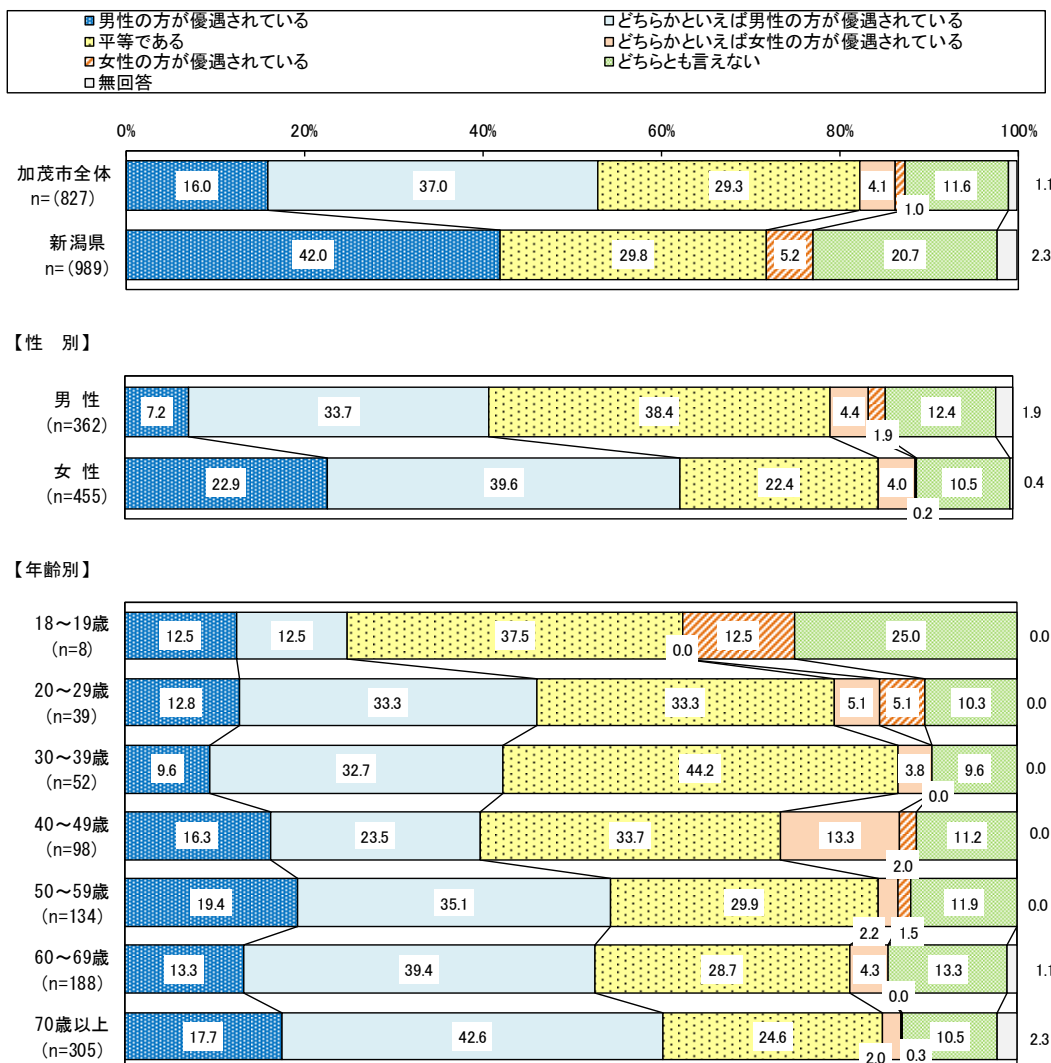
<全体結果>

男女の地位の平等感について8つの項目で調査した。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(3) 社会慣習（しきたり）について】が高く、約7割となっている。以下、【(5) 政治・経済活動の場で】、【(8) 社会全体について】と【(2) 職場の中で】が6割台で続く。

一方、「平等である」と感じている項目は、【(6) 学校教育の場で】が5割強で最も高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

① 家庭の中で



<全体結果>

家庭においては、『男性が優遇されている』計の割合が、半数強を占めている。

一方、「平等である」と感じている人は約3割にとどまっている。

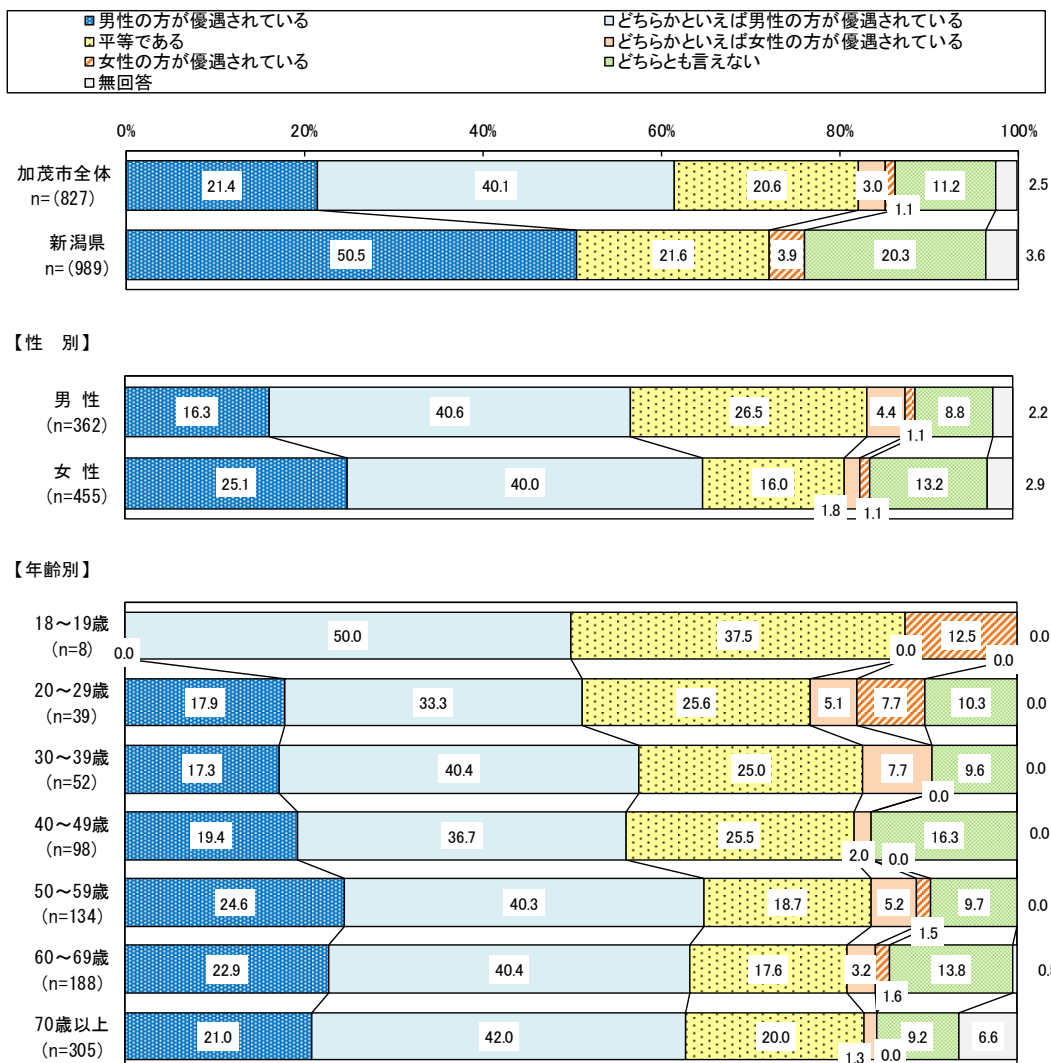
<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が6割強で男性を大きく上回っている。一方、「平等である」と感じている人は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は70歳以上で最も高くなっている。

「平等である」と感じている人は、30歳代で最も高く、4割強となっている。

② 職場の中で



<全体結果>

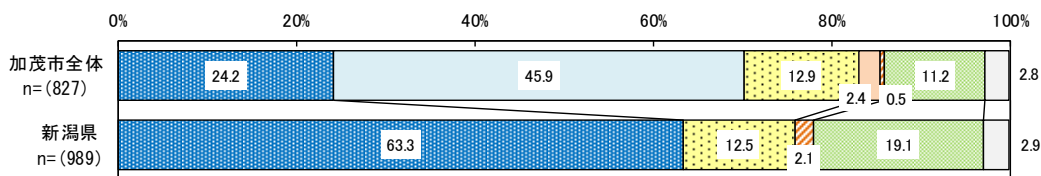
職場においては、『男性が優遇されている』計の割合が6割強となっている。

<性別・年齢別>

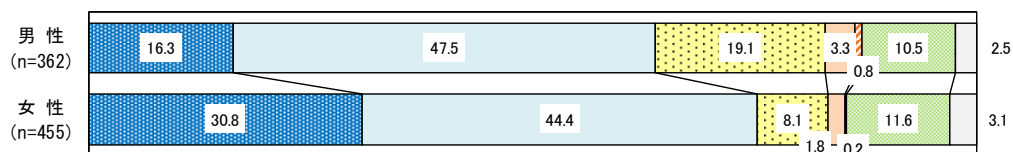
男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が6割強で高くなっている。一方、「平等である」と感じている人は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、50歳代以上で高く、6割強を占めている。「平等である」と感じている人は、20歳代～40歳代で高く、四分の一程度を占めている。

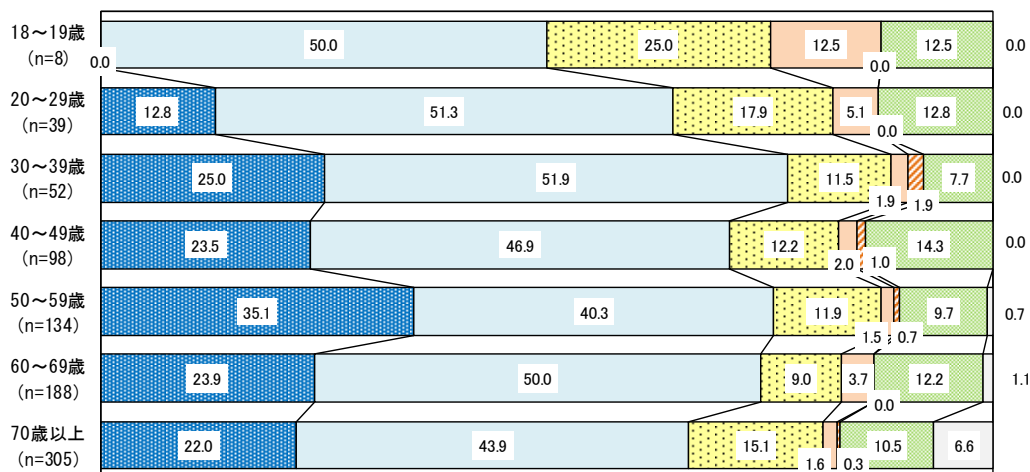
③ 社会慣習（しきたり）について



【性別】



【年齢別】



<全体結果>

社会慣習（しきたり）については、『男性が優遇されている』計の割合が約 7 割となっている。

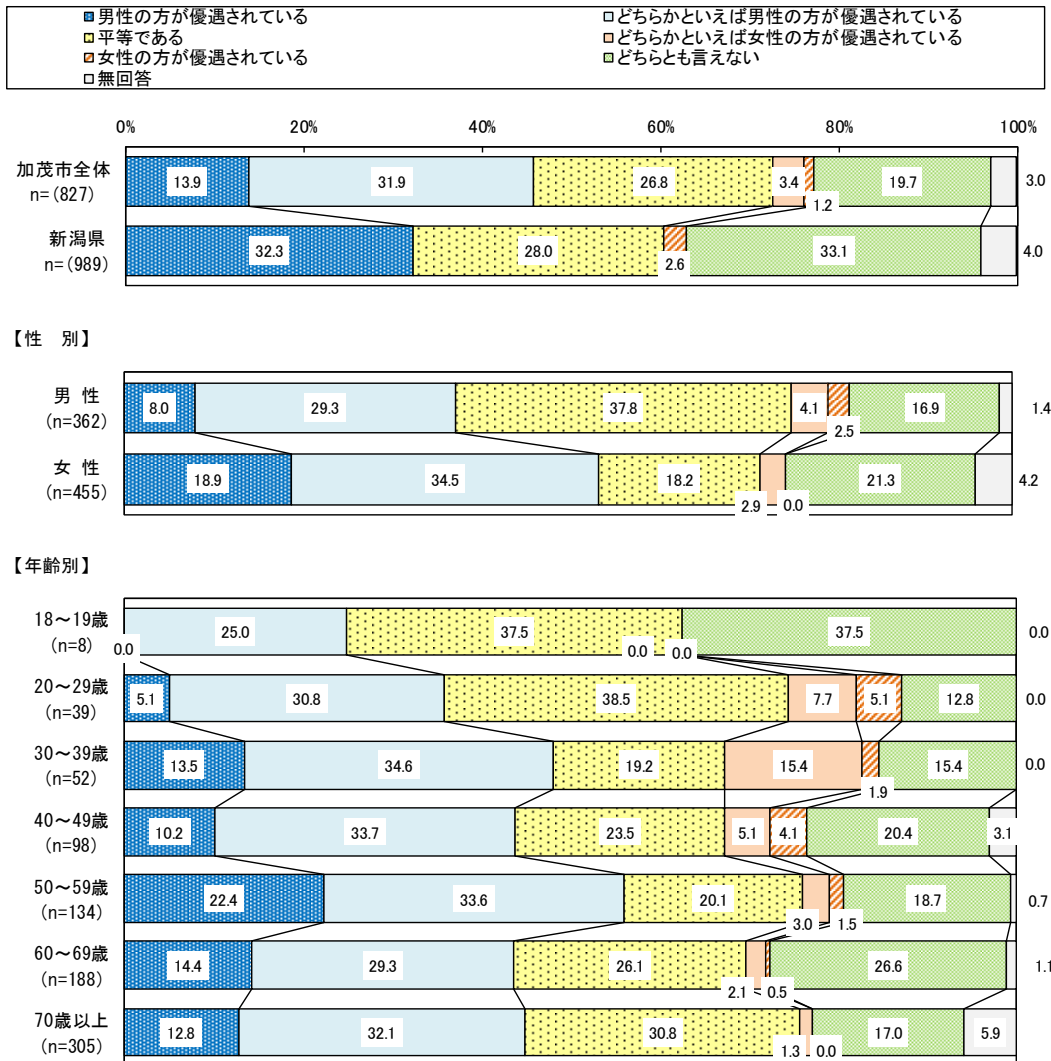
<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が 7 割強で男性よりも高くなっている。一方、「平等である」と感じている人は、男性の方がやや高くなっている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、30 歳代～60 歳代で高く、7 割を超えている。

「平等である」と感じている人は、20 歳代で最も高く、2 割弱となっている。

④ 法律や制度面で



<全体結果>

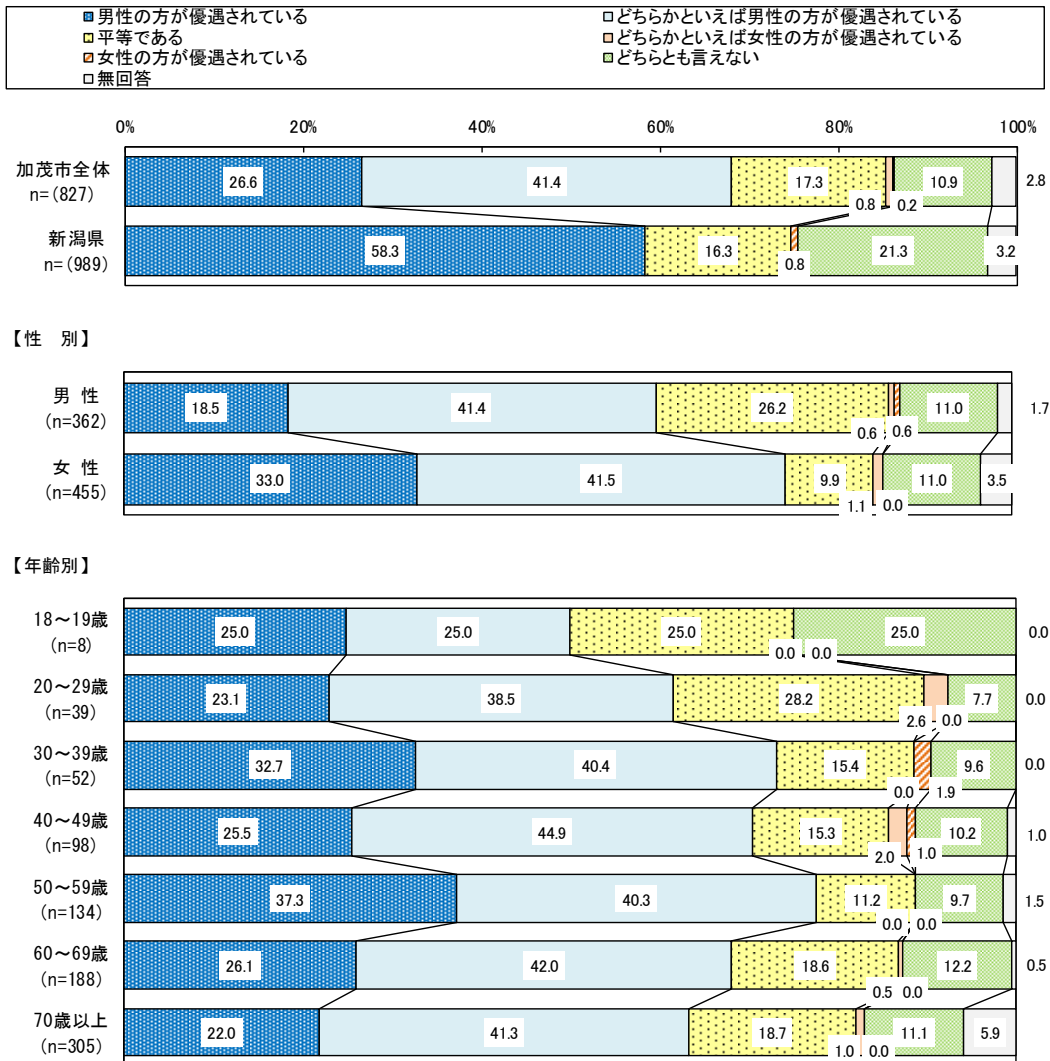
法律や制度面においては、『男性が優遇されている』計の割合が5割弱となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が5割強で男性よりも高くなっている。一方、「平等である」と感じている人は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、50歳代で最も高く、6割弱を占めている。「平等である」と感じている人は、20歳代で最も高く、4割弱を占めている。

⑤ 政治・経済活動の場で



<全体結果>

政治・経済活動においては、『男性が優遇されている』計の割合が高く、7割弱を占めている。

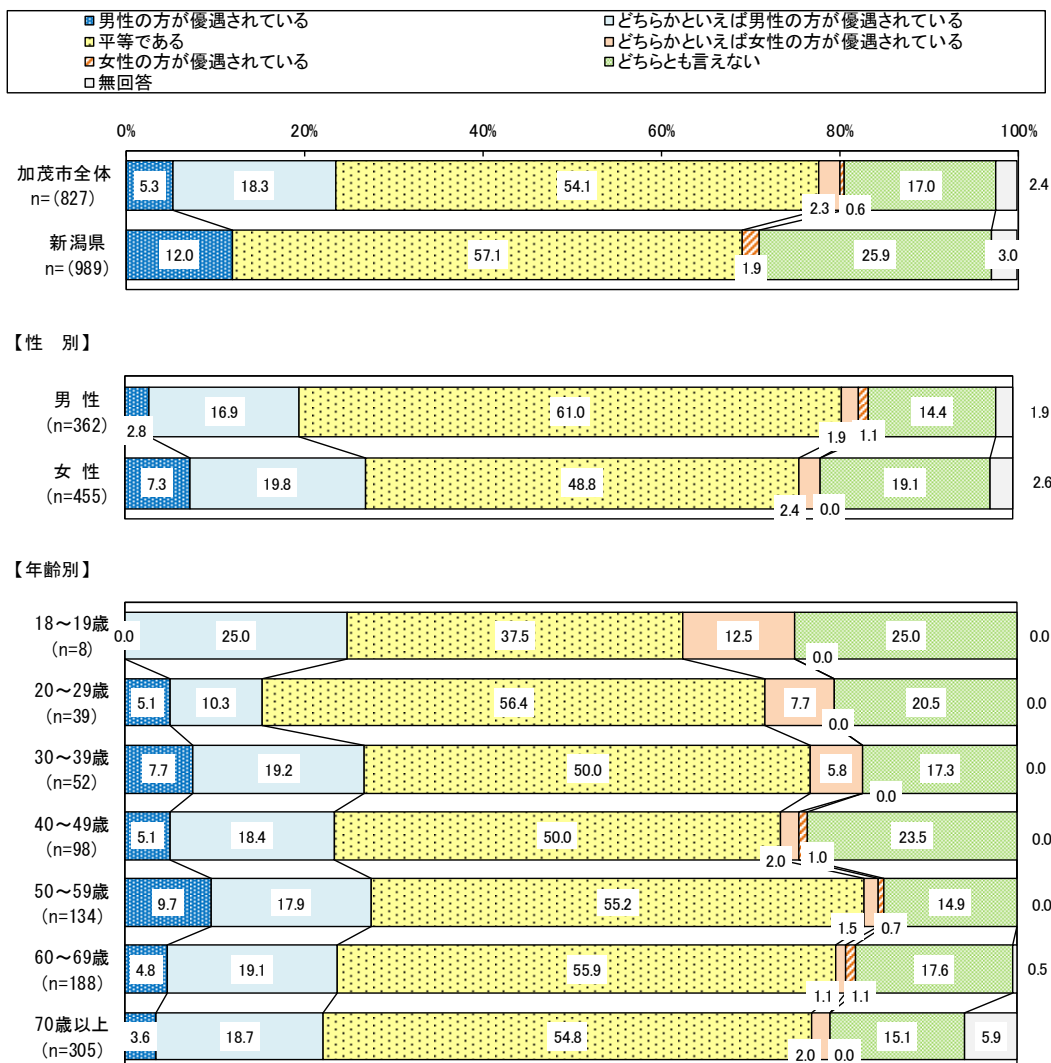
<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が7割強で男性よりも高くなっている。一方、『平等である』と感じている人は、男性が3割弱で、女性を大きく上回っている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、50歳代で最も高く、8割弱となっている。

「平等である」と感じている人は、20歳代で最も高く、3割弱となっている。

⑥ 学校教育の場で



<全体結果>

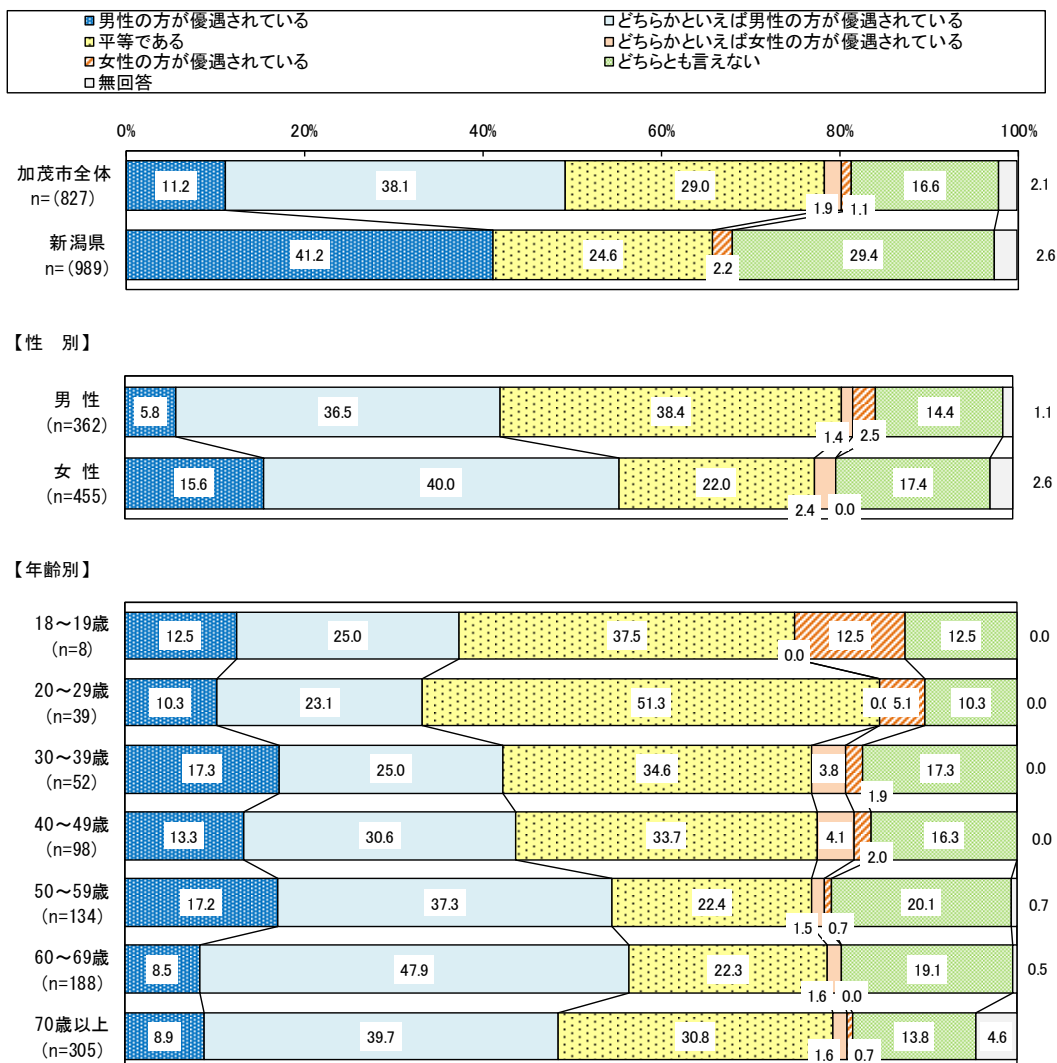
学校教育においては、「平等である」と感じている人が多く、5割強を占めている。
一方、『男性が優遇されている』計の割合は2割台となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が3割弱で男性よりも高く、「平等である」と感じている人は、男性の方が約6割で高くなっている。

年齢別では、「平等である」と感じている人は、全年齢層で高く、5割台となっている。

⑦ 地域社会の中で



<全体結果>

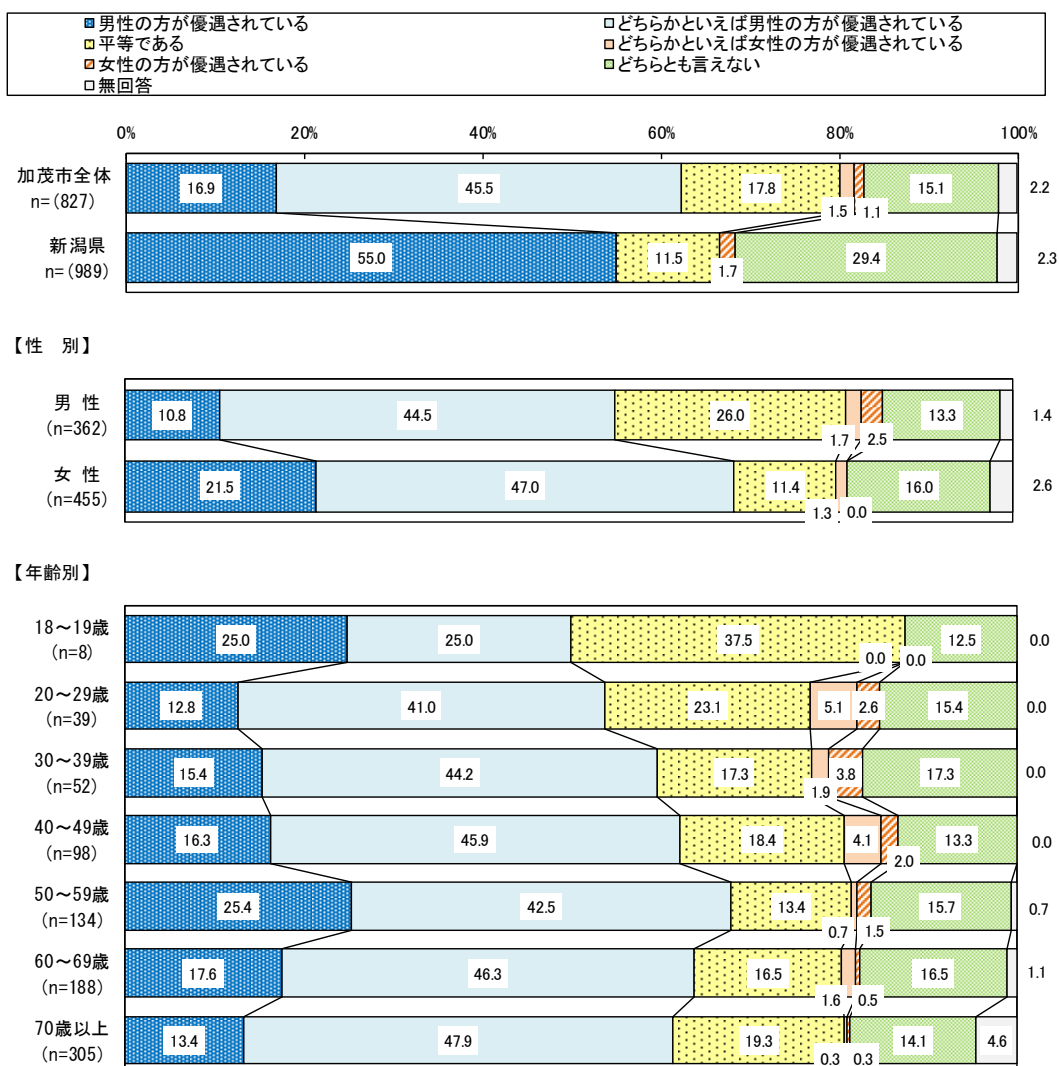
地域社会においては、『男性が優遇されている』計の割合が約5割となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が6割弱と高く、「平等である」と感じている人は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、50歳代と60歳代で高く、5割強となっている。「平等である」と感じている人は、20歳代で最も高く、5割を超えている。

⑧ 社会全体について



<全体結果>

社会全体については、『男性が優遇されている』計の割合が6割強となっている。

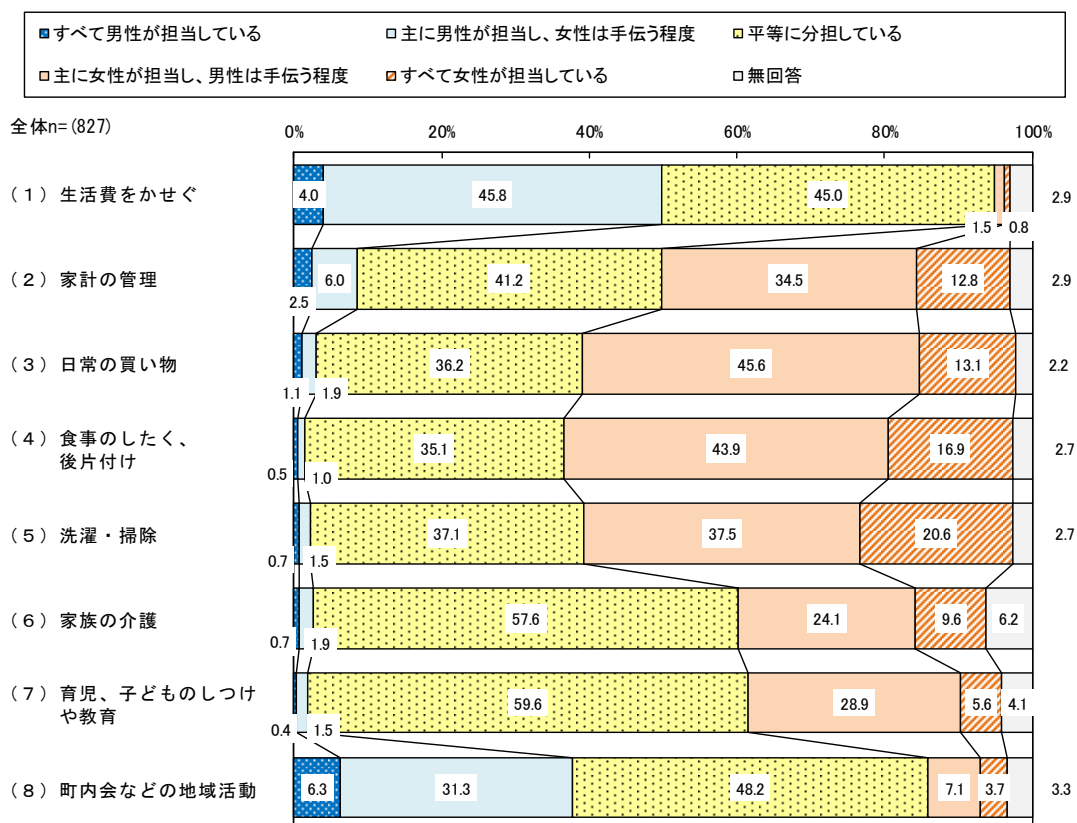
<性別・年齢別>

男女別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が7割弱を占め、男性を上回っている。一方、「平等である」と感じている人は、男性が3割弱を占め、女性を上回っている。

年齢別では、『男性が優遇されている』と感じている人は、50歳代で最も高く、7割弱となっている。「平等である」と感じている人は、20歳代で最も高く、2割を超えている。

(3) 家庭生活の仕事の分担

問3 家庭生活における(1)～(8)の様々な役割分担について、男女のどちらが担うのがよいと思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



<全体結果>

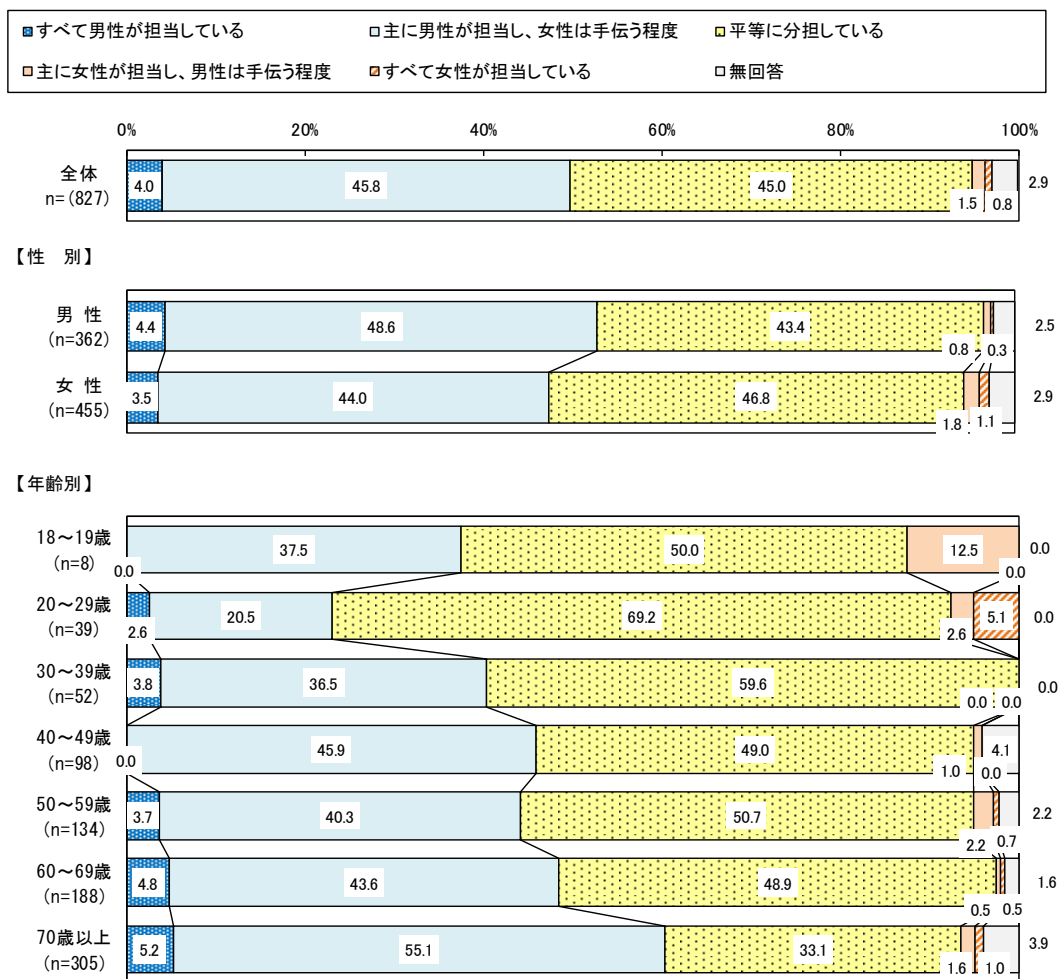
家庭生活における様々な役割分担について8つの項目で調査した。

「すべて男性が担当している」と「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」を合わせた『男性が担当』計の割合は、【(1) 生活費をかせぐ】が最も高く、約5割となっている。【(8) 町内会などの地域活動】が4割弱で続いている。

「すべて女性が担当している」と「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担当』計の割合は、【(4) 食事のしたく、後片付け】が最も高く、約6割となっている。【(3) 日常の買い物】と【(5) 洗濯・掃除】が6割弱、【(2) 家計の管理】が5割弱で続いている。

「平等に分担している」の割合は、【(7) 育児、子どものしつけや教育】と【(6) 家族の介護】が高く、6割弱となっている。次いで【(8) 町内会などの地域活動】、【(1) 生活費をかせぐ】、【(2) 家計の管理】が4割台となっている。

① 生活費をかせぐ



<全体結果>

【生活費をかせぐ】は、『男性が担当』計の割合が、約5割を占めている。『女性が担当』計の割合は1割に満たない。

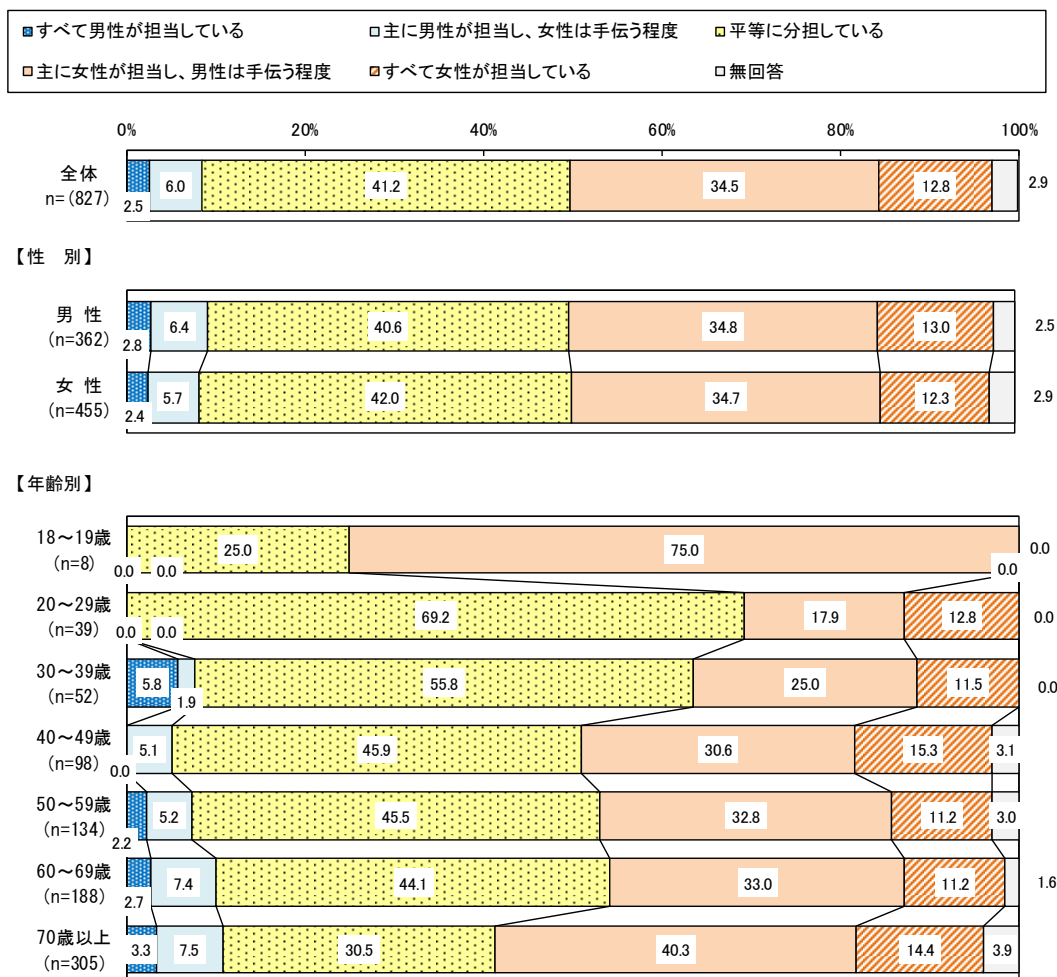
「平等に分担している」の割合は4割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『男性が担当』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『男性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、約6割を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、約7割となっている。

② 家計の管理



<全体結果>

【家計の管理】は、『女性が担当』計の割合が、5割弱を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

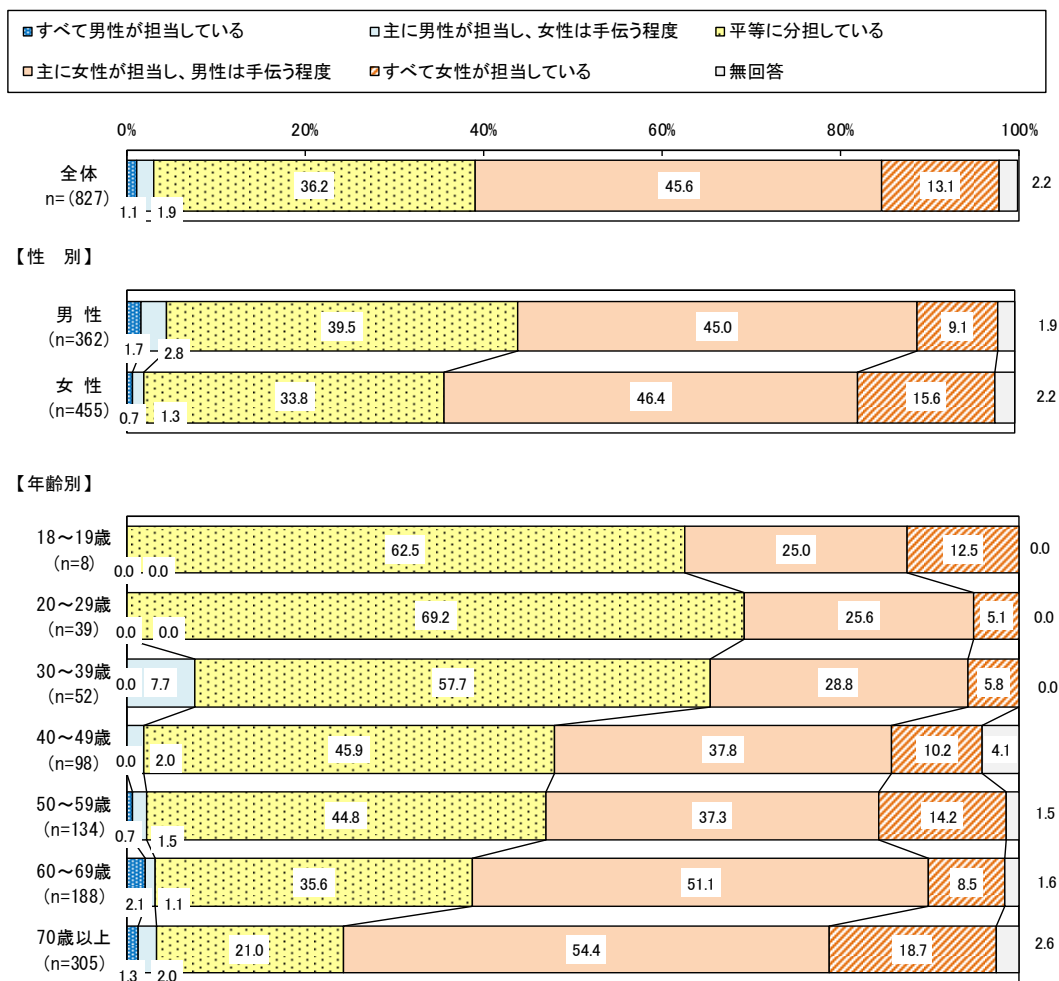
「平等に分担している」の割合は4割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、5割強を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、約7割となっている。

③ 日常の買い物



<全体結果>

【家族の介護】は、『女性が担当』計の割合が、6割弱を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

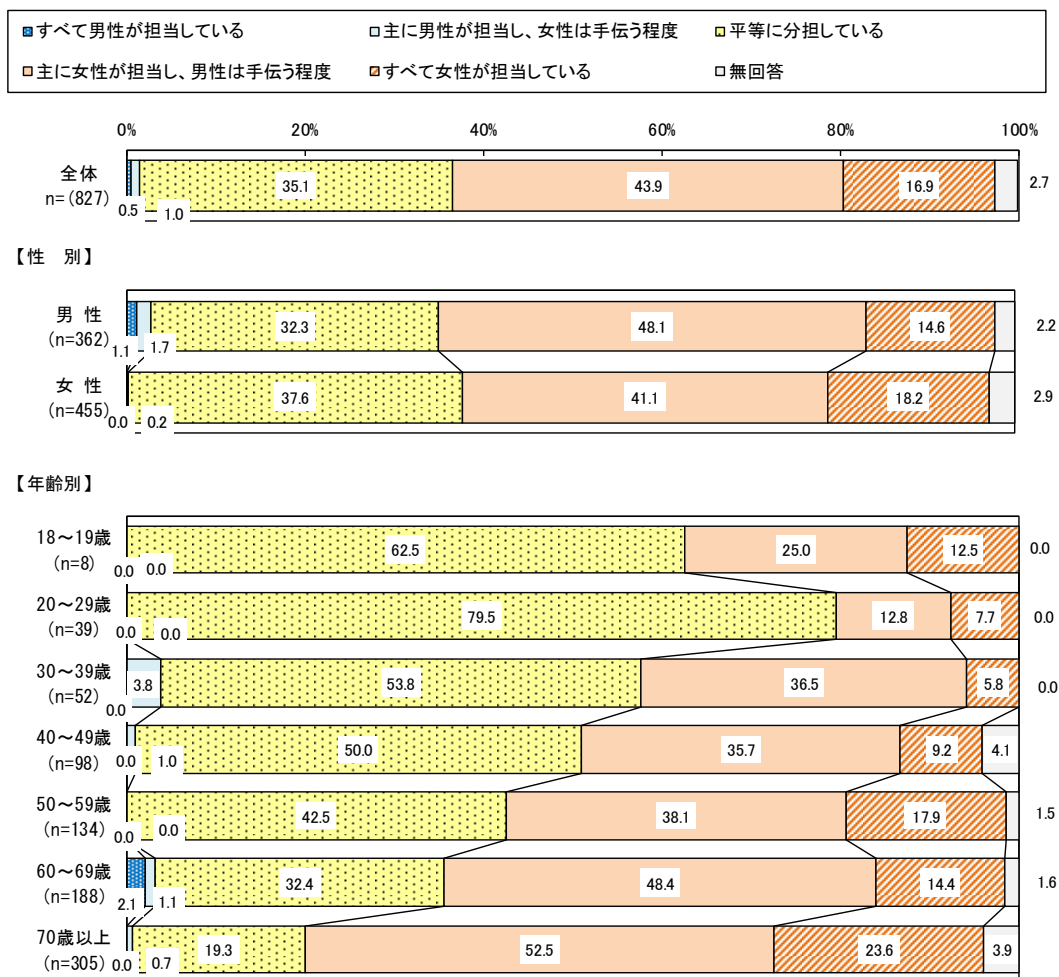
「平等に分担している」の割合は3割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『女性が担当』計の割合は、女性の方が高く、「平等に分担している」の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、7割強を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、約7割となっている。

④ 食事のしたく、後片付け



<全体結果>

【食事のしたく、後片付け】は、『女性が担当』計の割合が、約6割を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

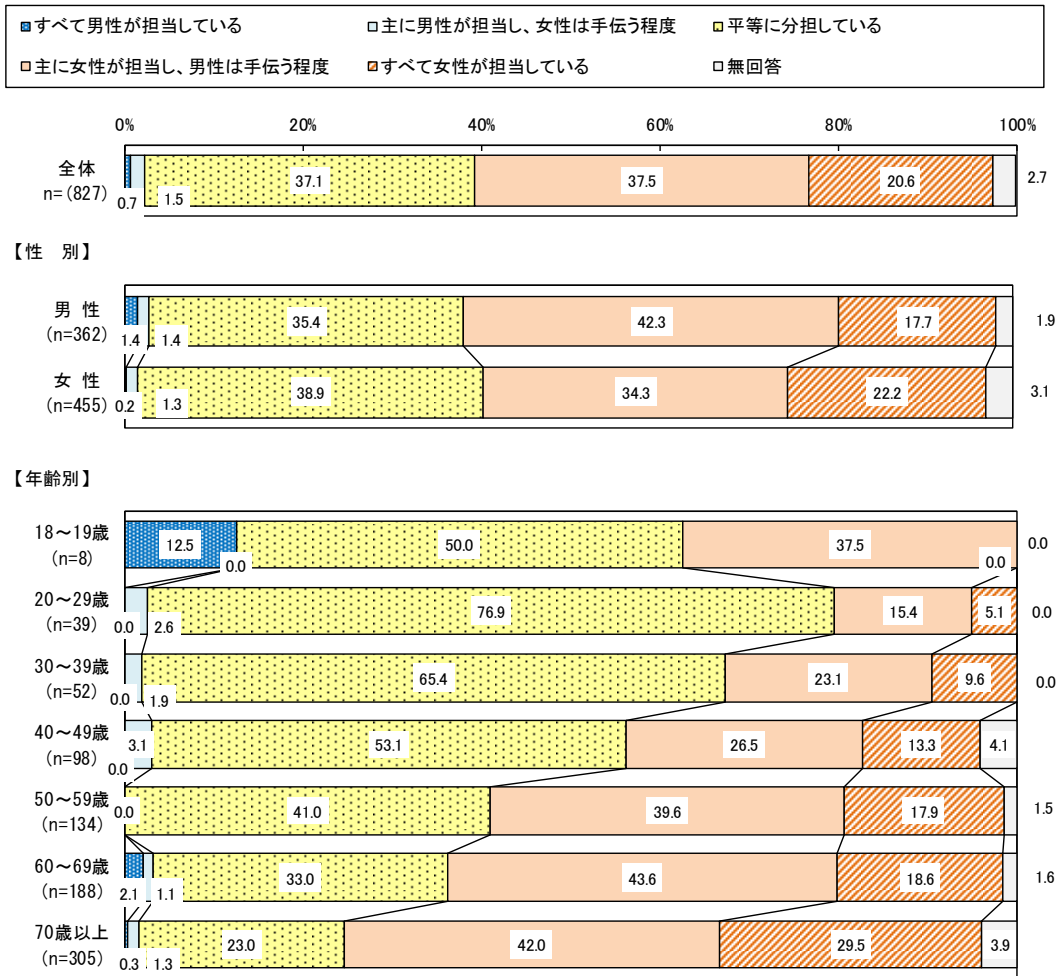
「平等に分担している」の割合は3割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『女性が担当』計の割合は、男性の方がやや高く、「平等に分担している」の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、8割弱を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、約8割となっている。

⑤ 洗濯・掃除



<全体結果>

【洗濯・掃除】は、『女性が担当』計の割合が、6割弱を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

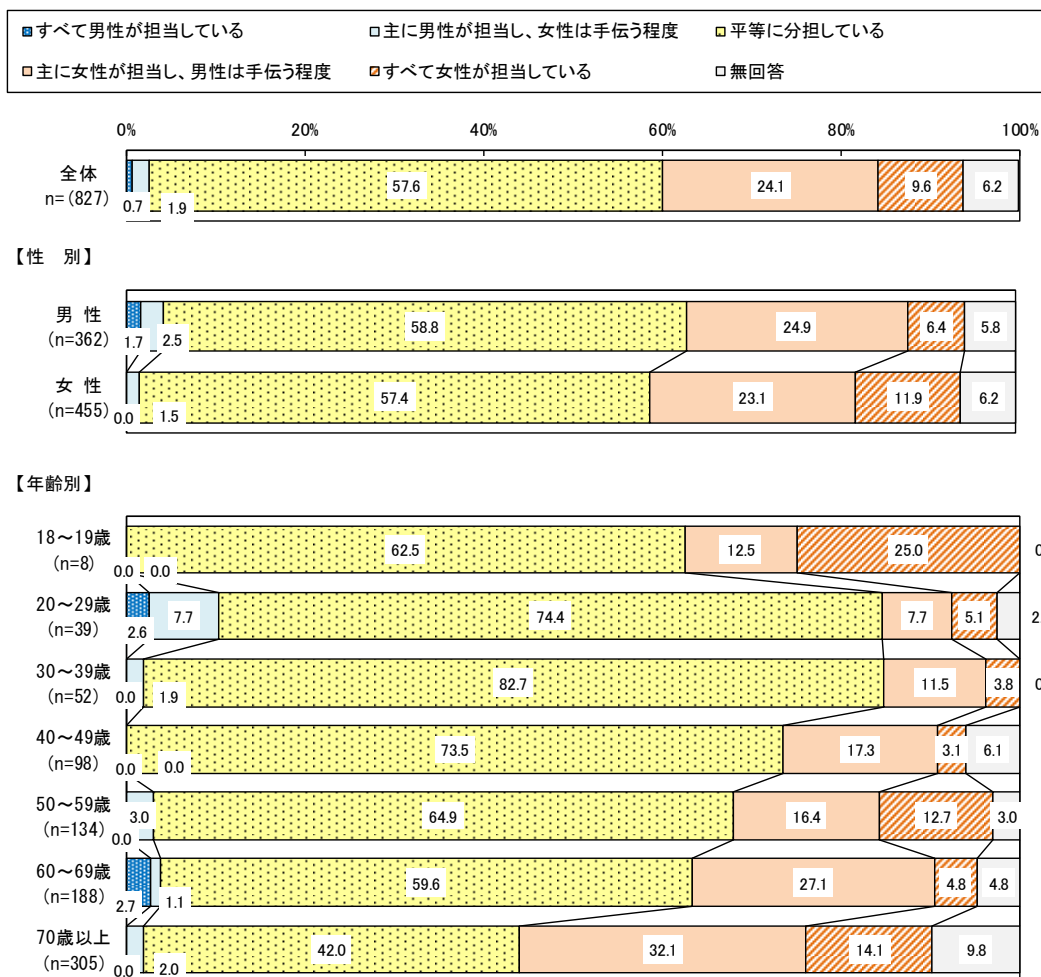
「平等に分担している」の割合は3割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『女性が担当』計の割合は、男性の方がやや高く、「平等に分担している」の割合は、女性の方がやや高くなっている。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、7割強を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、8割弱となっている。

⑥ 家族の介護



<全体結果>

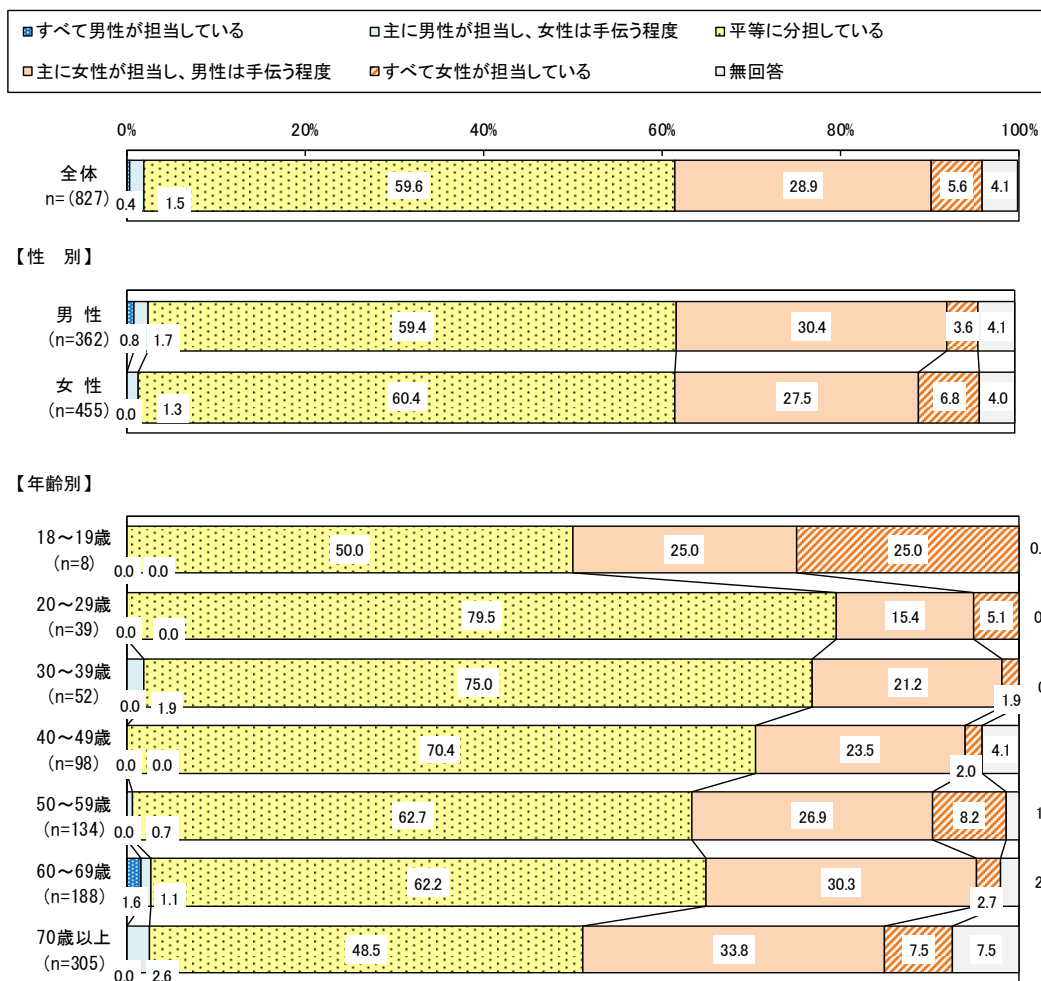
【家族の介護】は、「平等に分担している」の割合が6割弱、『女性が担当』計の割合が、3割強を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

<性別・年齢別>

男女別では、『男性が担当』計の割合は、男性の方がやや高く、『女性が担当』計の割合は、女性の方がやや高くなっている。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、5割弱を占めている。「平等に分担している」の割合は、30歳代で最も高く、8割強となっている。

⑦ 育児、子どものしつけや教育



<全体結果>

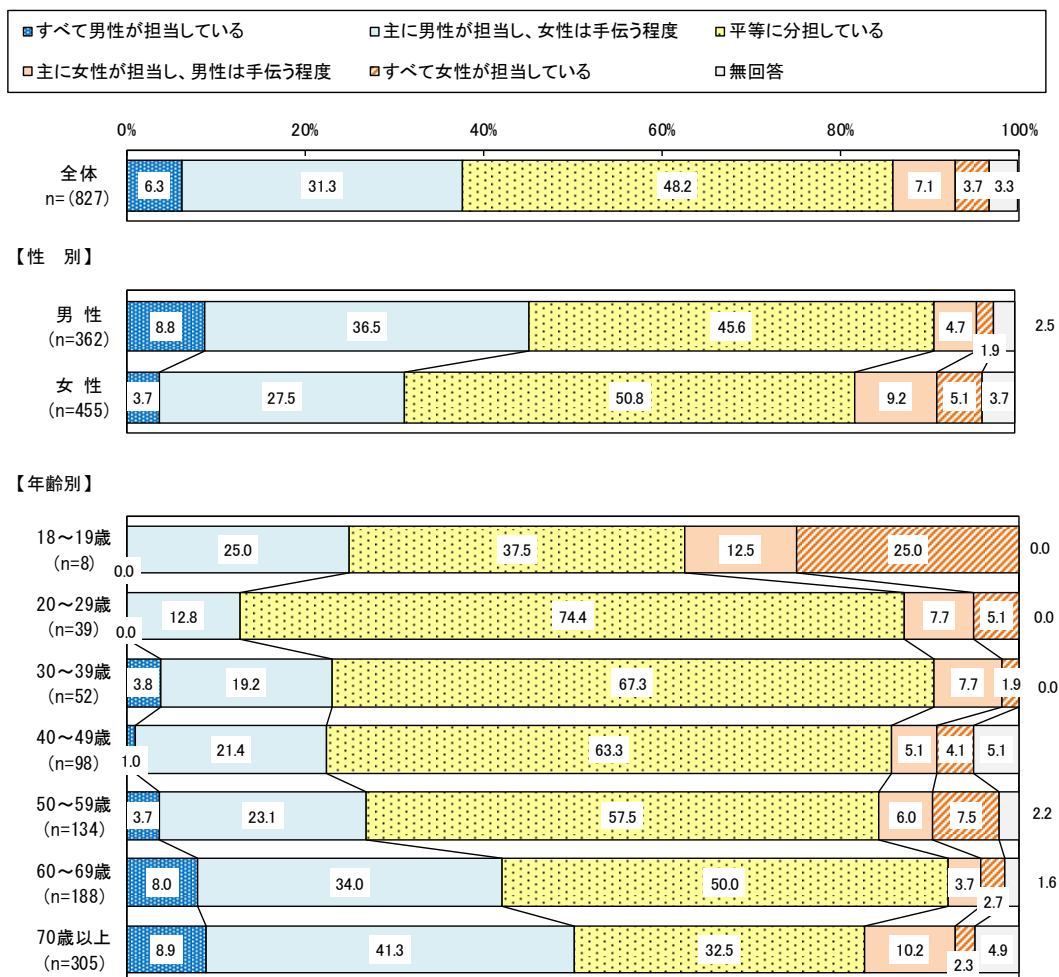
【育児、子どものしつけや教育】は、「平等に分担している」の割合が約6割、『女性が担当』計の割合が、3割強を占めている。『男性が担当』計の割合は1割に満たない。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、4割強を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、約8割となっている。

⑧ 町内会などの地域活動



<全体結果>

【町内会などの地域活動】は、「平等に分担している」の割合が5割弱、『男性が担当』計の割合が、4割弱を占めている。『女性が担当』計の割合は約1割となっている。

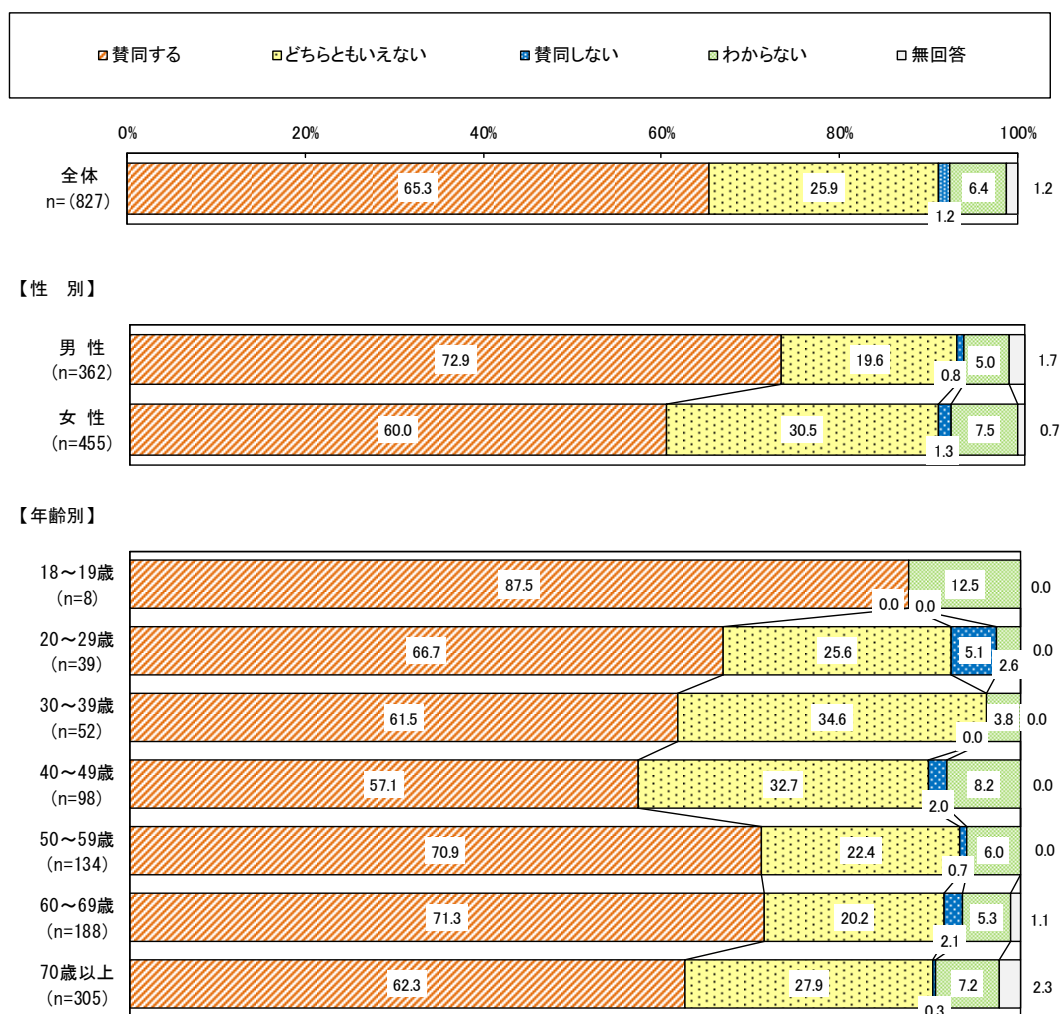
<性別・年齢別>

男女別では、『男性が担当』計の割合は、男性の方が高く、『女性が担当』計の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別では、『女性が担当』計の割合は、70歳以上で最も高く、約5割を占めている。「平等に分担している」の割合は、20歳代で最も高く、7割強となっている。

(4) 女性の社会参加についての考え方

問4 「これからの社会では、女性の社会参加を進めていく必要がある」という考え方がありますが、あなたは、この考え方について、賛同しますか？
1つだけお選びください。



<全体結果>

女性の社会参加についての考え方は、「賛成する」が6割強で最も高く、次いで「どちらともいえない」が2割強で続いている。

<性別・年齢別>

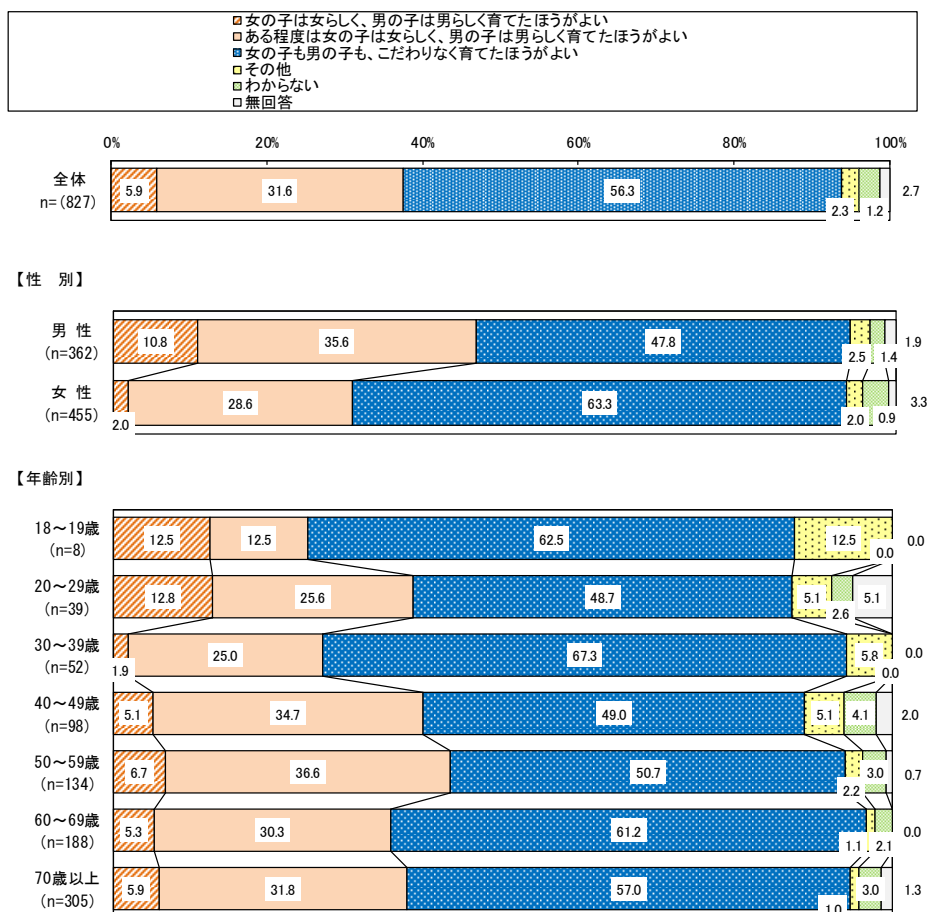
男女別では、「賛成する」の割合が、男性の方が高く、7割を超えている。「どちらともいえない」の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別では、「賛成する」の割合は50歳代と60歳代で高く、7割を超えている。「どちらともいえない」の割合は30歳代と40歳代で高く、3割強となっている。

3 子育てや教育について

(1) 希望する子どもの育て方

問5 あなたは、子どもをどのように育てたほうがよいと思いますか。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。1つだけお選びください。



<全体結果>

希望する子どもの育て方は、「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」が5割強で最も高く、次いで「ある程度は女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が3割強で続いている。

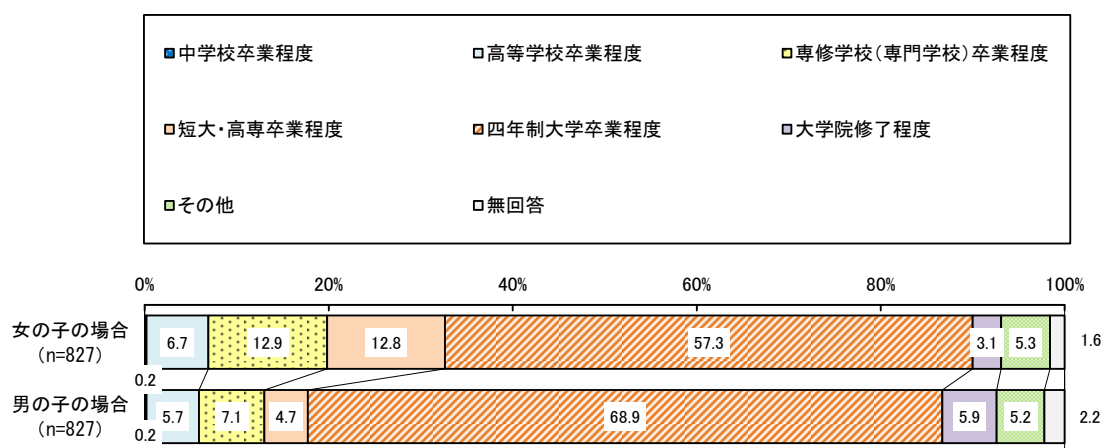
<性別・年齢別>

男女別では、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」と「ある程度は女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」の割合が、男性の方が高く、「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」の割合は、女性の方が男性を大きく上回っている。

年齢別では、「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」の割合は30歳代で最も高く、7割弱となっている。

(2) 子どもに受けさせたい教育程度

問6 あなたが、子どもに受けさせたい（受けさせたかった）教育はどの程度までですか。子どもがいない方も仮にいたと仮定してお答えください。

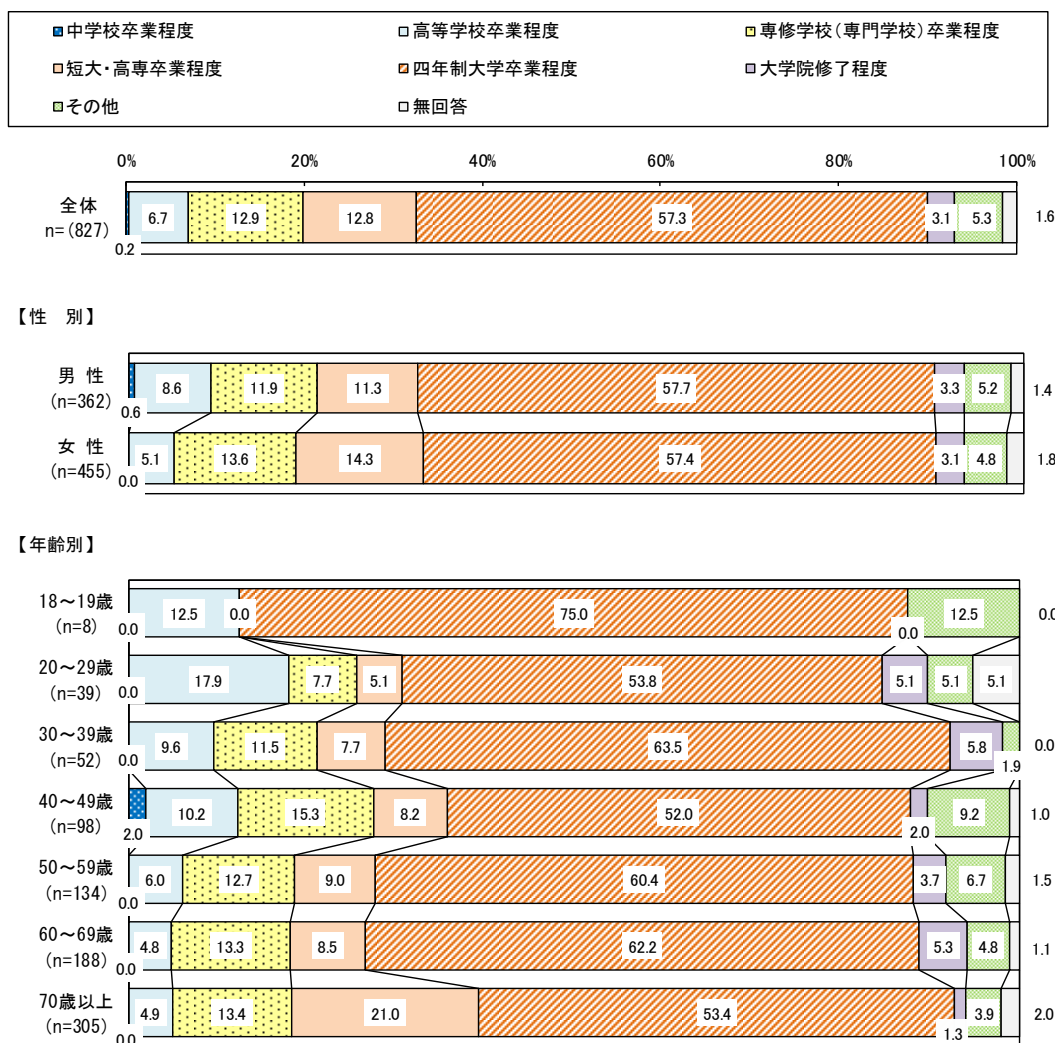


<全体結果>

女の子の場合も、男の子の場合も、「四年制大学卒業程度」の回答者が最も多い。

「専修学校（専門学校）卒業程度」と「短大・高専卒業程度」の割合は、女の子の場合が高く、「四年制大学卒業程度」の割合は、男の子の場合が女の子の場合を大きく上回っている。

① 女の子の場合



<全体結果>

女の子の場合は、「四年制大学卒業程度」の割合が6割弱を占めている。

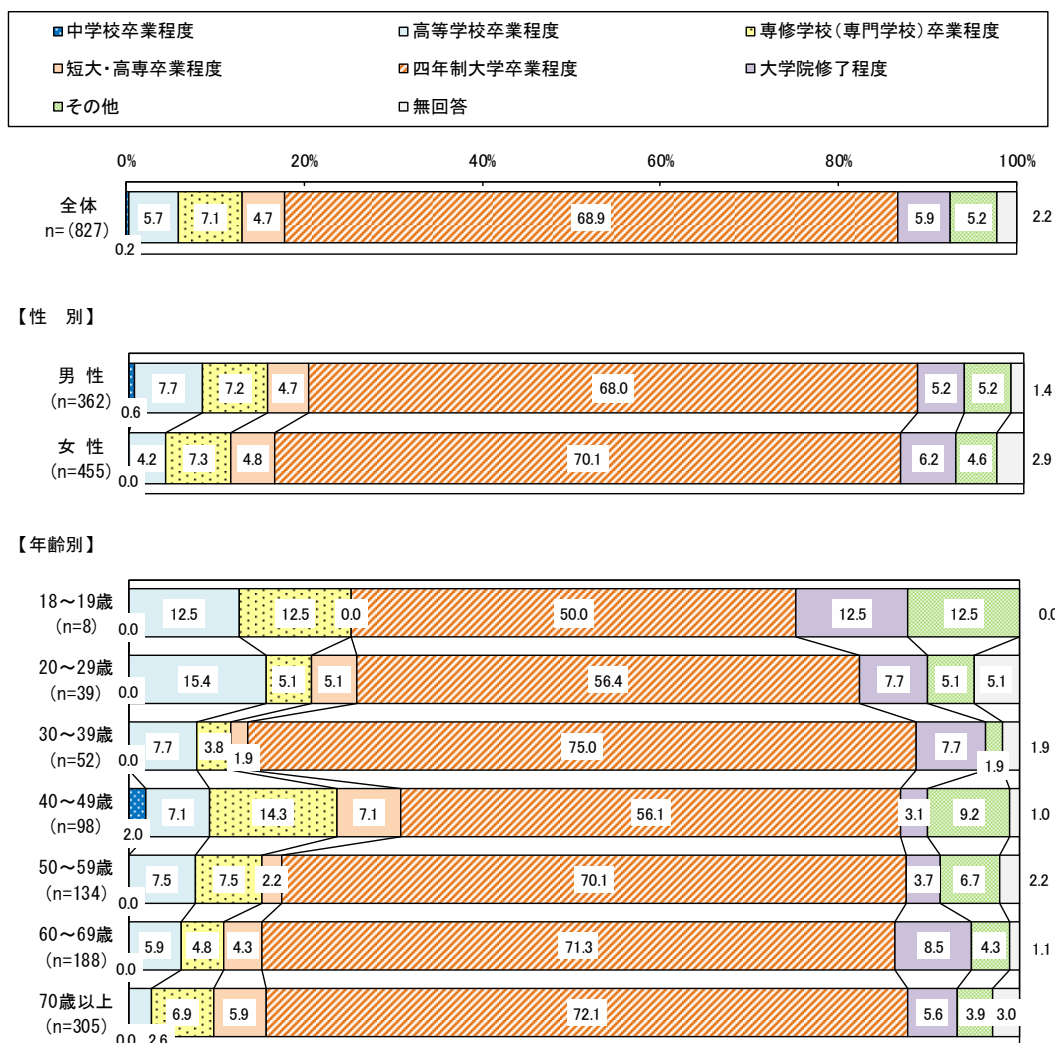
「専修学校（専門学校）卒業程度」と「短大・高専卒業程度」の割合が1割台が続いている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、「四年制大学卒業程度」の割合は30歳代と50歳代と60歳代で高く、6割を超えている。

② 男子の場合



<全体結果>

男子の場合は、「四年制大学卒業程度」の割合が7割弱を占めている。
次いで「専修学校(専門学校)卒業程度」の割合が1割未満で続いている。

<性別・年齢別>

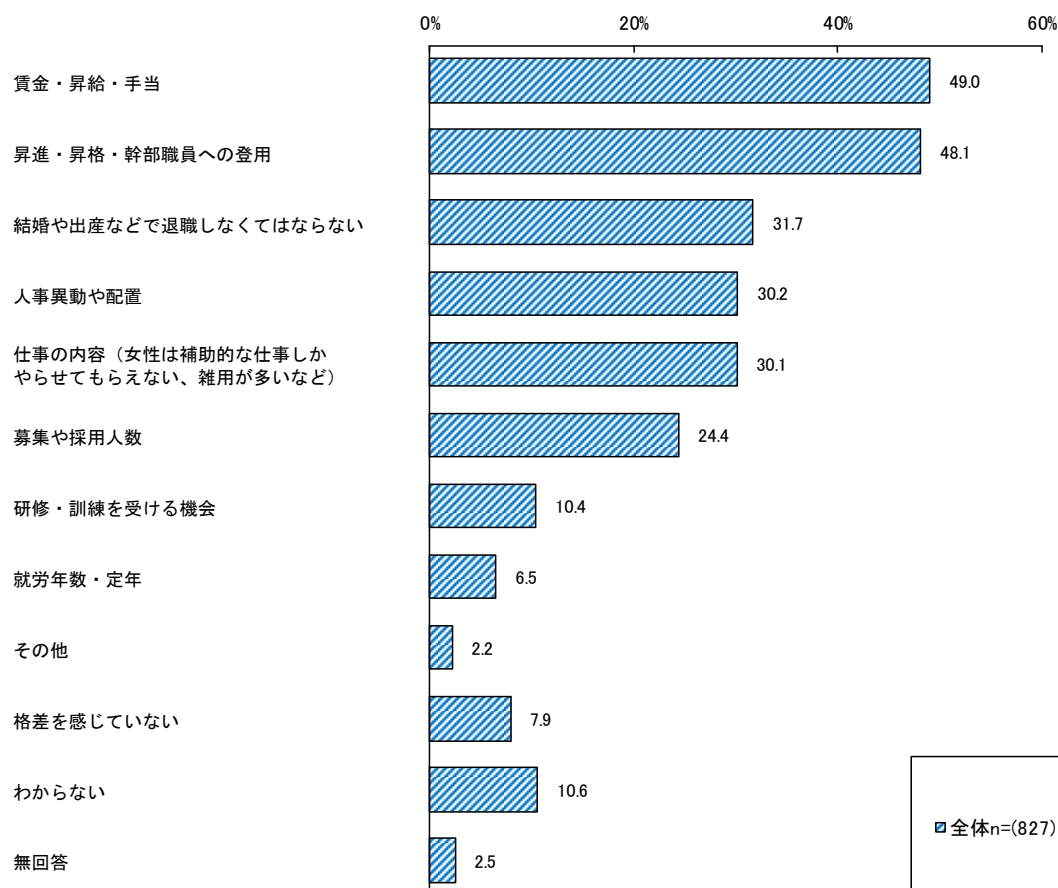
男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、「四年制大学卒業程度」の割合は30歳代と50歳代以上で高く、7割を超えている。

4 男女の職業生活に対する考え方について

(1) 職場における男女間の格差

問7 女性の職場環境について、仕事の内容や待遇面で、性別による格差を感じていることはどのようなことですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



<全体結果>

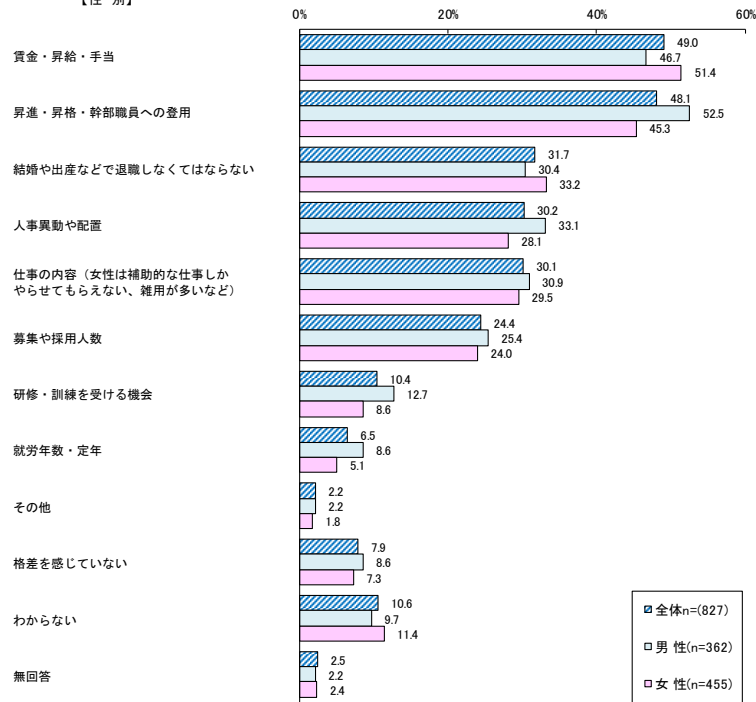
職場において男女間の格差を感じることは、「賃金・昇給・手当」と「昇進・昇格・幹部職員への登用」が多く、5割弱となっている。以下、「結婚や出産などで退職しなくてはならない」、「人事異動や配置」、「仕事の内容（女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど）」が3割台、「募集や採用人数」が2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、男性は「人事異動や配置」、「昇進・昇格・幹部職員への登用」の割合などが女性より高くなっているが、女性は「賃金・昇給・手当」の割合などが男性より高くなっている。

年齢別では、30歳代～60歳代では「募集や採用人数」、60歳代では「昇進・昇格・幹部職員への登用」、「賃金・昇給・手当」と「仕事の内容（女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど）」、20～40歳代と60歳代では「結婚や出産などで退職しなくてはならない」の割合が高くなっている。

【性別】

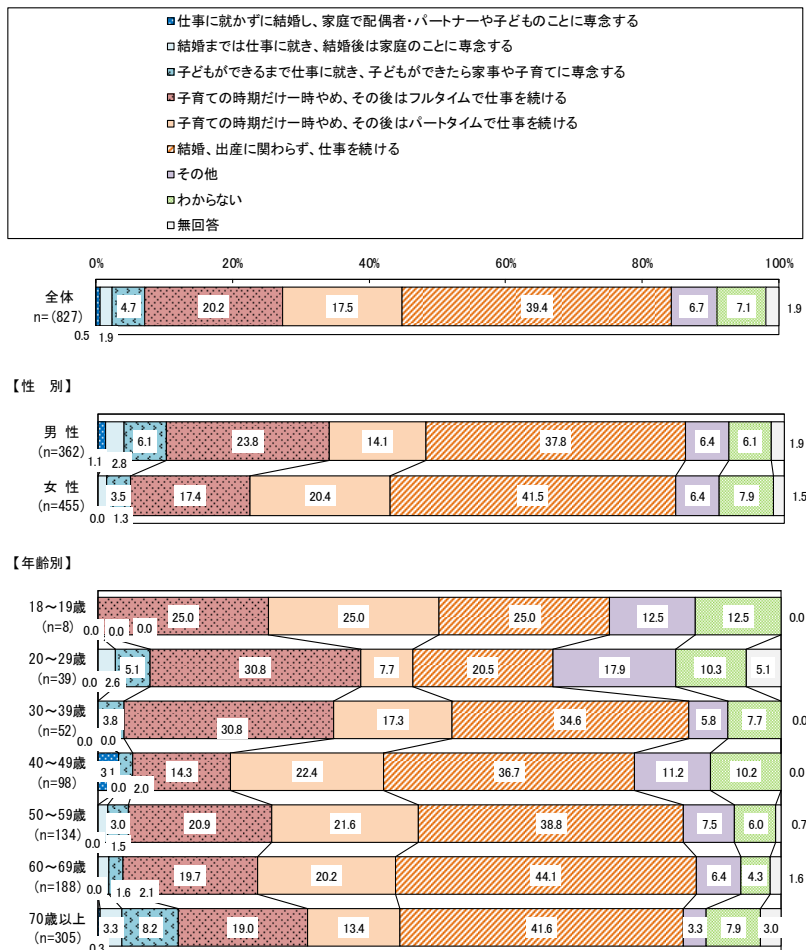


性別	年齢	上段: 回答者数 / 下段: 割合 (%)							
		合計	募集や採用人数	人事異動や配置	昇進・昇格・幹部職員への登用	賞金・昇給・手当	仕事の内容（女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど）	就労年数・定年	結婚や出産などで退職しなくてはならない
全体		827	202	250	398	405	249	54	262
男性		362	92	120	190	169	112	31	110
女性		455	109	128	206	234	134	23	151
男性、女性のどちらでもない		1	0	0	0	0	0	0	0
無回答		9	1	2	2	2	3	0	1
18～19歳		8	3	4	4	2	3	0	3
20～29歳		39	5	9	8	9	7	2	17
30～39歳		52	15	14	26	25	15	3	22
40～49歳		98	28	31	47	43	28	2	40
50～59歳		134	41	36	71	66	36	7	23
60～69歳		188	55	63	109	105	69	15	73
70歳以上		305	55	94	133	155	91	25	83
無回答		3	0	0	0	0	0	0	0

性別	年齢	下段: 割合 (%)				
		研修・訓練を受ける機会	その他	格差を感じていない	わからない	無回答
全体		8.6	2.2	7.9	10.6	2.5
男性		4.6	2.2	8.6	9.7	2.2
女性		3.9	1.8	7.3	11.4	2.4
男性、女性のどちらでもない		0	0	1	0	0
無回答		1	2	0	1	2
18～19歳		0	0	2	0	0
20～29歳		0	0	2.5	0	0
30～39歳		0	5.1	12.8	17.9	2.6
40～49歳		1.9	0	11.5	7.7	0
50～59歳		11.2	4.1	10.2	6.1	0
60～69歳		6.7	2.2	11.2	9.0	0
70歳以上		14.4	1.6	4.9	14.4	5.9
無回答		33.3	33.3	0	0	33.3

(2) 女性の就労と結婚、子育てとの関わりについての考え

問8 あなたは、女性の就労と結婚、子育てとの関わりについて、どのように思いますか。
1つだけお選びください。



<全体結果>

女性の就労と結婚、子育てとの関わりについての考えは、「結婚、出産に関わらず、仕事続ける」が最も高く、約4割になっている。次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続ける」が約2割、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続ける」が2割弱となっている。

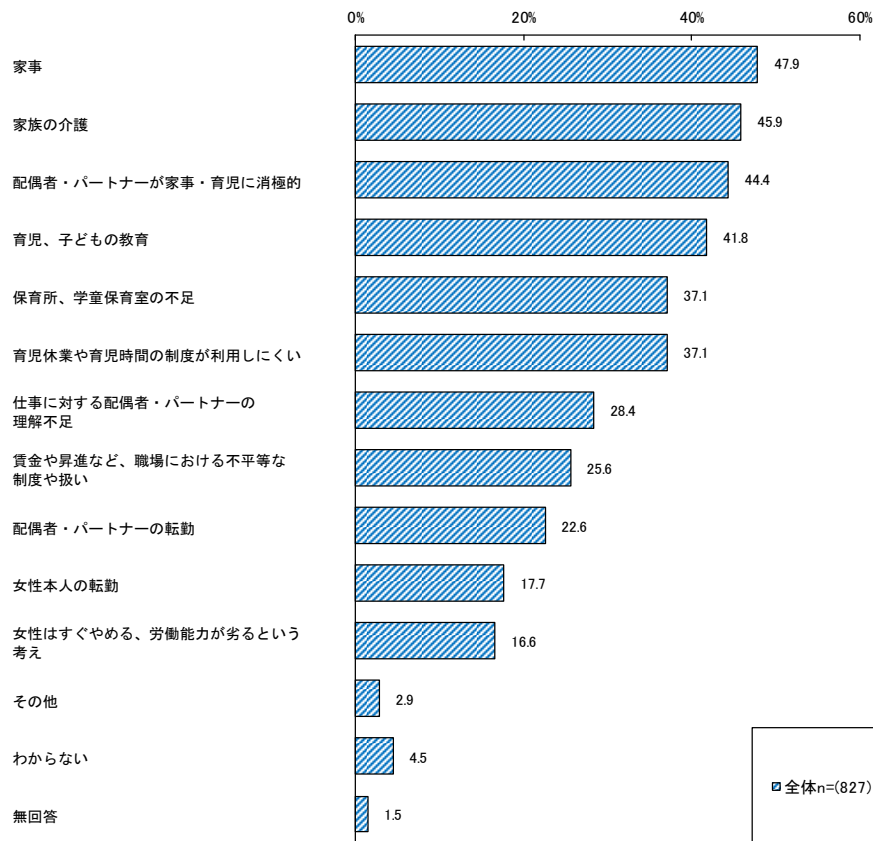
<年齢別>

男女別では、男性は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続ける」の割合が女性より高くなっているが、女性は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続ける」の割合が男性より高くなっている。

年齢別では、20歳代と30歳代では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続ける」、60歳代以上では「結婚、出産に関わらず、仕事続ける」の割合が高くなっている。

(3) 女性が働き続ける上で困難だと思うこと

問9 あなたは、女性が働き続けるためには、どのような困難があると思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



<全体結果>

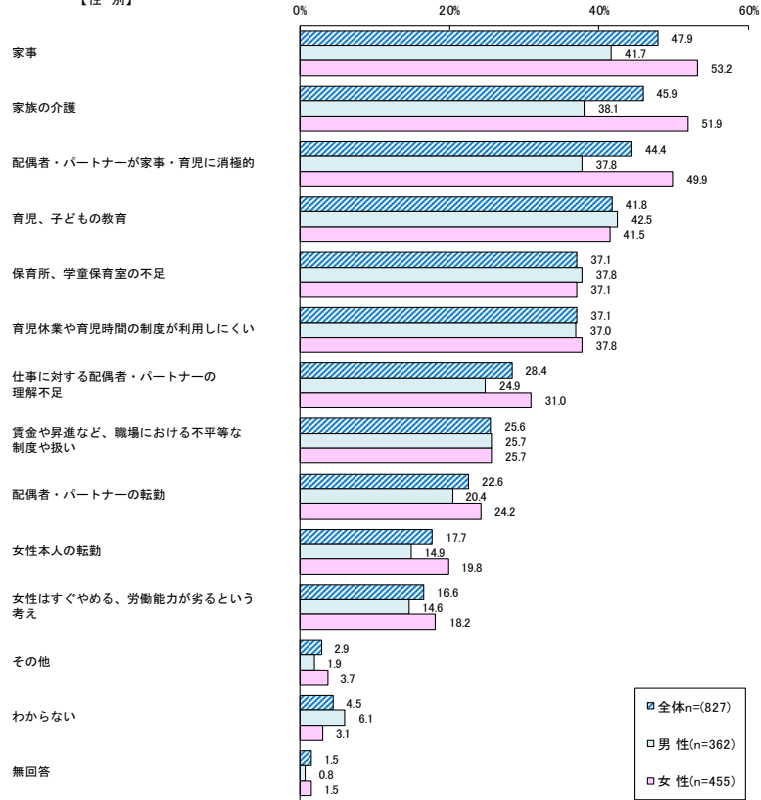
女性が働き続ける上で困難だと思うことは、「家事」が5割弱で最も高く、次いで「家族の介護」、「配偶者・パートナーが家事・育児に消極的」、「育児、子どもの教育」が4割台、「保育所、学童保育室の不足」、「育児休業や育児時間の制度が利用しにくい」が3割台で続いている。

<年齢別>

男女別では、女性は「家事」、「女性本人の転勤」、「配偶者・パートナーが家事・育児に消極的」、「家族の介護」、「仕事に対する配偶者・パートナーの理解不足」の割合などが男性より高くなっている。

年齢別では、20歳代と30歳代では「保育所、学童保育室の不足」、「育児、子どもの教育」、「育児休業や育児時間の制度が利用しにくい」、20歳代では「配偶者・パートナーの転勤」、30歳代では「女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え」、50歳代では「配偶者・パートナーが家事・育児に消極的」、60歳代では「家族の介護」、「賃金や昇進など、職場における不平等な制度や扱い」の割合が高くなっている。

【性別】



全体n(=827)
 男性(n=362)
 女性(n=455)

上段：回答者数 / 下段：割合 (%)

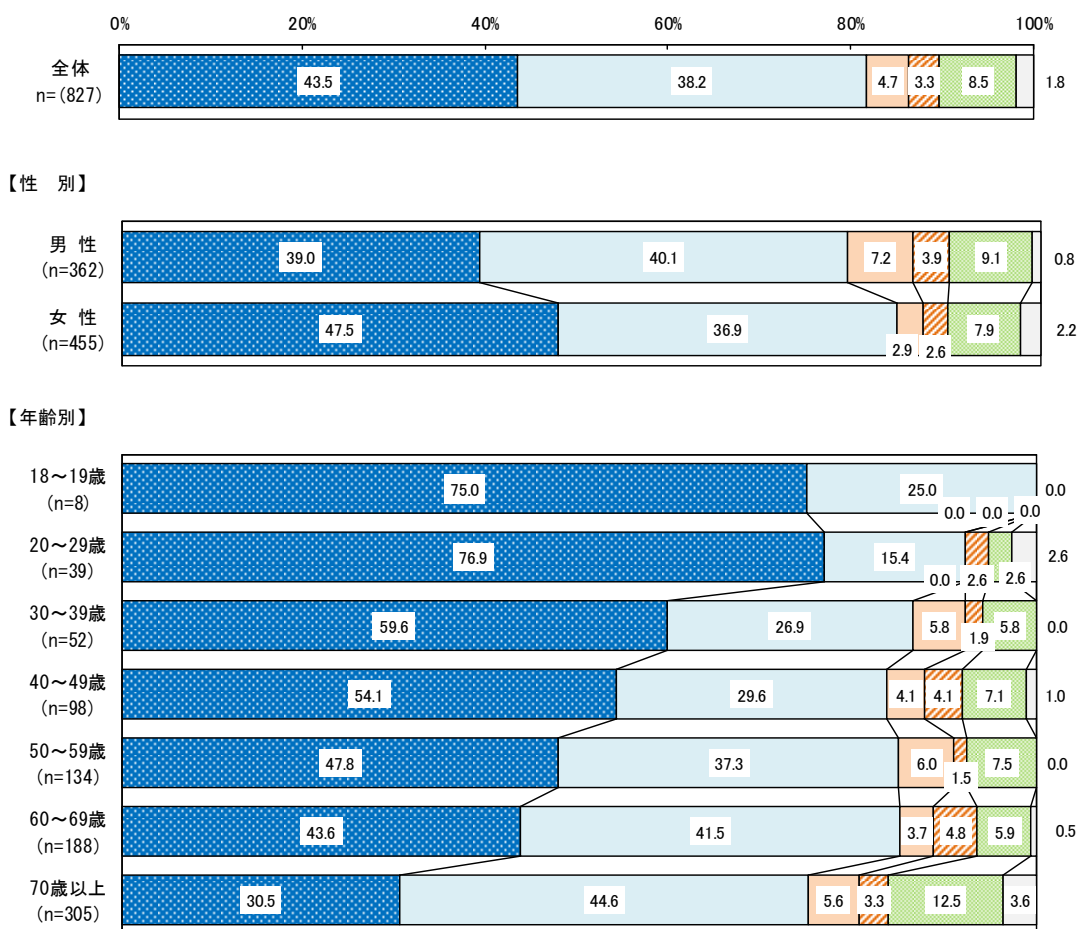
	合計	保育所、学童保育室の不足	家事	育児、子どもの教育	配偶者・パートナーの転勤	女性本人の転勤	配偶者・パートナーが家事・育児に消極的	家族の介護
全体	827	307	396	346	187	146	367	380
男性	362	137	151	154	74	54	137	138
女性	455	169	242	189	110	90	227	236
男性、女性のどちらでもない	1	0	1	0	0	0	1	0
無回答	9	1	2	3	3	2	2	5
18～19歳	8	3	4	4	1	0	7	2
20～29歳	39	22	20	22	13	7	18	15
30～39歳	52	30	24	28	10	4	26	18
40～49歳	98	43	54	48	18	11	41	38
50～59歳	134	51	65	64	30	21	75	65
60～69歳	188	79	96	74	47	35	92	104
70歳以上	305	78	133	106	68	67	107	137
無回答	3	1	0	0	0	1	1	1

	合計	仕事に対する配偶者・パートナーの理解不足	女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え	賃金や昇進など、職場における不平等な制度や扱い	育児休業や育児時間の制度が利用しにくい	その他	わからない	無回答
全体	827	235	137	212	307	24	37	12
男性	362	90	53	93	134	7	22	3
女性	455	141	83	117	172	17	14	7
男性、女性のどちらでもない	1	0	0	0	0	0	0	0
無回答	9	3	1	2	2	0	1	2
18～19歳	8	4	2	2	5	0	1	0
20～29歳	39	14	7	6	19	3	0	1
30～39歳	52	12	15	14	26	4	2	0
40～49歳	98	28	16	25	42	6	1	1
50～59歳	134	44	23	33	40	1	6	0
60～69歳	188	63	42	57	78	3	3	0
70歳以上	305	70	32	75	97	7	24	3
無回答	3	0	0	0	0	0	0	1

(4) 育児休業や介護休業の取得について

問 10 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。
1つだけお選びください。

積極的に取得すべきである
 どちらかといえば取得すべきである
 どちらかといえば取得すべきでない
 取得しないほうがよい
 わからない
 無回答



<全体結果>

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「積極的に取得すべきである」が4割強で最も多く、次いで「どちらかといえば取得すべきである」が4割弱となっている。

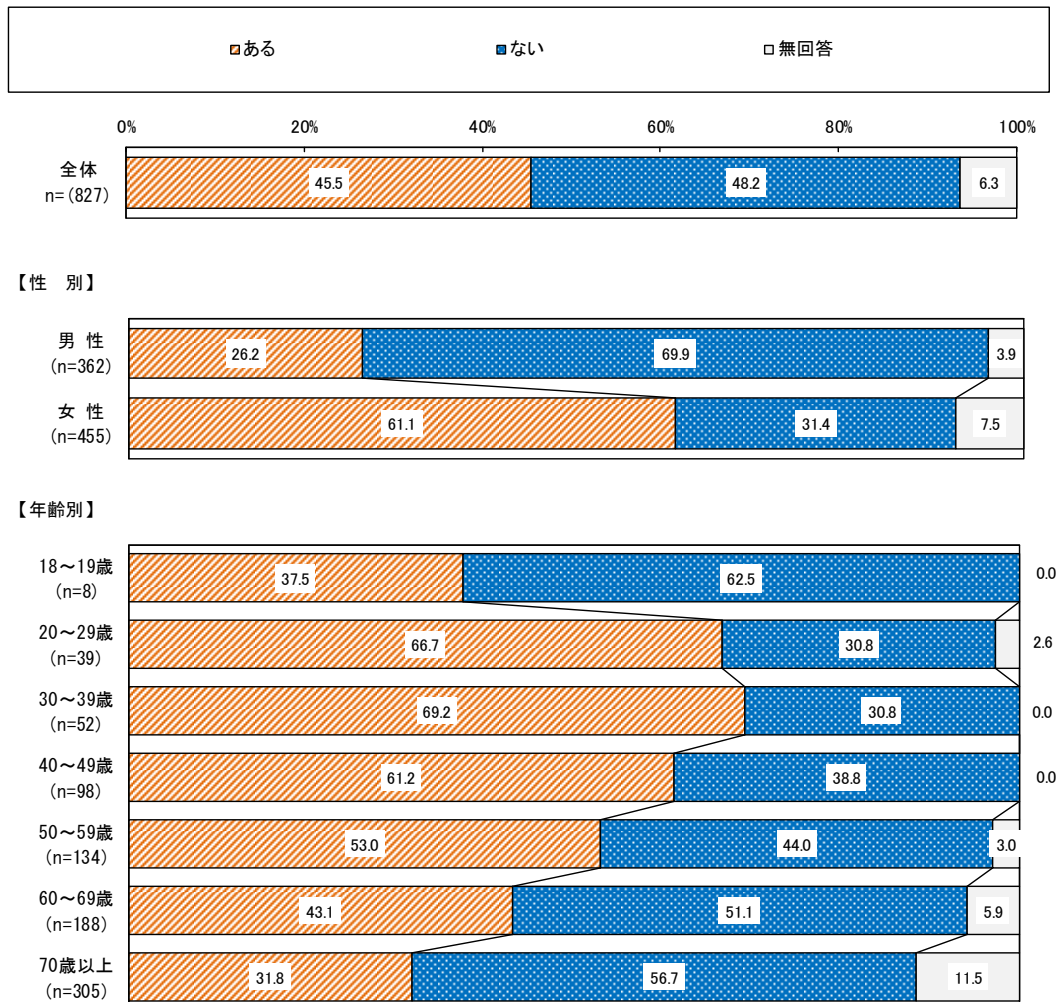
<性別・年齢別>

男女別では、「積極的に取得すべきである」の割合は、男性が女性を8.5ポイント下回っている。

年齢別では、20歳代では「積極的に取得すべきである」、60歳代以上では「どちらかといえば取得すべきである」の割合が高くなっている。

(5) 育児休業の取得希望について

問 11 あなたは、育児休業を取得したいと思ったことはありますか。



<全体結果>

育児休業の取得希望については、「ある」の割合と、「ない」の割合が拮抗している。

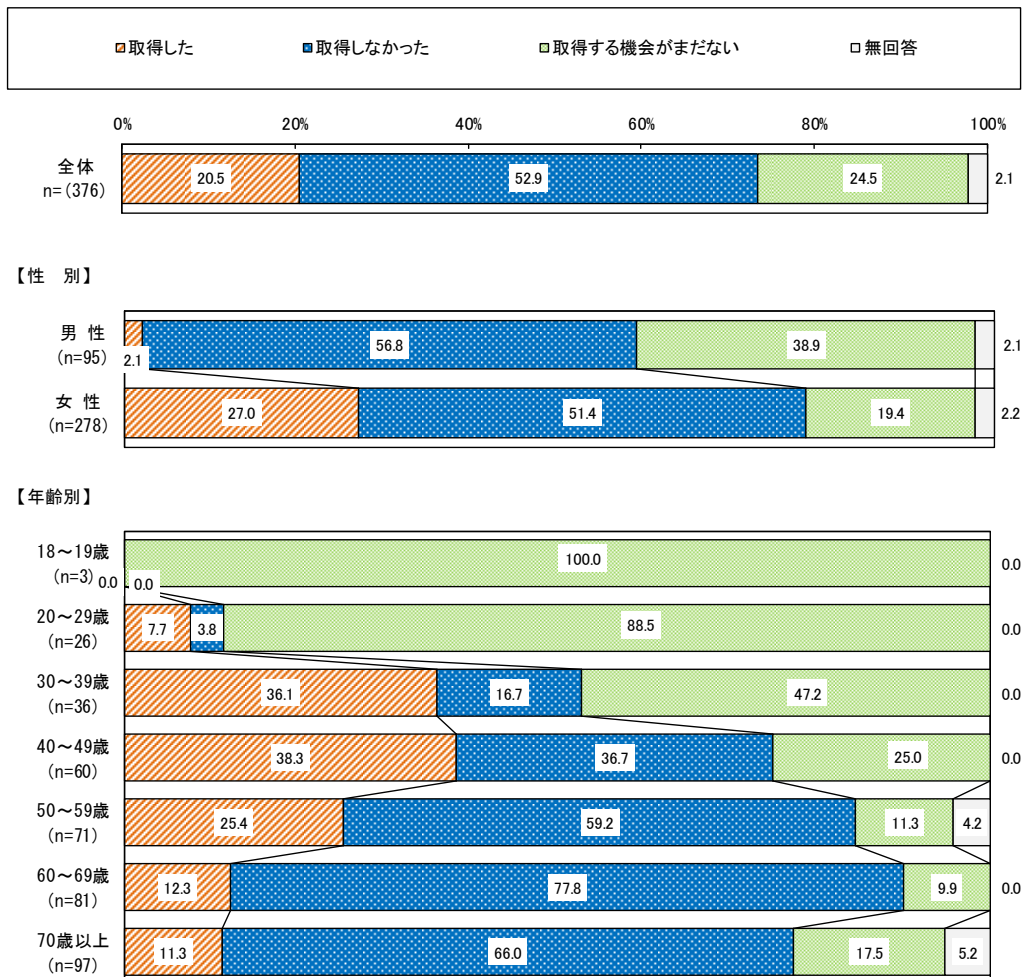
<性別・年齢別>

男女別では、男性は育児休業を取得したいと思ったことが「ない」の割合の方が高く、約7割となっている。一方、女性は「ある」の割合の方が高く、6割を超えている。

年齢別では、20歳代～40歳代では、育児休業を取得したいと思ったことが「ある」の割合が6割以上となっており、一方、60歳代以上では、「ない」の割合が半数以上となっている。

(6) 育児休業の取得状況

問 12 [問 11 で「1. ある」と答えた方にお伺いします]
実際に育児休業を取得しましたか。



<全体結果>

実際に育児休業を「取得した」割合は約 2 割にとどまり、一方、「取得しなかった」の割合は、約半数を占めている。また、「取得する機会がまだない」の割合は、2 割強となっている。

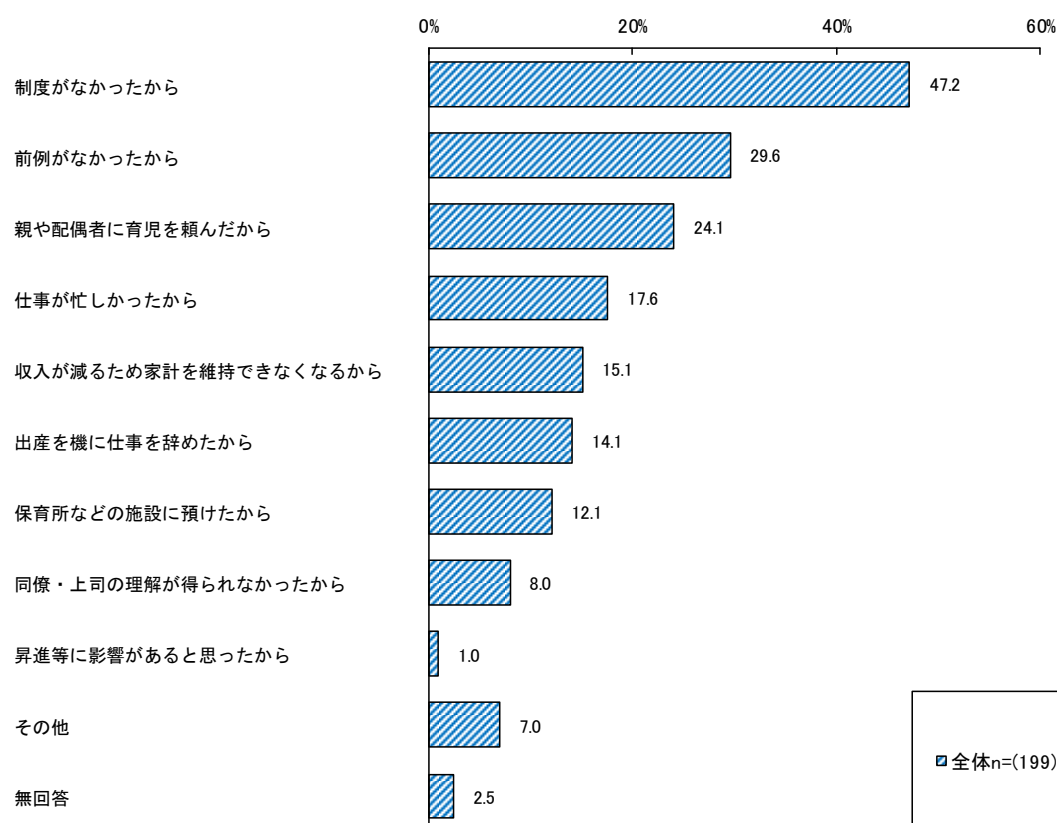
<性別・年齢別>

男女別では、男性では実際に育児休業を「取得した」割合は 1 割に満たないが、女性では 3 割弱となっている。また、いずれも、実際に育児休業を「取得しなかった」割合が、「取得した」を上回っている。

年齢別では、20 歳代では「取得する機会がまだない」の割合が最も高く、30 歳代と 40 歳代では「取得した」の割合が高く、4 割弱となっている。60 歳代では「取得しなかった」の割合が最も高く、8 割弱となっている。

(7) 育児休業を取得しなかった理由

問 13 [問 12 で「2. 取得しなかった」と答えた方にお伺いします]
次の中から育児休業を取得しなかった理由を 3 つまでお選びください。



<全体結果>

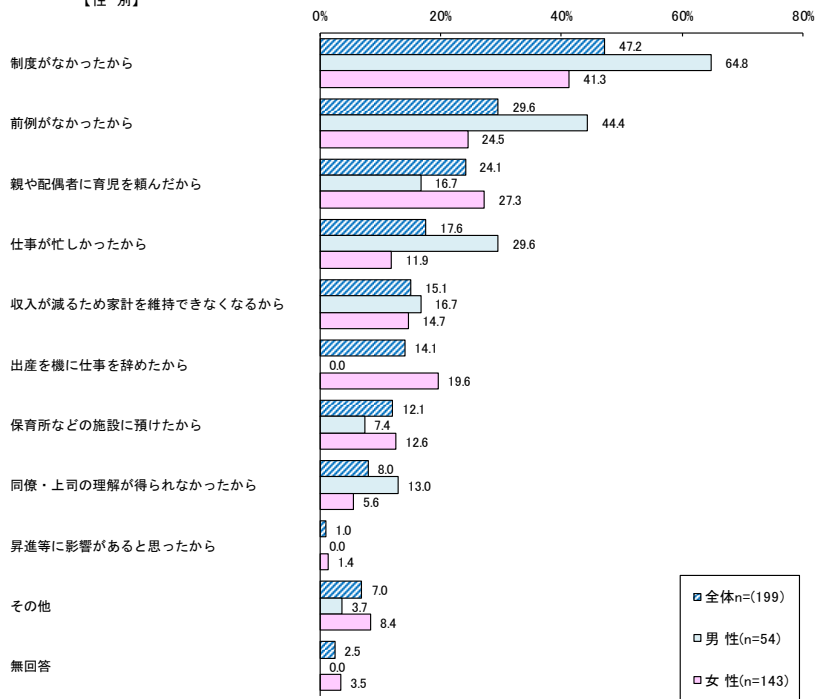
育児休業を取得しなかった理由は、「制度がなかったから」の割合が最も高く、5割弱となっている。次いで、「前例がなかったから」が約3割、「親や配偶者に育児を頼んだから」が2割台、「仕事が忙しかったから」、「収入が減るため家計を維持できなくなるから」、「出産を機に仕事を辞めたから」、「保育所などの施設に預けたから」が1割台などとなっている。

<性別・年齢別>

男女別では、男性では「仕事が忙しかったから」、「同僚・上司の理解が得られなかったから」、「前例がなかったから」、「制度がなかったから」の割合が高く、女性では「親や配偶者に育児を頼んだから」、「保育所などの施設に預けたから」、「出産を機に仕事を辞めたから」の割合が高くなっている。

年齢別では、30歳代では「仕事が忙しかったから」、「収入が減るため家計を維持できなくなるから」、「親や配偶者に育児を頼んだから」、40歳代と50歳代では「出産を機に仕事を辞めたから」、60歳代では「前例がなかったから」、「制度がなかったから」、70歳以上では「保育所などの施設に預けたから」の割合が最も高くなっている。

【性別】



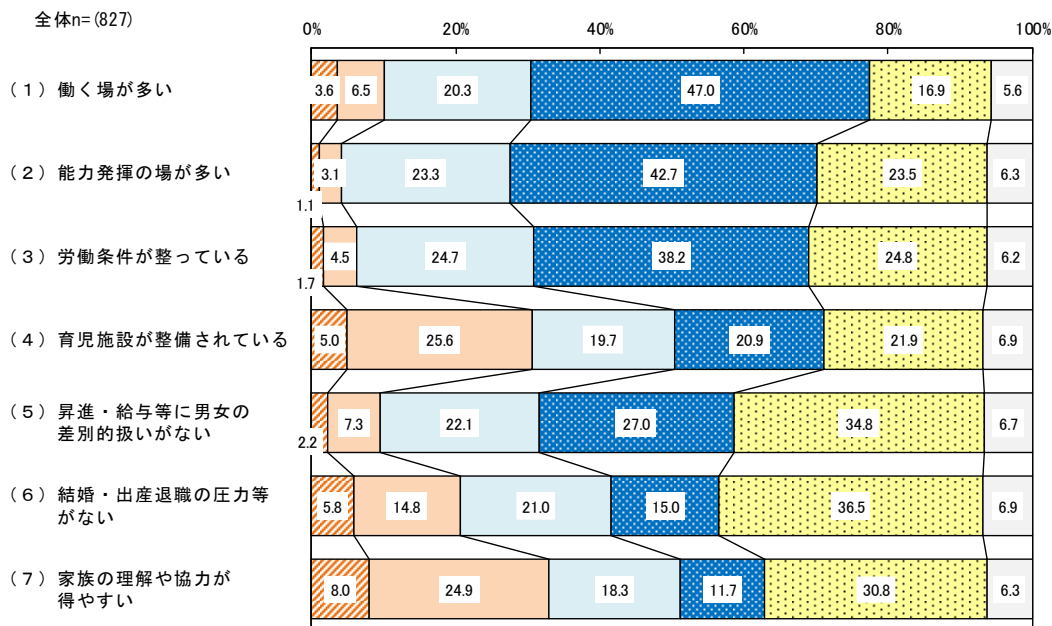
	合計	仕事が忙しかったから	同僚・上司の理解が得られなかったから	前例がなかったから	昇進等に影響があると思ったから	収入が減るため家計を維持できなくなるから	上段: 回答者数 / 下段: 割合 (%)	
							親や配偶者に育児を頼んだから	保育所などの施設に預けたから
全体	199	35	16	59	2	30	48	24
男性	54	16	7	24	0	9	9	4
女性	143	17	8	35	2	21	39	18
男性、女性のどちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	2	1	0	0	0	0	2
18～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0
20～29歳	1	0	0	0	0	0	0	0
30～39歳	6	2	0	2	0	2	2	0
40～49歳	22	6	2	7	0	2	4	1
50～59歳	42	7	6	10	0	7	9	2
60～69歳	63	7	6	25	1	8	14	4
70歳以上	64	12	2	15	1	11	19	16
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0

	合計	出産を機に仕事を辞めたから	制度がなかったから	その他	無回答
全体	199	28	94	14	5
男性	54	0	35	2	0
女性	143	28	59	12	5
男性、女性のどちらでもない	0	0	0	0	0
無回答	2	0	0	0	0
18～19歳	0	0	0	0	0
20～29歳	0	0	0	0	0
30～39歳	6	2	2	1	0
40～49歳	22	6	8	2	1
50～59歳	42	11	16	3	0
60～69歳	63	6	43	1	2
70歳以上	64	4	25	6	2
無回答	1	0	0	0	0

(8) 女性が働く環境について

問 14 あなたは、加茂市を全般的にみて、(1)～(7)の女性が働く環境についてどう思いますか。それぞれ1つずつお選びください。

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ どちらともいえない □ 無回答



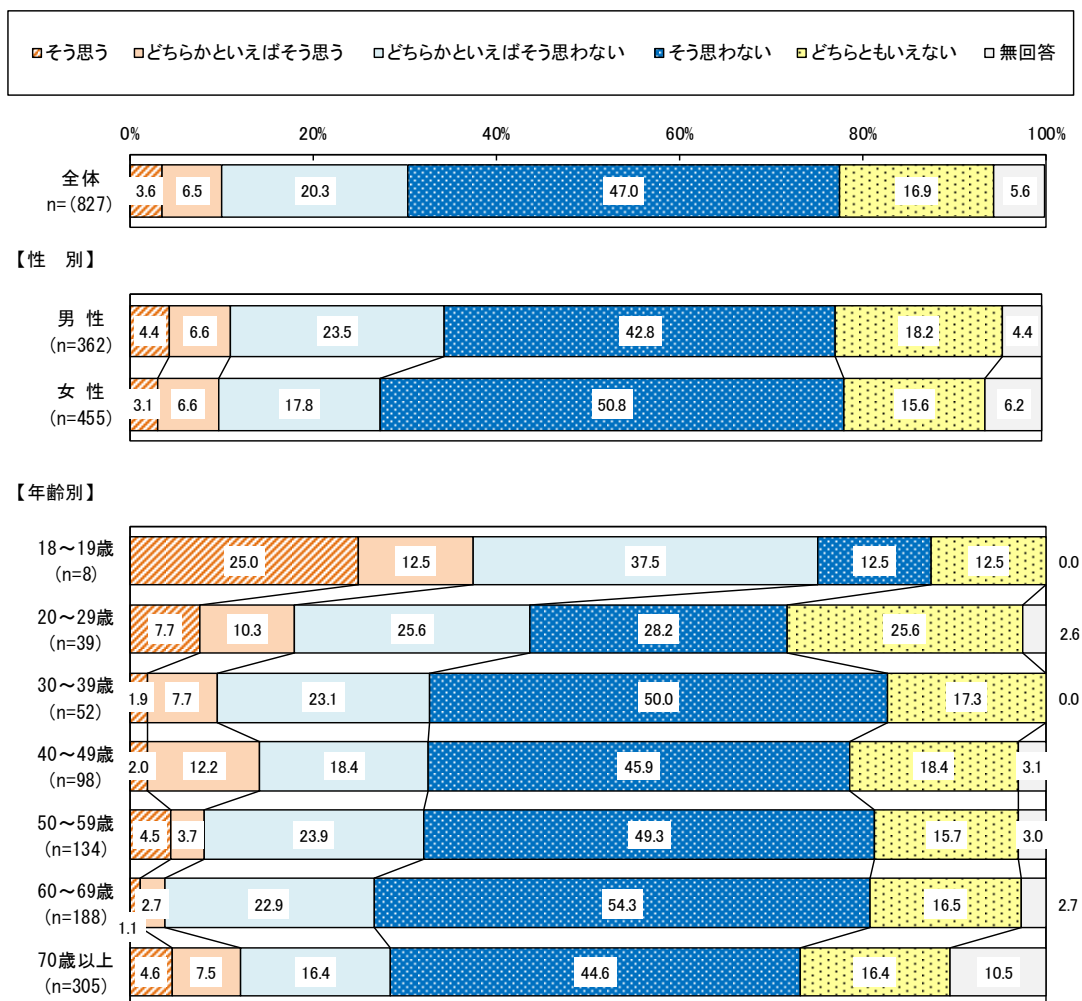
<全体結果>

女性が働く環境について7つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(7) 家族の理解や協力が得やすい】と【(4) 育児施設が整備されている】が高く、3割を超えている。次いで【(6) 結婚・出産退職の圧力等がない】が約2割で続いている。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思わない』計の割合をみると、【(1) 働く場が多い】と【(2) 能力発揮の場が多い】と【(3) 労働条件が整っている】が6割以上で高くなっている。

① 働く場が多い



<全体結果>

【働く場が多い】については、『思わない』計の割合が7割弱を占め、『思う』計の割合を大きく上回っている。

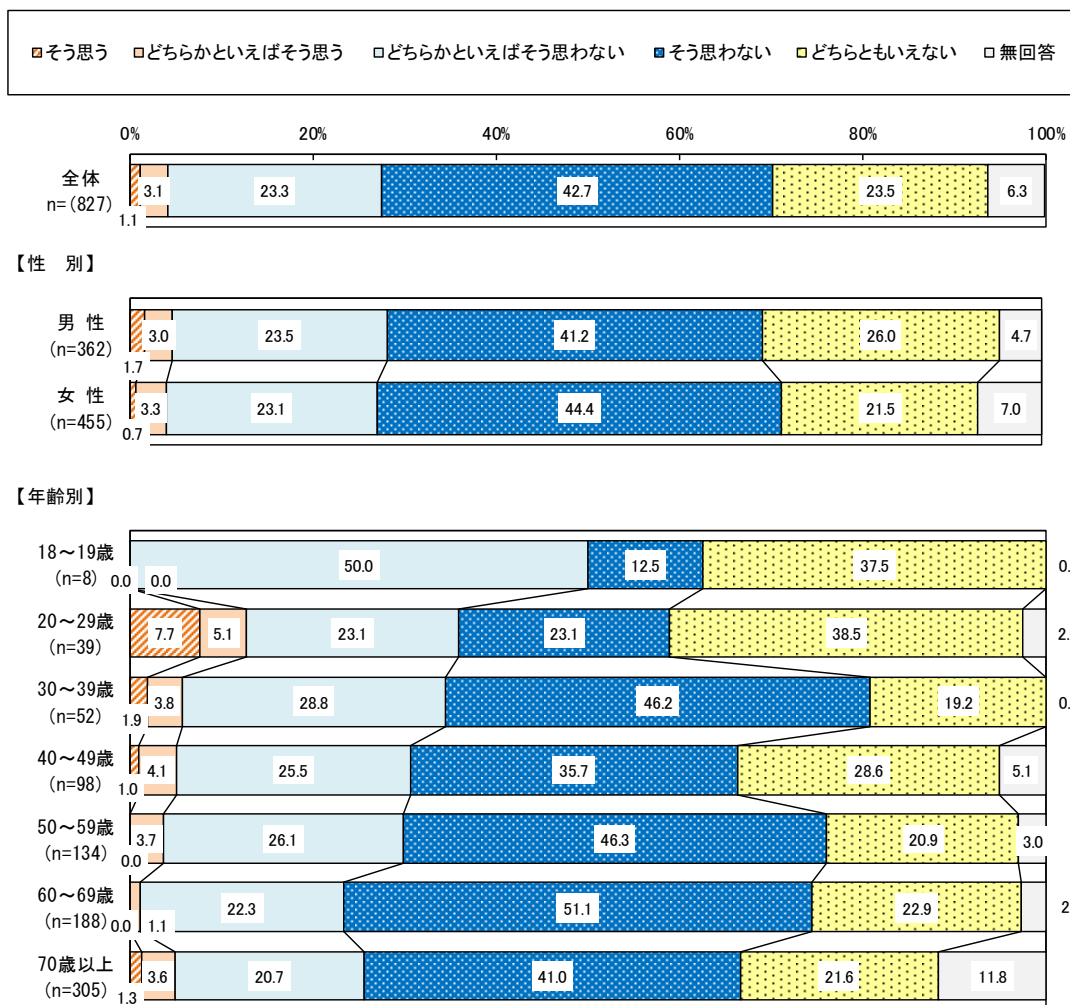
「どちらともいえない」の割合は、2割弱となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思わない』計の割合は30歳代と50歳代と60歳代で、7割を超えている。

② 能力発揮の場が多い



<全体結果>

【能力発揮の場が多い】については、『思わない』計の割合が7割弱を占め、『思う』計の割合を大きく上回っている。

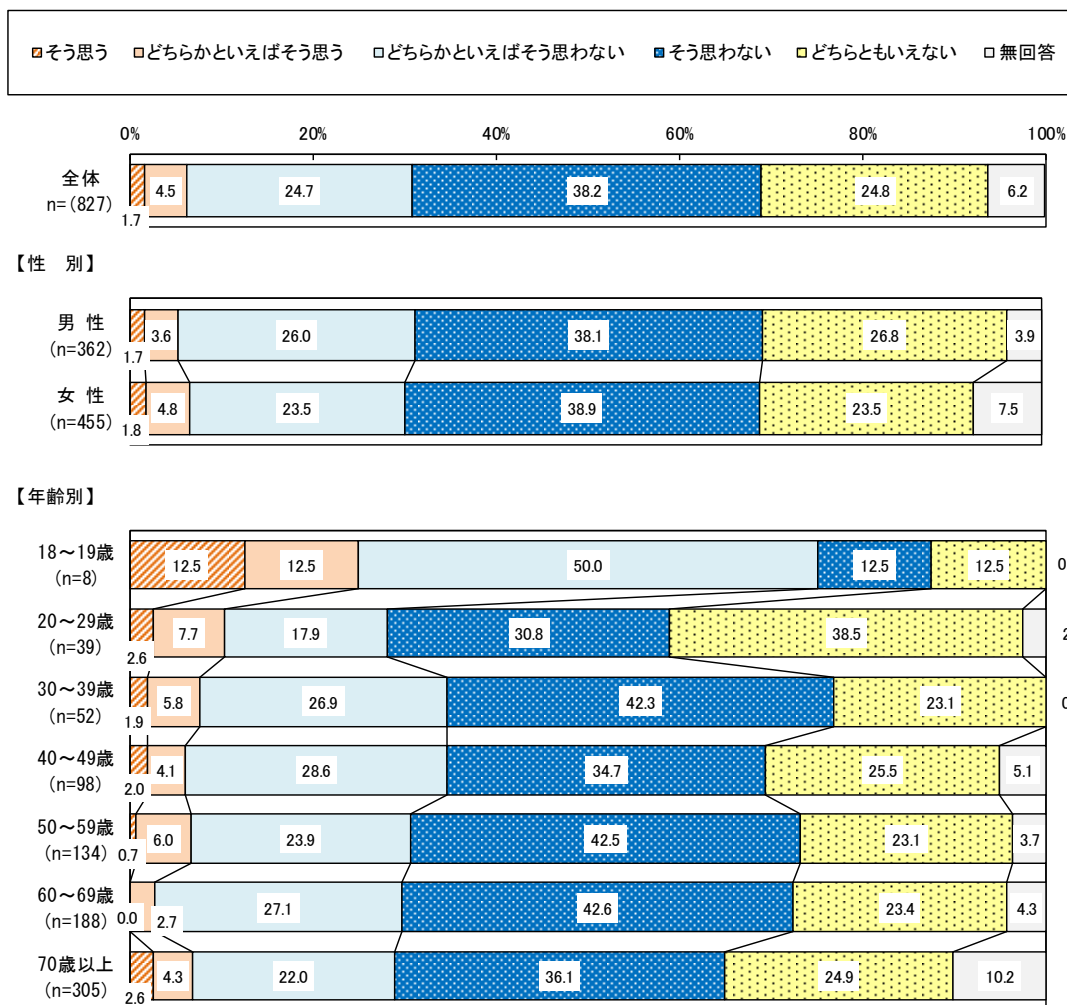
「どちらともいえない」の割合は、2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思わない』計の割合は30歳代と50歳代と60歳代で、7割を超えている。

③ 労働条件が整っている



<全体結果>

【労働条件が整っている】については、『思わない』計の割合が6割強を占め、『思う』計の割合を大きく上回っている。

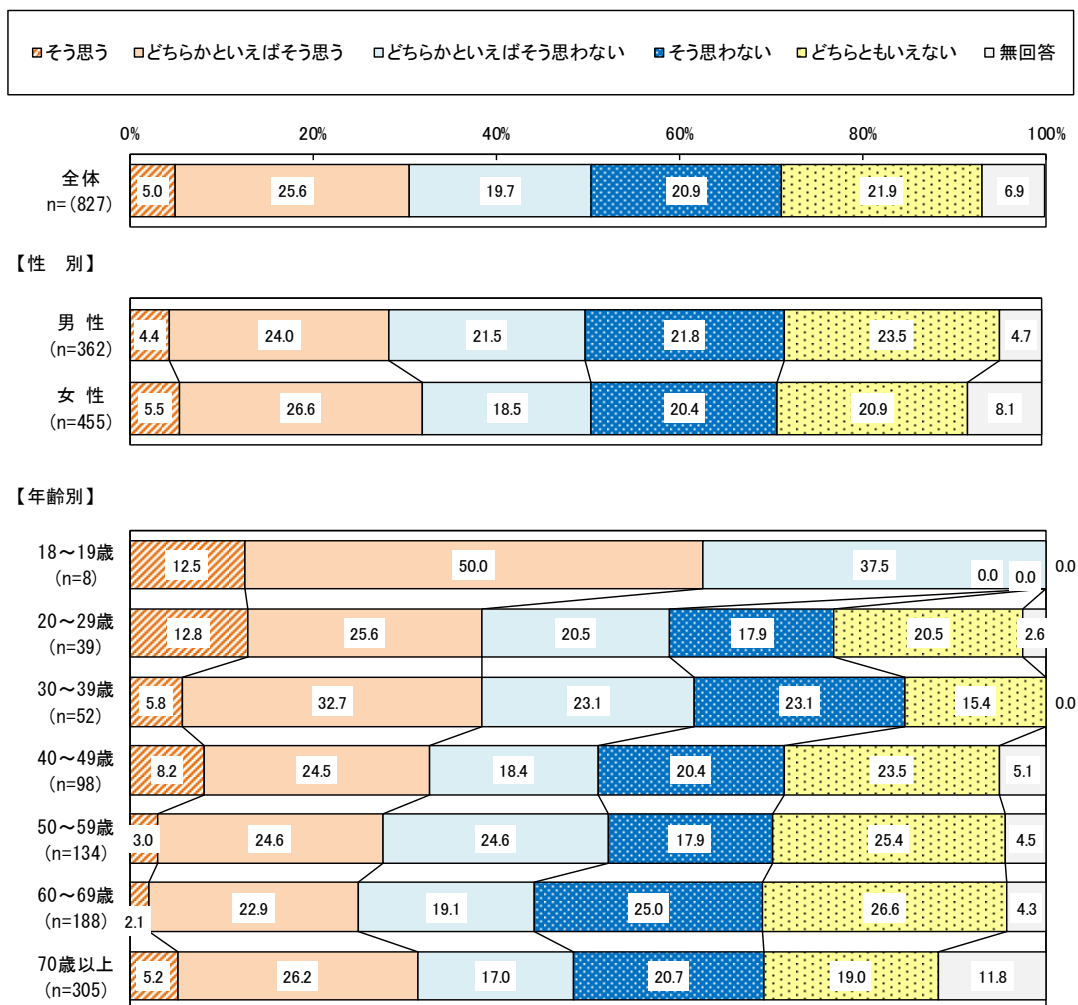
「どちらともいえない」の割合は、2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思わない』計の割合は30歳代～60歳代で、7割弱となっている。「どちらともいえない」では20歳代で、他年齢層よりも高くなっている。

④ 育児施設が整備されている



<全体結果>

【育児施設が整備されている】については、『思わない』計の割合が約4割を占め、『思う』計の割合を上回っている。

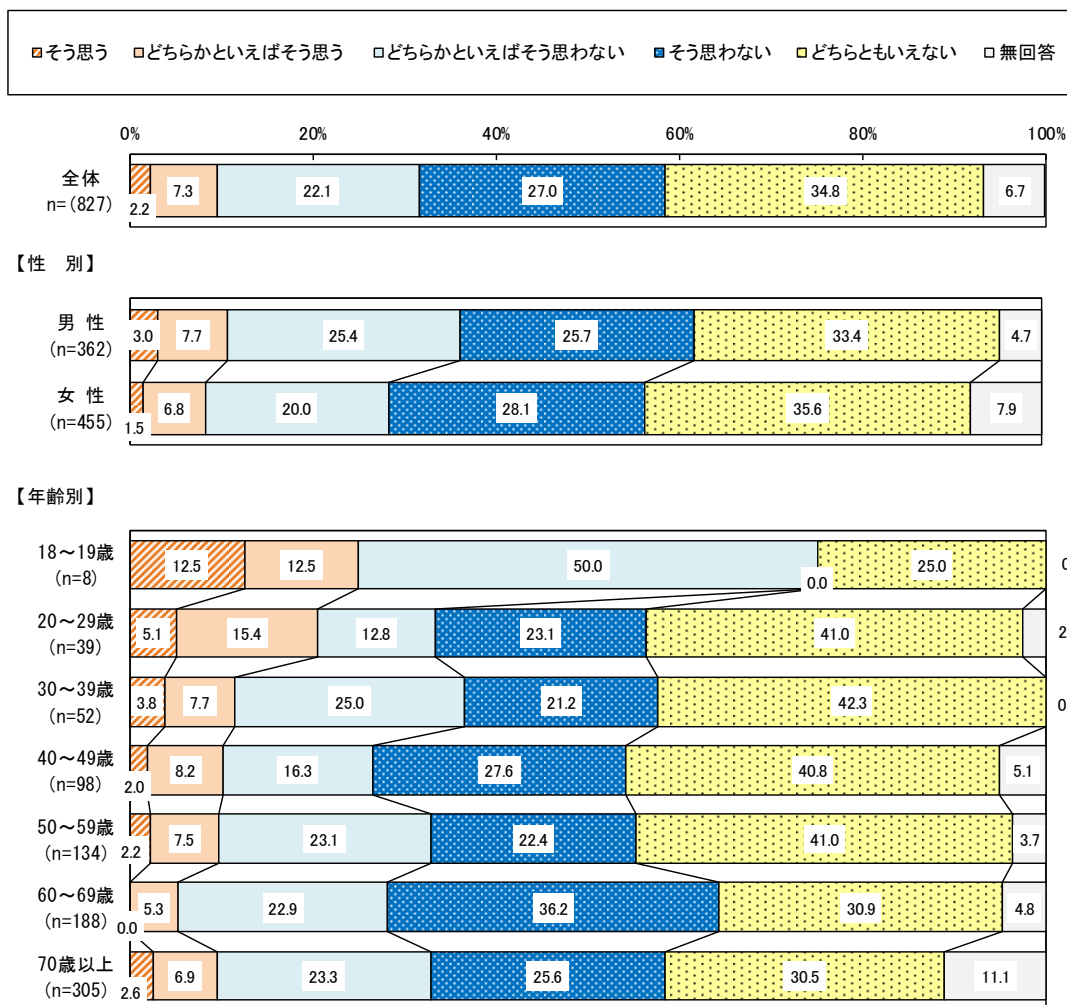
「どちらともいえない」の割合は、2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合が、女性の方が男性よりやや高く、『思わない』計の割合が、男性の方が女性よりやや高くなっている。

年齢別では、『思わない』計の割合は30歳代と50歳代と60歳代で、4割を超えている。

⑤ 昇進・給与等に男女の差別的扱いがない



<全体結果>

【昇進・給与等に男女の差別的扱いがない】については、『思わない』計の割合が約 5 割を占め、『思う』計の割合を大きく上回っている。

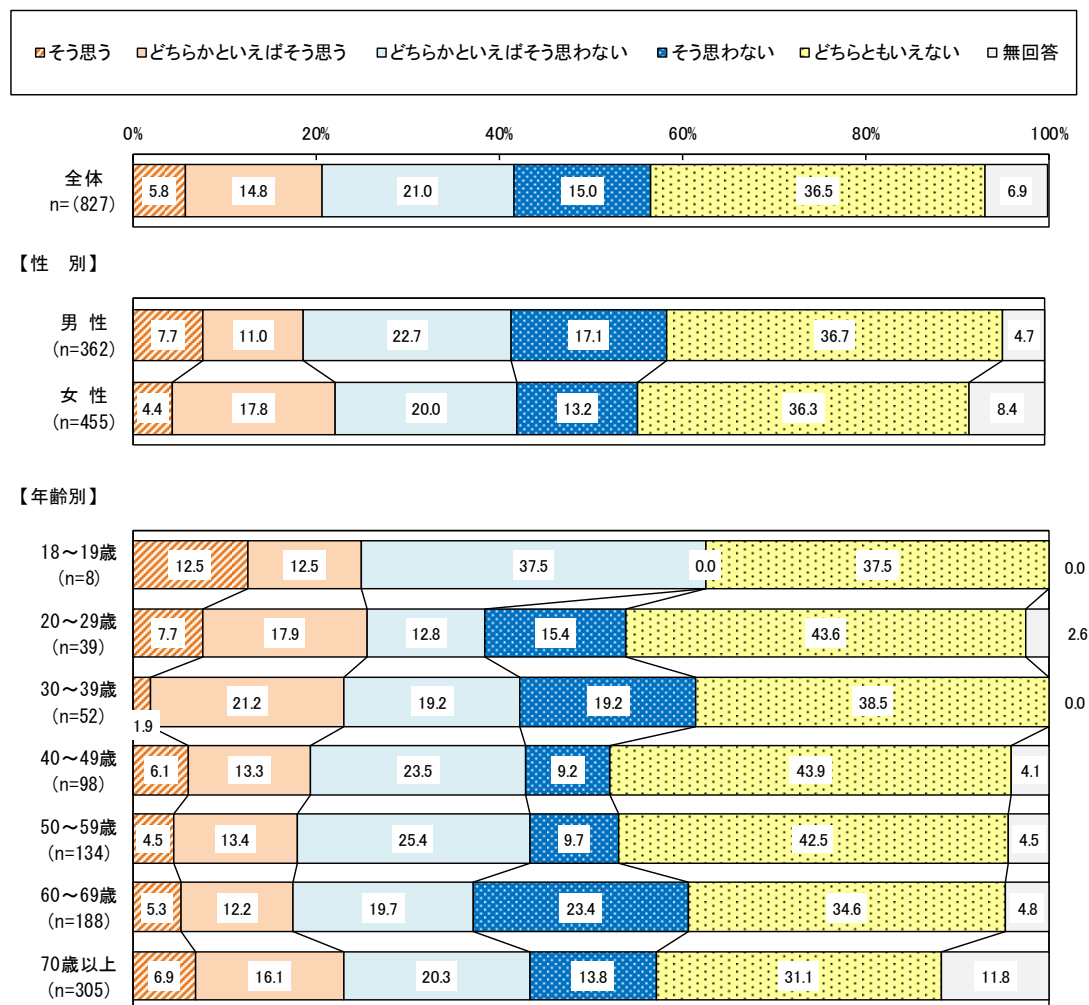
「どちらともいえない」の割合は、3割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思わない』計の割合は 60 歳代で高く、6割弱となっている。

⑥ 結婚・出産退職の圧力等がない



<全体結果>

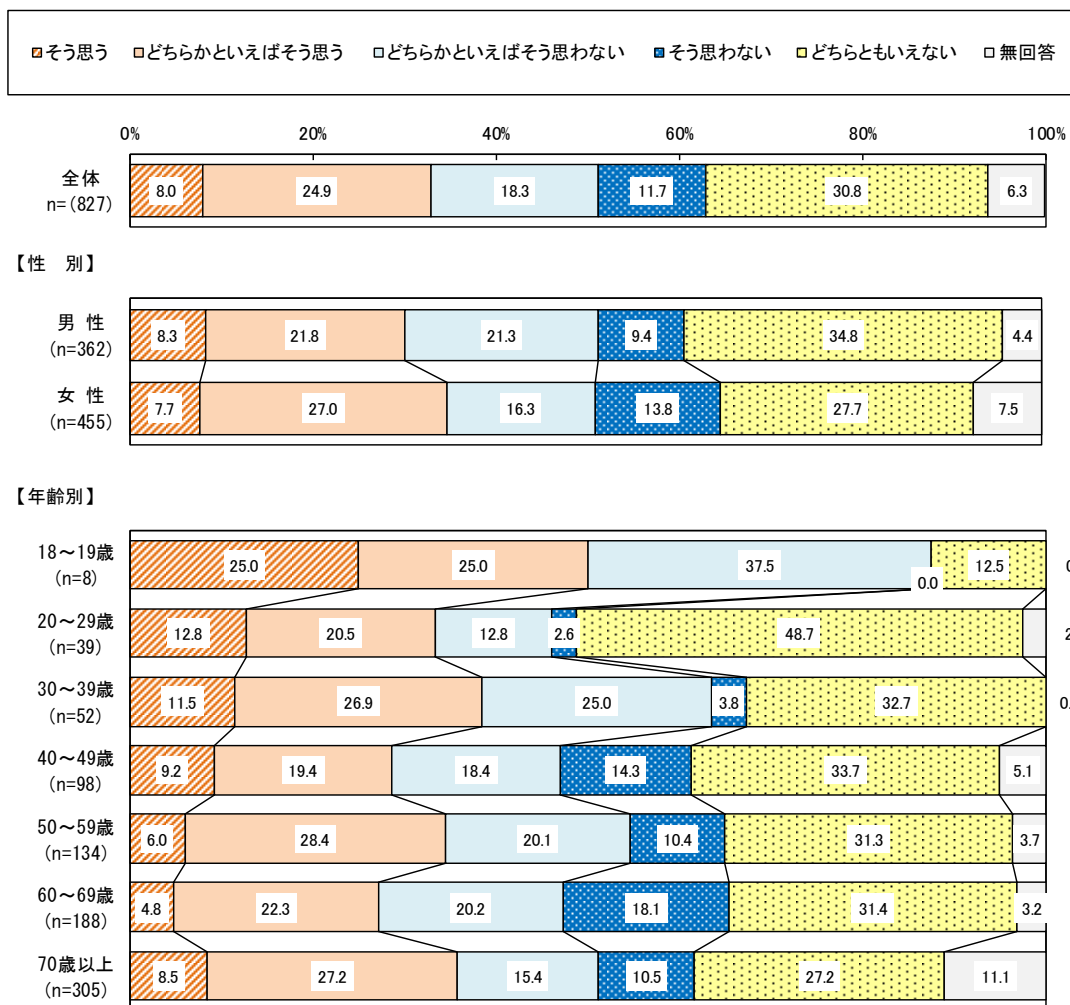
【結婚・出産退職の圧力等がない】については、『思わない』計と「どちらともいえない」の割合が4割弱を占め、『思う』計の割合を上回っている。

<性別・年齢別>

男女別では、『思わない』計の割合が、男性の方が女性よりも高くなっている。

年齢別では、『思わない』計の割合は60歳代で高く、4割強となっている。

⑦ 家族の理解や協力が得やすい



<全体結果>

【家族の理解や協力が得やすい】については、『思わない』計の割合と、『思う』計の割合が拮抗している。

「どちらともいえない」の割合は、約3割となっている。

<性別・年齢別>

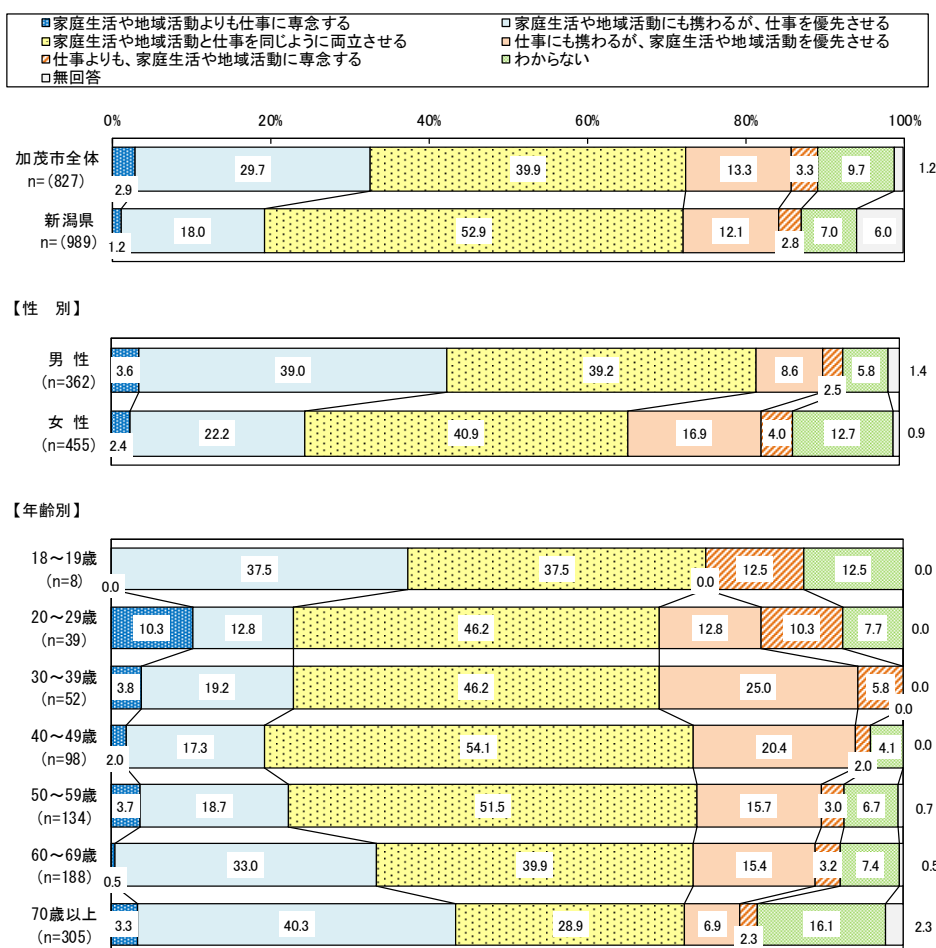
男女別では、『思う』計の割合が、女性の方が男性よりもやや高くなっている。

年齢別では、『思わない』計の割合では60歳代、「どちらともいえない」では20歳代で、高くなっている。

5 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 希望のワーク・ライフ・バランス

問 15 仕事と家庭生活や地域活動のバランスについて、あなたの希望と現実にもっと近いものをそれぞれ1つずつお選びください。



<全体結果>

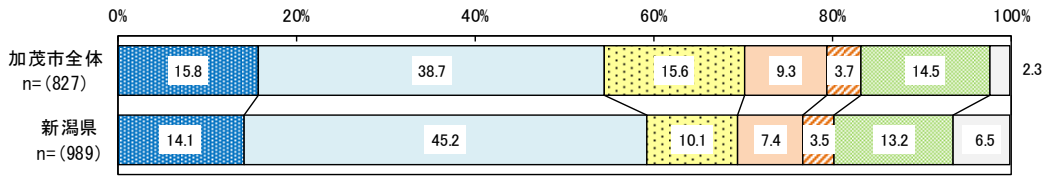
希望のワーク・ライフ・バランスとしては、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が最も高く、約4割となっている。次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が約3割となっている。

<性別・年齢別>

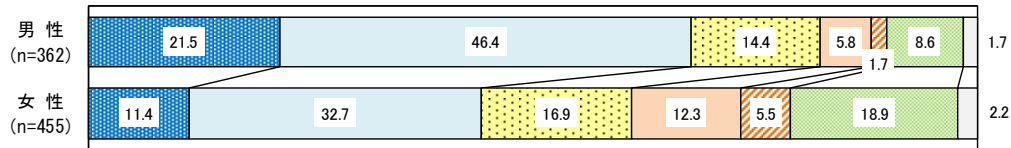
男女別では、男性で「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が女性を上回り、女性で「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる」が男性を上回っている。

年齢別では、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合は、70歳以上で最も高く、約4割となっている。30歳代では「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる」が2割強で、他年齢層よりも高くなっている。

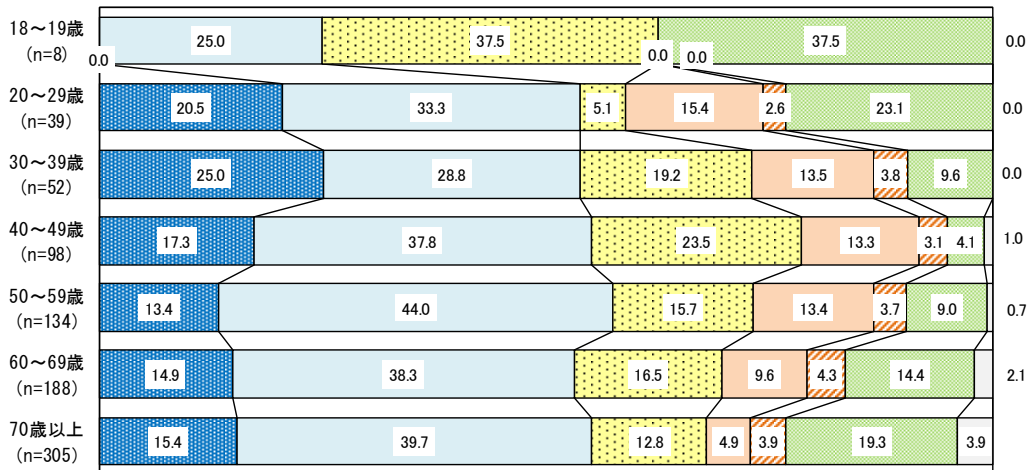
(2) 現実の生活状況



【性別】



【年齢別】



<全体結果>

現実の生活状況としては、「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合が最も高く、4割弱となっている。次いで「家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する」、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」が1割台で続いている。

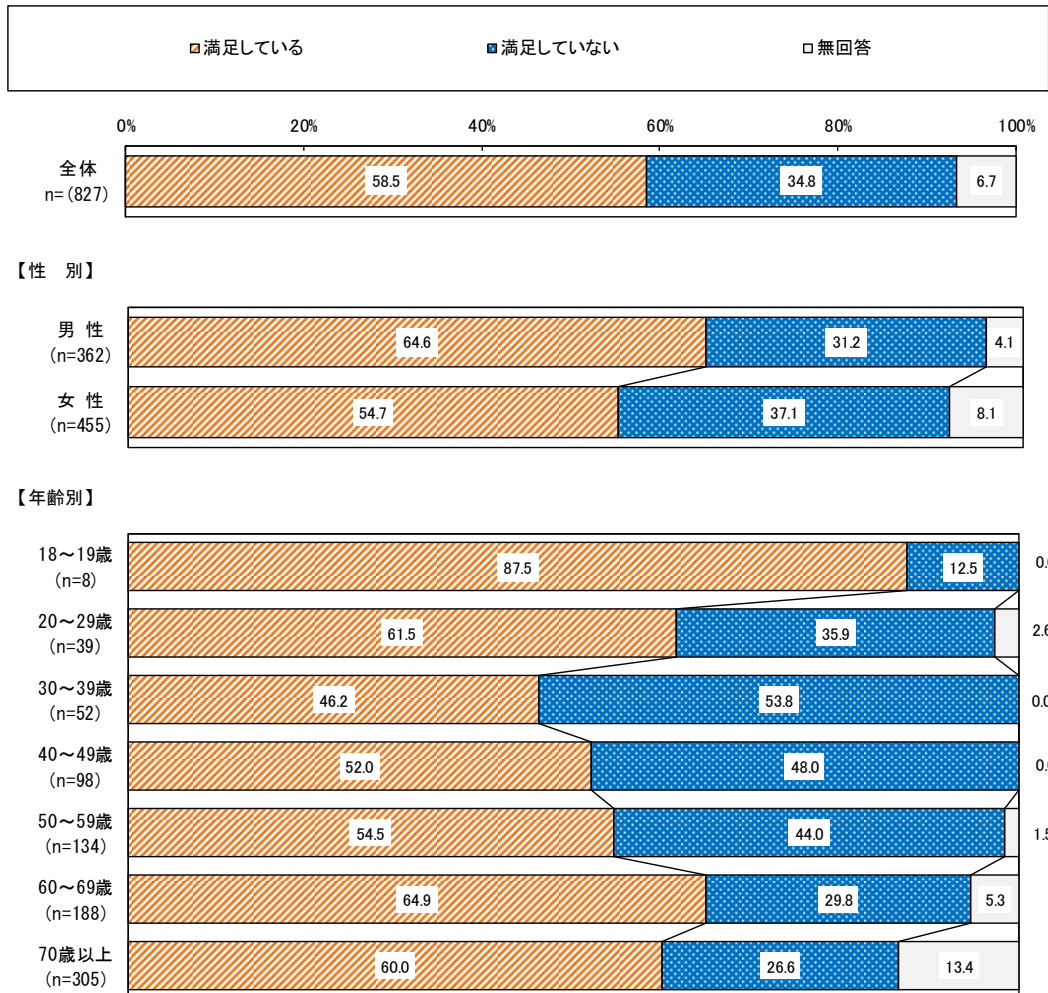
<性別・年齢別>

男女別では、男性で「家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する」、「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が女性を上回り、女性で「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる」が男性を上回っている。

年齢別では、「家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する」の割合では30歳代、「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる」の割合では50歳代、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合では40歳代で高くなっている。

(3) ワーク・ライフ・バランスの満足度

問 16 あなたは、自分のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活のバランス）について満足していますか。



<全体結果>

ワーク・ライフ・バランスに「満足している」の割合は約6割を占め、「満足していない」の割合を大きく上回っている。

<性別・年齢別>

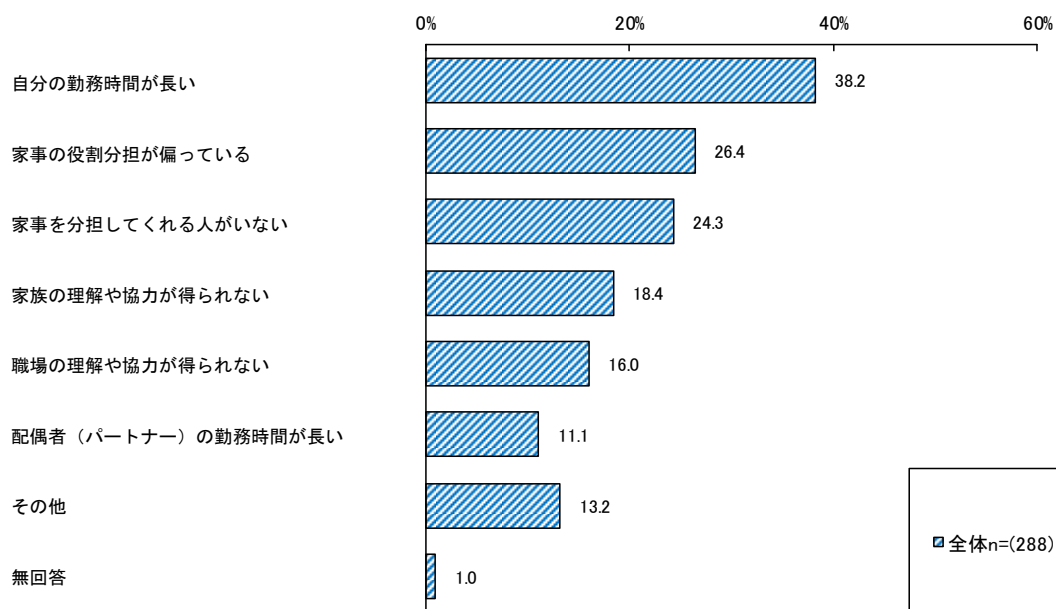
男女別では、男性で「満足している」が高く、女性で「満足していない」が高くなっている。

年齢別では、20歳代と60歳代では「満足している」の割合が高く、6割を超えている。一方、「満足していない」の割合が30歳代で最も高くなっている。

(4) 満足していない理由

問 17 [問 16 で「2. 満足していない」と答えた方にお伺いします]

その理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



<全体結果>

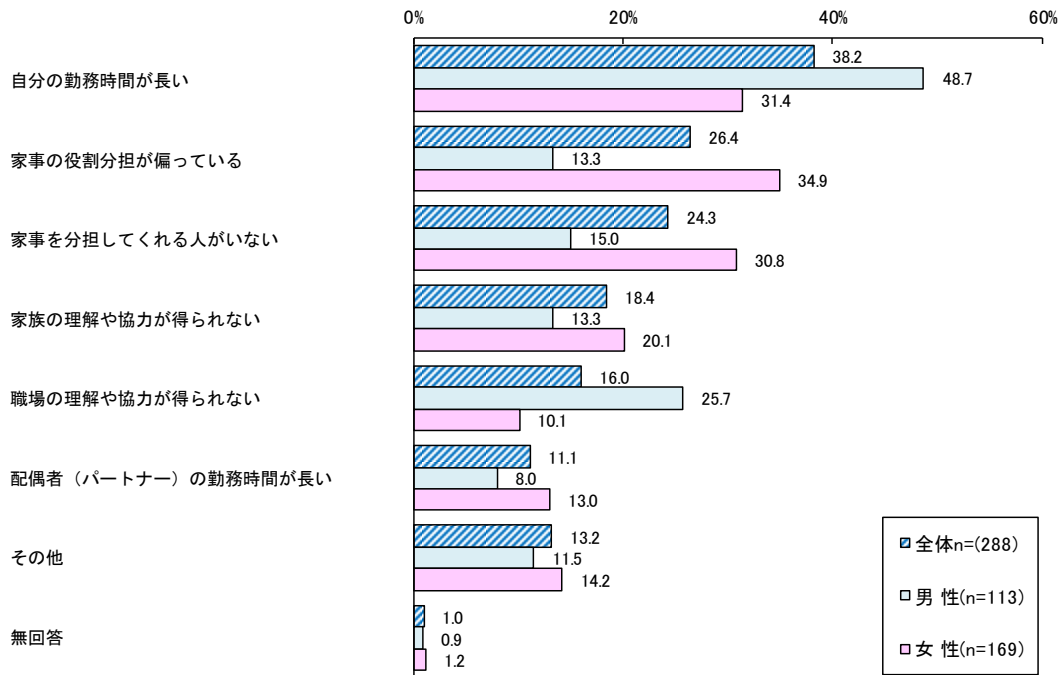
満足していない理由は、「自分の勤務時間が長い」の割合が最も高く、4割弱となっている。次いで、「家事の役割分担が偏っている」、「家事を分担してくれる人がいない」の割合が2割台などとなっている。

<性別・年齢別>

男女別では、男性では「自分の勤務時間が長い」、「職場の理解や協力が得られない」の割合が高く、女性では「家事の役割分担が偏っている」、「家族の理解や協力が得られない」、「家事を分担してくれる人がいない」の割合が高くなっている。

年齢別では、30歳代と50歳代では「自分の勤務時間が長い」、30歳代では「配偶者（パートナー）の勤務時間が長い」、40歳代では「職場の理解や協力が得られない」、70歳以上では「家事を分担してくれる人がいない」の割合が最も高くなっている。

【性別】



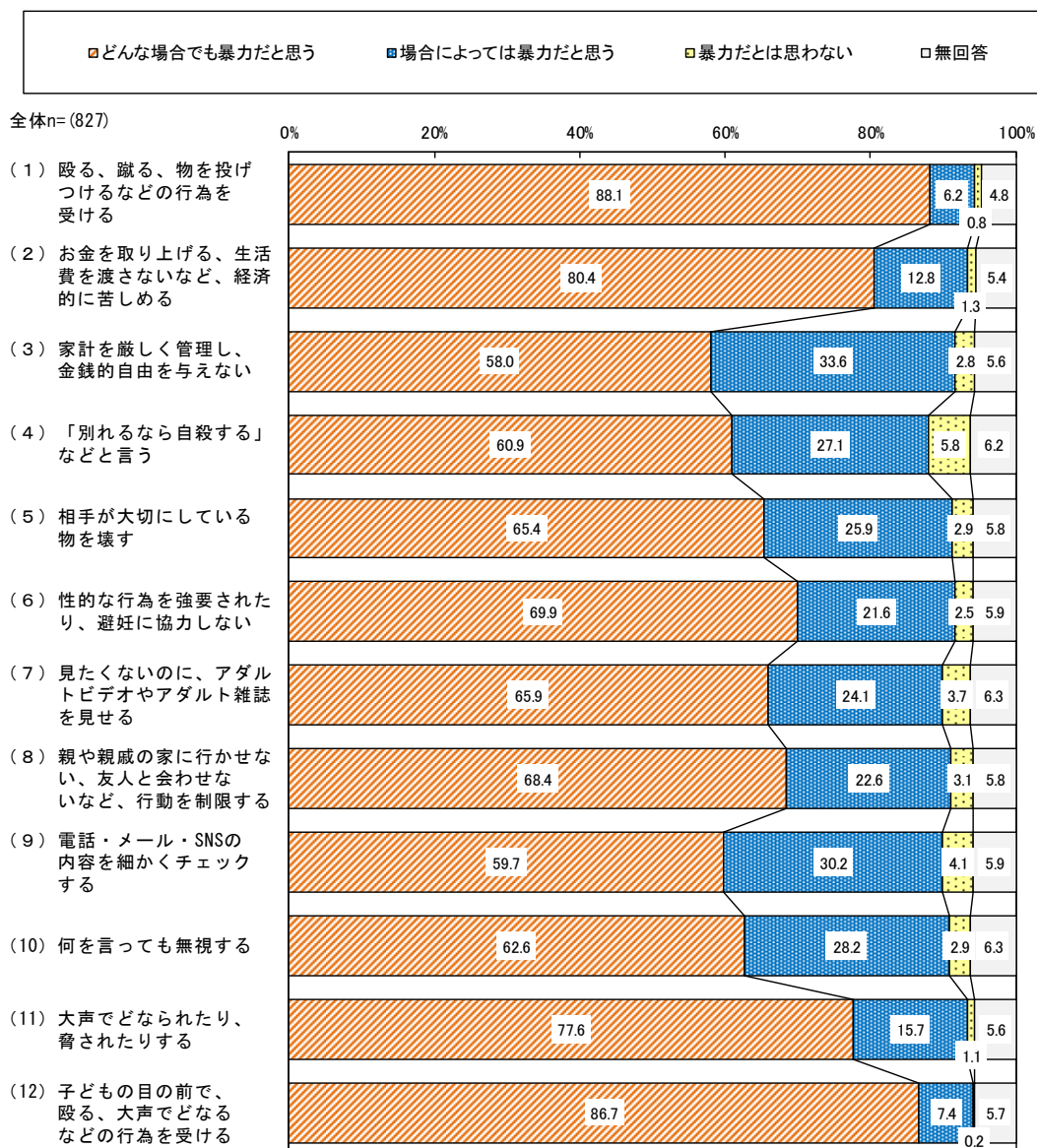
上段:回答者数/下段:割合(%)

	合計	自分の勤務時間が長い	配偶者（パートナー）の勤務時間が長い	家事の役割分担が偏っている	家族の理解や協力が得られない	職場の理解や協力が得られない	家事を分担してくれる人がいない	その他	無回答	
全体	288 100.0%	110 38.2%	32 11.1%	76 26.4%	53 18.4%	46 16.0%	70 24.3%	38 13.2%	3 1.0%	
【性別】	男性	113 100.0%	55 48.7%	9 8.0%	15 13.3%	15 13.3%	29 25.7%	17 15.0%	13 11.5%	1 0.9%
	女性	169 100.0%	53 31.4%	22 13.0%	59 34.9%	34 20.1%	17 10.1%	52 30.8%	24 14.2%	2 1.2%
	男性、女性のどちらでもない	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%
【年齢】	18～19歳	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20～29歳	14 100.0%	7 50.0%	2 14.3%	2 14.3%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	5 35.7%	0 0.0%
	30～39歳	28 100.0%	16 57.1%	9 32.1%	8 28.6%	3 10.7%	6 21.4%	6 21.4%	4 14.3%	0 0.0%
	40～49歳	47 100.0%	17 36.2%	4 8.5%	11 23.4%	10 21.3%	13 27.7%	3 6.4%	12 25.5%	0 0.0%
	50～59歳	59 100.0%	33 55.9%	4 6.8%	16 27.1%	6 10.2%	9 15.3%	10 16.9%	8 13.6%	0 0.0%
	60～69歳	56 100.0%	22 39.3%	5 8.9%	17 30.4%	14 25.0%	5 8.9%	16 28.6%	3 5.4%	0 0.0%
	70歳以上	81 100.0%	15 18.5%	7 8.6%	22 27.2%	17 21.0%	11 13.6%	35 43.2%	6 7.4%	3 3.7%
	無回答	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

6 男女の人権について

(1) 夫婦間の暴力

問 18 あなたは、次の (1) ~ (12) のようなことが、配偶者・パートナーに対して行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



<全体結果>

【身体的暴力】

夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思うかどうかについて、【殴る、蹴る、物を投げつけるなどの行為を受ける】が9割弱、身体的に危害を加えることや危害を加える恐れがあることは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

【経済的暴力】

【お金を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的に苦しめる】が約8割、【家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない】が6割弱、経済的に生活の安全・安心を脅かすことは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

【精神的暴力】

【子どもの目の前で、殴る、大声でどなるなどの行為を受ける】が9割弱、【大声でどなられたり、脅されたりする】が7割強、【相手が大切にしている物を壊す】と【何を言っても無視する】が6割強、【「別れるなら自殺する」などと言う】が約6割、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力だと思う割合が高くなっている。

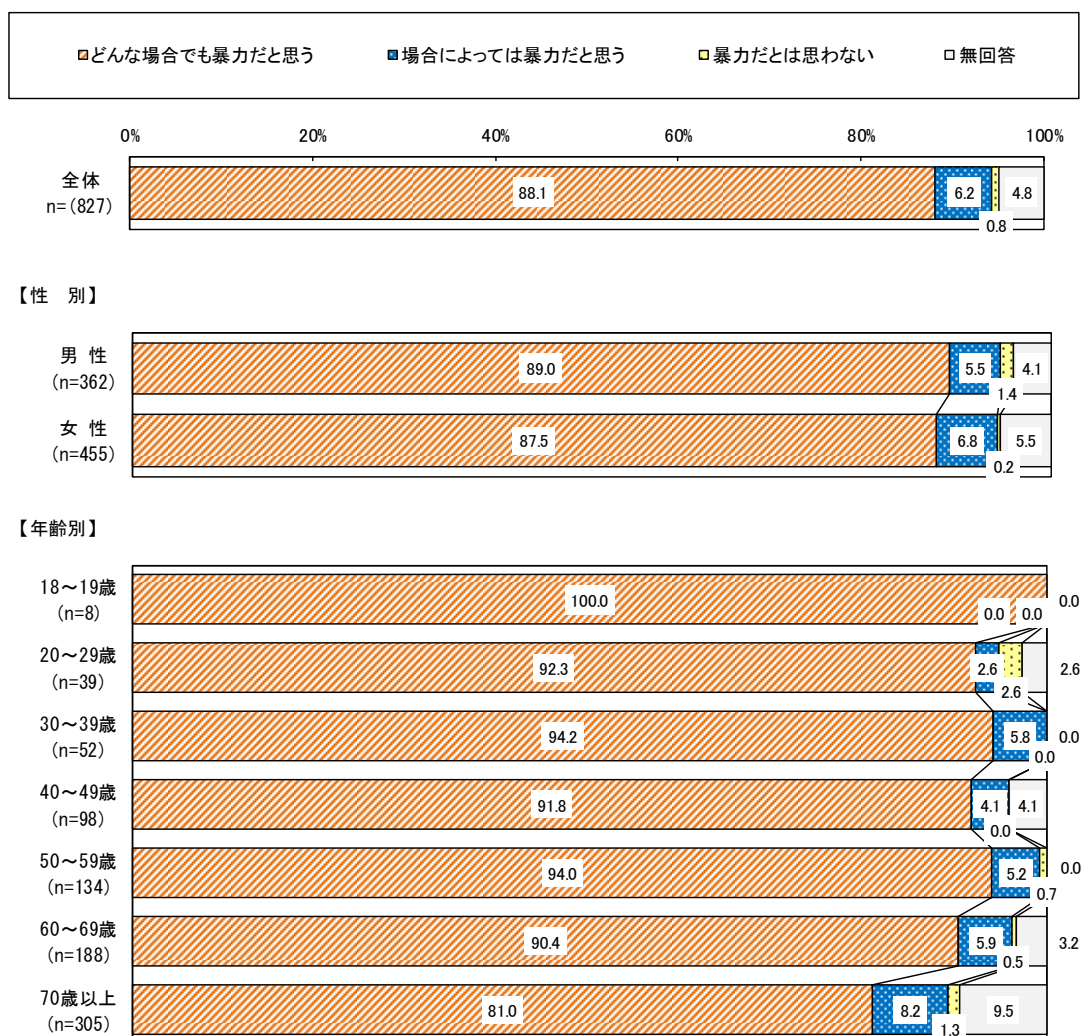
【社会的暴力】

【親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限する】が7割弱、【電話・メール・SNSの内容を細かくチェックする】が約6割、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

【性的暴力】

【性的な行為を強要されたり、避妊に協力しない】が約7割、【見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる】が6割強、性的な強制、いやがらせは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

① 殴る、蹴る、物を投げつけるなどの行為を受ける



<全体結果>

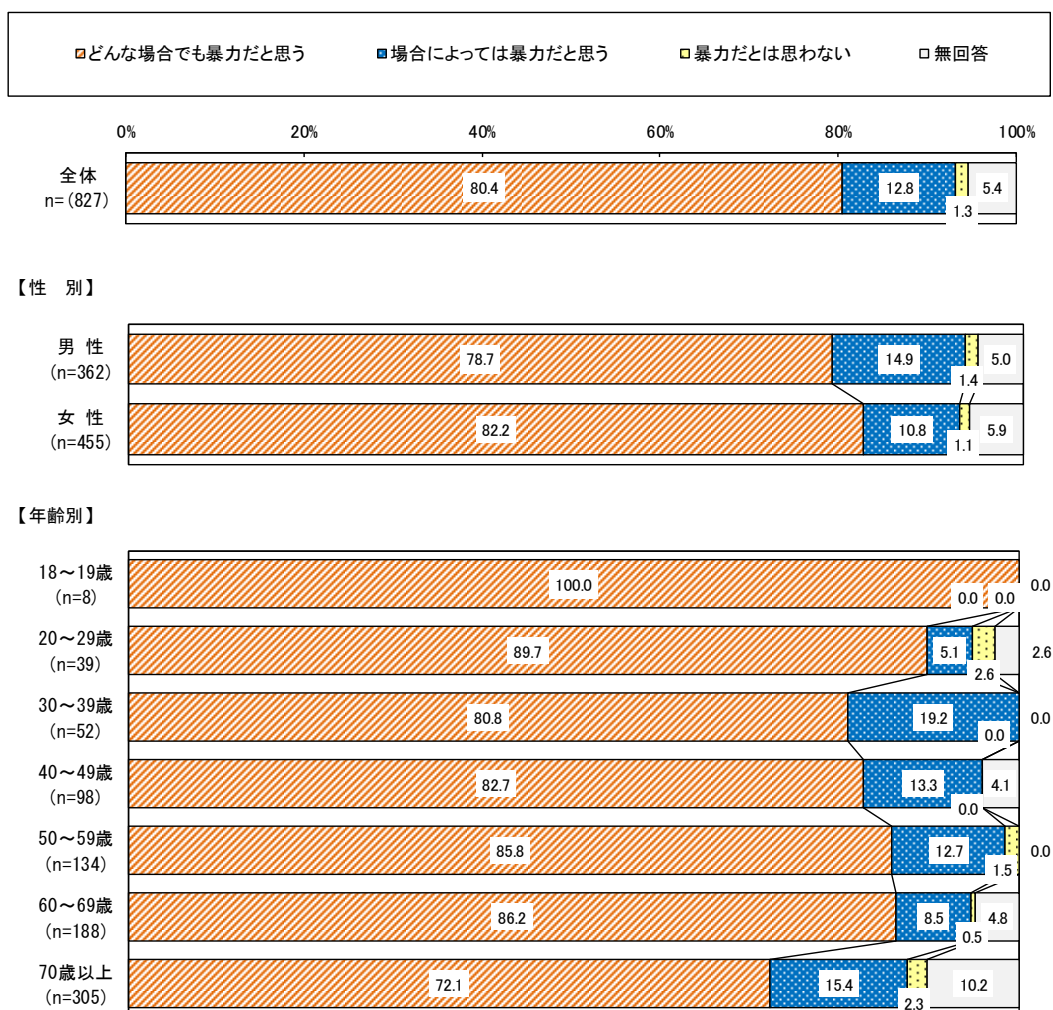
【殴る、蹴る、物を投げつけるなどの行為を受ける】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合は、9割弱となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、各年齢層とも、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

② お金を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的に苦しめる



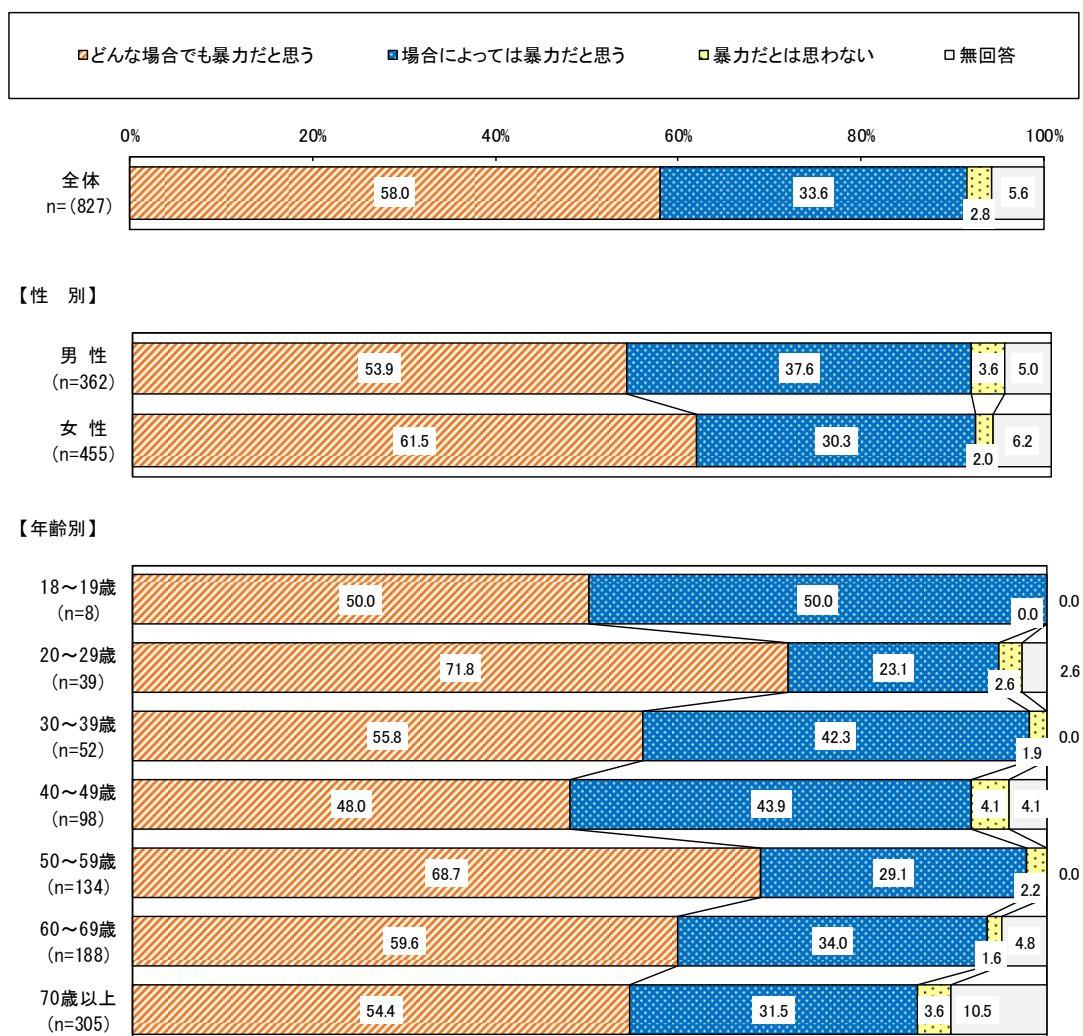
<全体結果>

【お金を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的に苦しめる】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合は、約8割となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、女性の方がやや高くなっている。
 年齢別では、各年齢層とも、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

③ 家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない



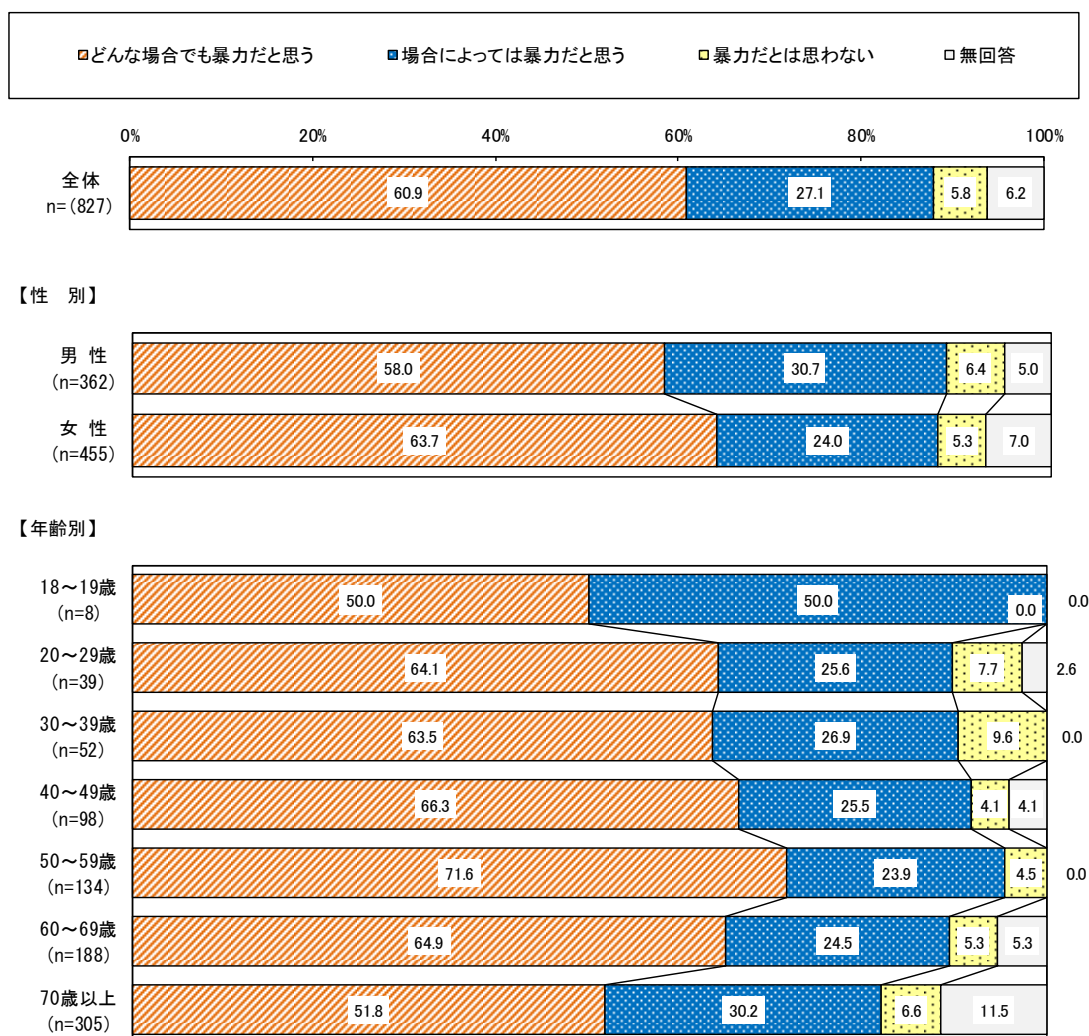
<全体結果>

【家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が6割弱、「場合によっては暴力だと思う」が3割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。年齢別では、20歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

④ 「別れるなら自殺する」などと言う



<全体結果>

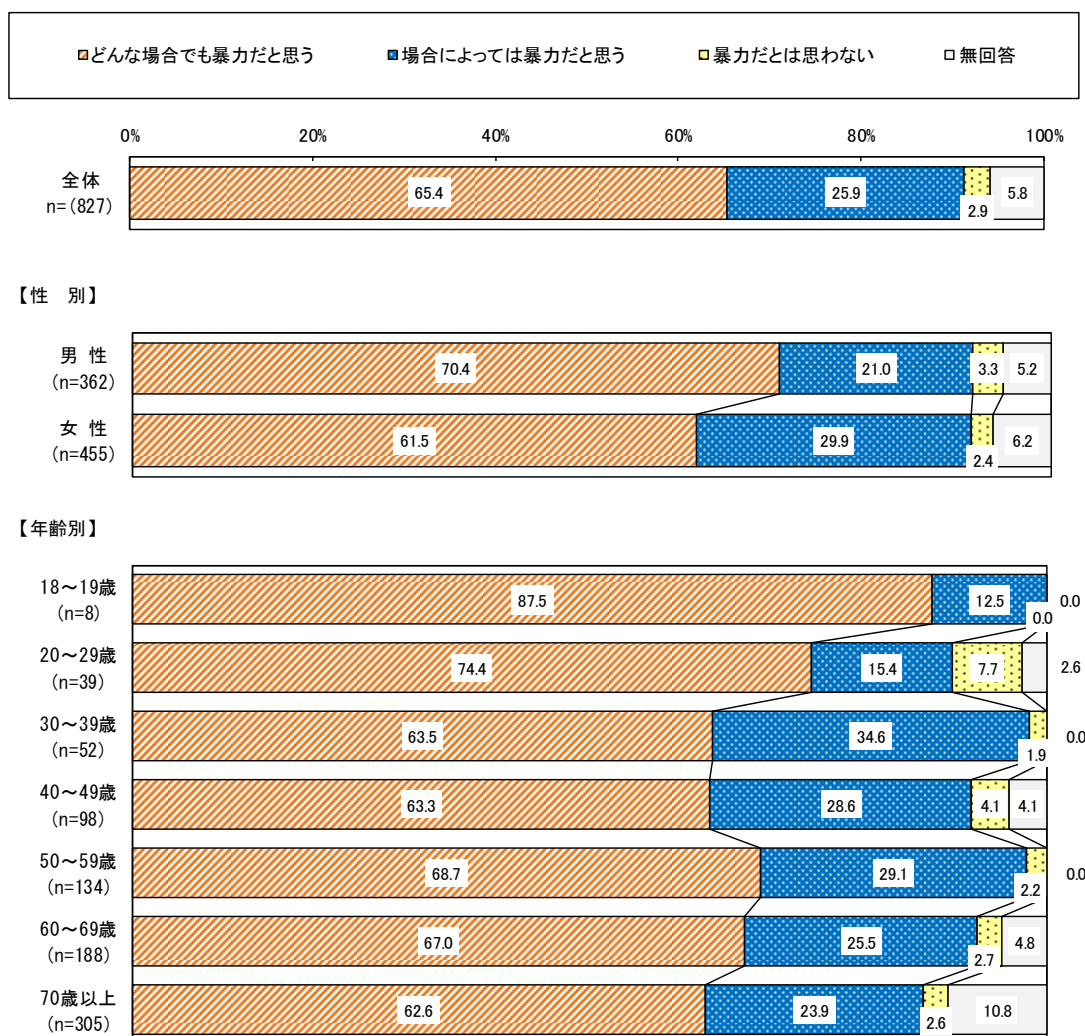
【「別れるなら自殺する」などと言う】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が約6割、「場合によっては暴力だと思う」が3割弱となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方が高く、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別では、50歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑤ 相手が大切にしている物を壊す



<全体結果>

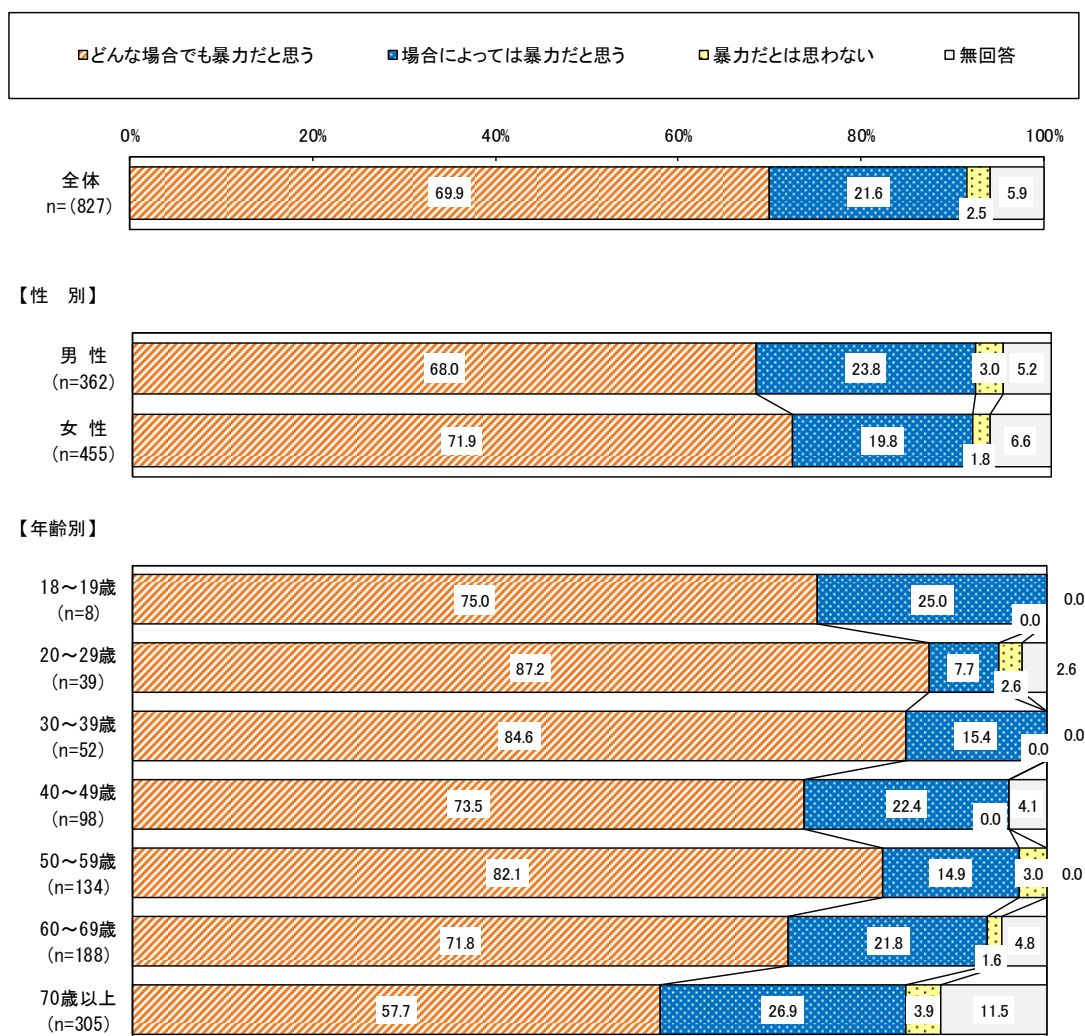
【相手が大切にしている物を壊す】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が6割強、「場合によっては暴力だと思う」が2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方が高く、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。30歳代では、「場合によっては暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑥ 性的な行為を強要されたり、避妊に協力しない



<全体結果>

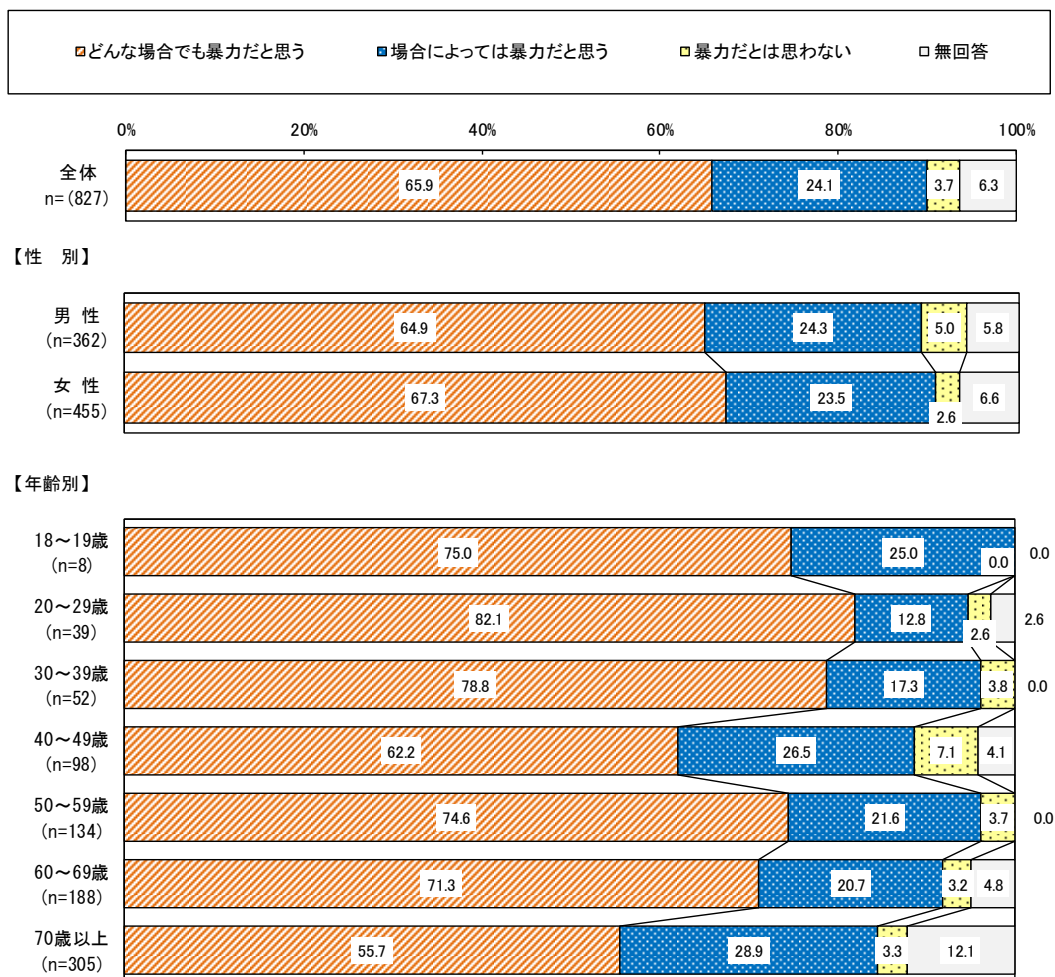
【性的な行為を強要されたり、避妊に協力しない】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が約7割、「場合によっては暴力だと思う」が2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方がやや高くなっている。

年齢別では、20歳代と30歳代と50歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑦ 見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる



<全体結果>

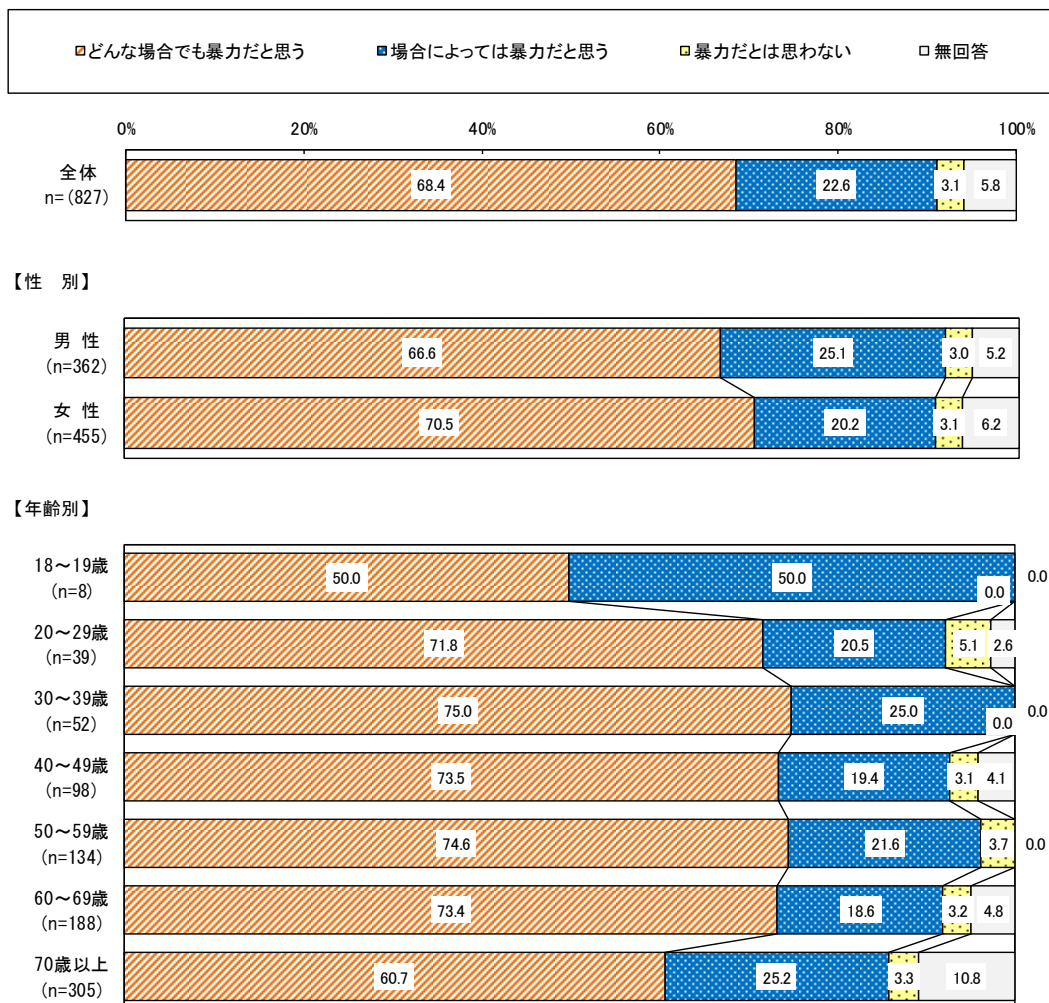
【見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が6割強、「場合によっては暴力だと思う」が2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、20歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑧ 親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限する



<全体結果>

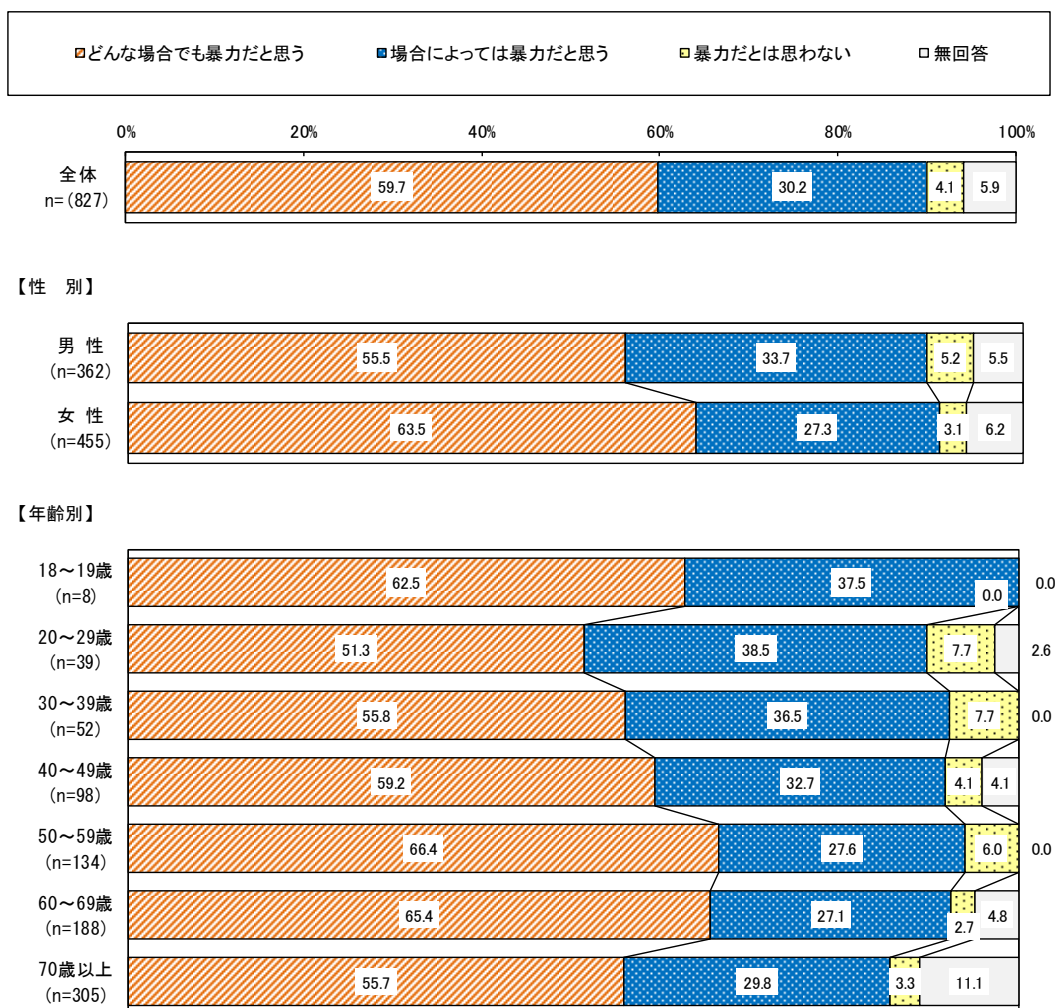
【親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限する】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が7割弱、「場合によっては暴力だと思う」が2割強となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方がやや高く、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別では、各年齢層とも、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑨ 電話・メール・SNS の内容を細かくチェックする



<全体結果>

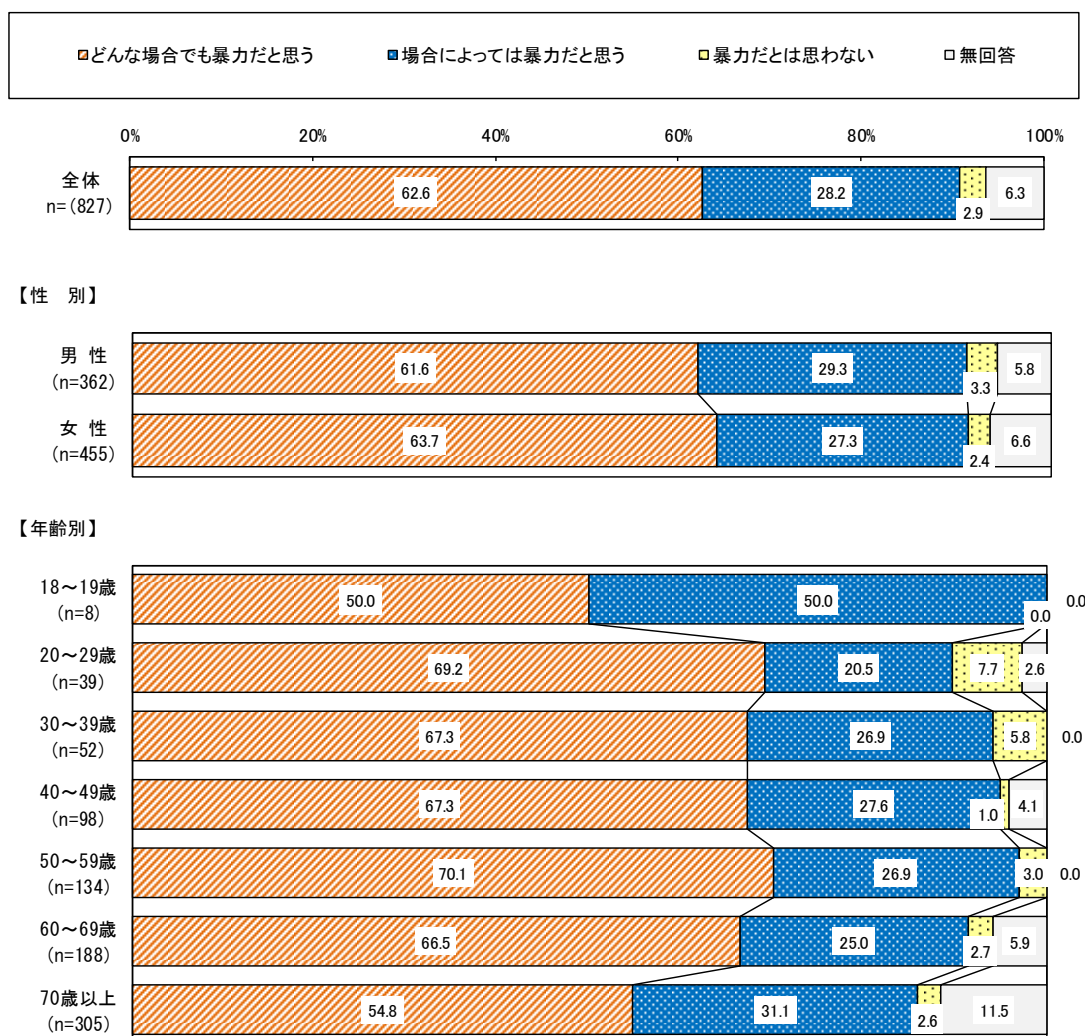
【電話・メール・SNS の内容を細かくチェックする】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が約6割、「場合によっては暴力だと思う」が約3割となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方がやや高く、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別では、50歳代と60歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が高い。

⑩ 何を言っても無視する



<全体結果>

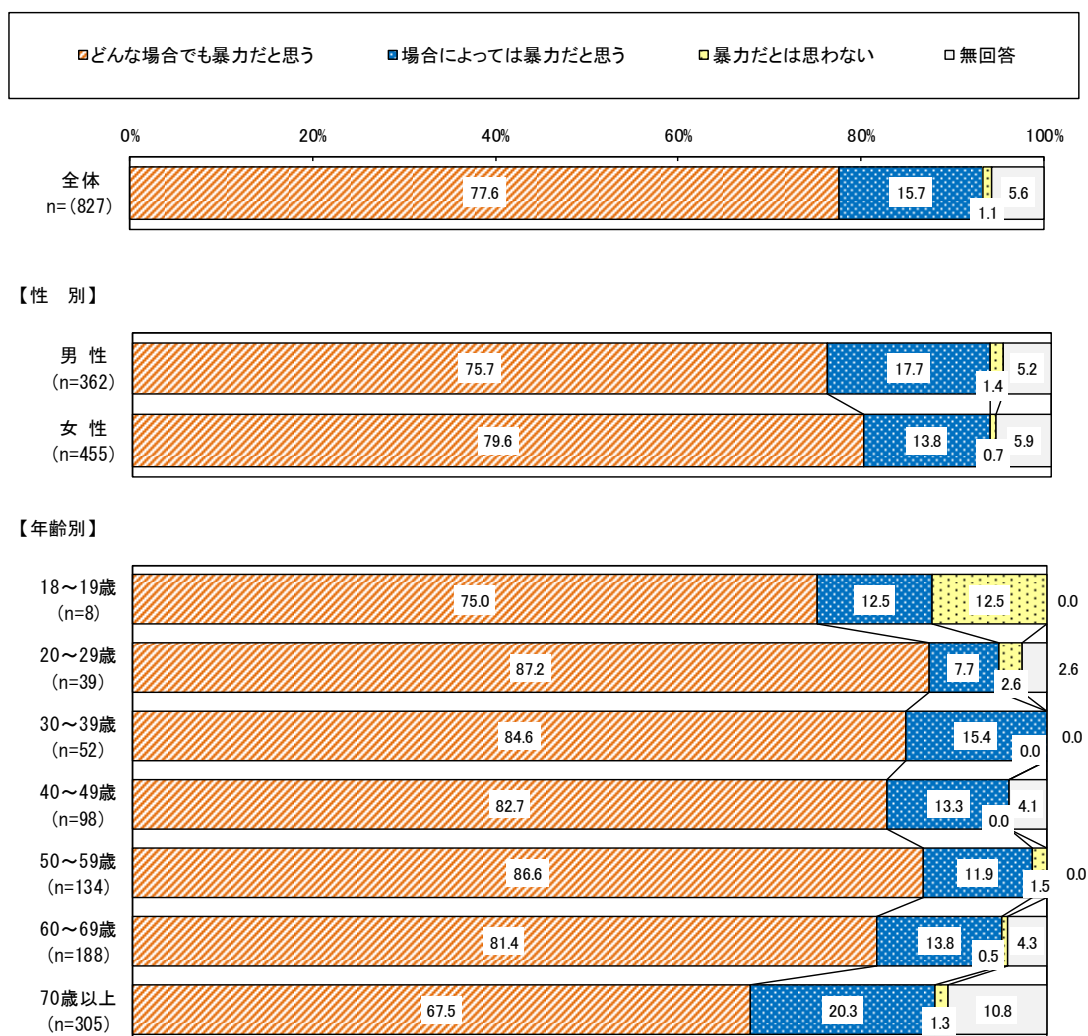
【何を言っても無視する】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が6割強、「場合によっては暴力だと思う」が3割弱となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差を見られない。

年齢別では、各年齢層とも、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が半数以上となっている。

⑪ 大声でどなられたり、脅されたりする



<全体結果>

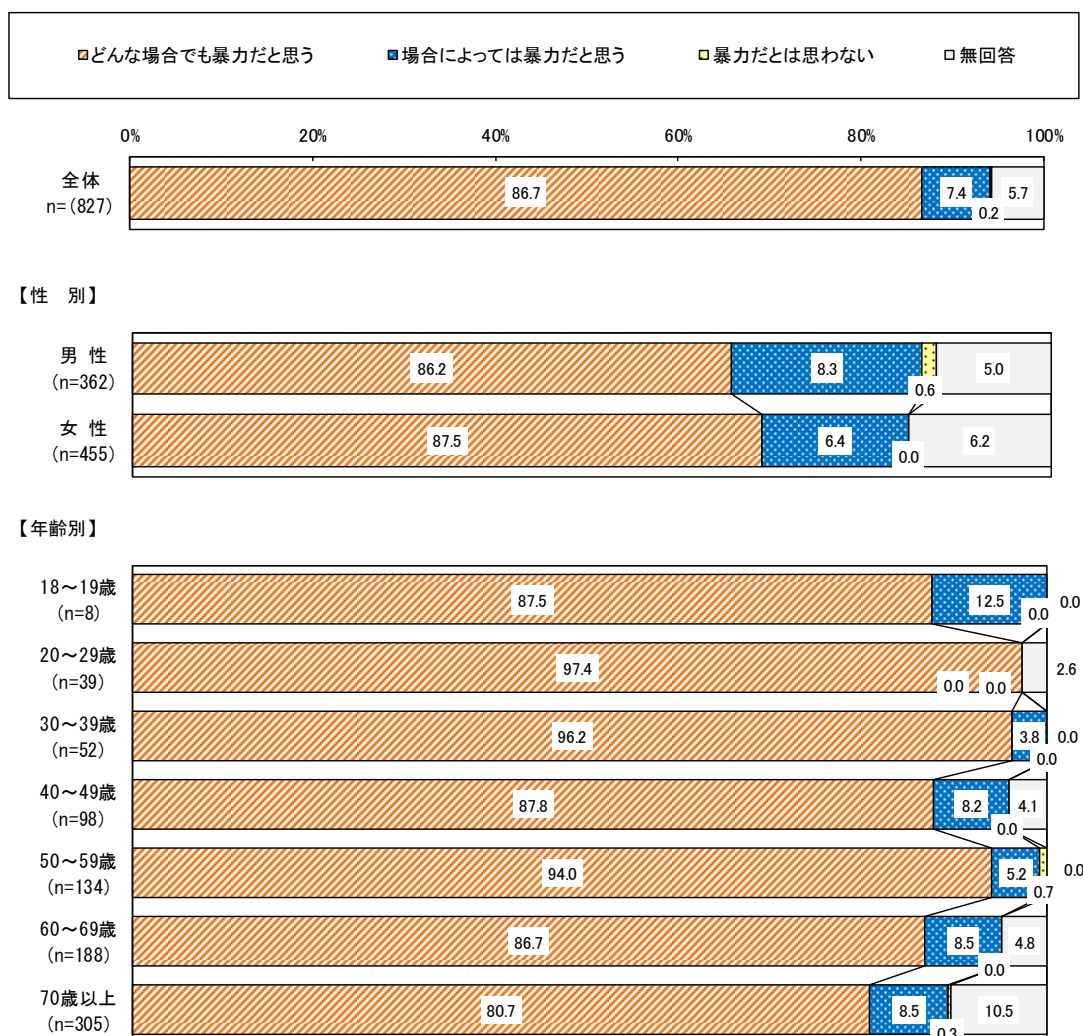
【大声でどなられたり、脅されたりする】について、「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が8割弱、「場合によっては暴力だと思う」が1割台となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合は、男性より女性の方がやや高く、「場合によっては暴力だと思う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別では、20歳代～60歳代で「どんな場合でも暴力だと思う」と回答した割合が8割以上となっている。

⑫ 子どもの目の前で、殴る、大声でどなるなどの行為を受ける



<全体結果>

【子どもの目の前で、殴る、大声でどなるなどの行為を受ける】について、「どのような場合でも暴力だと思う」と回答した割合が9割弱、「場合によっては暴力だと思う」が1割未満となっている。

<性別・年齢別>

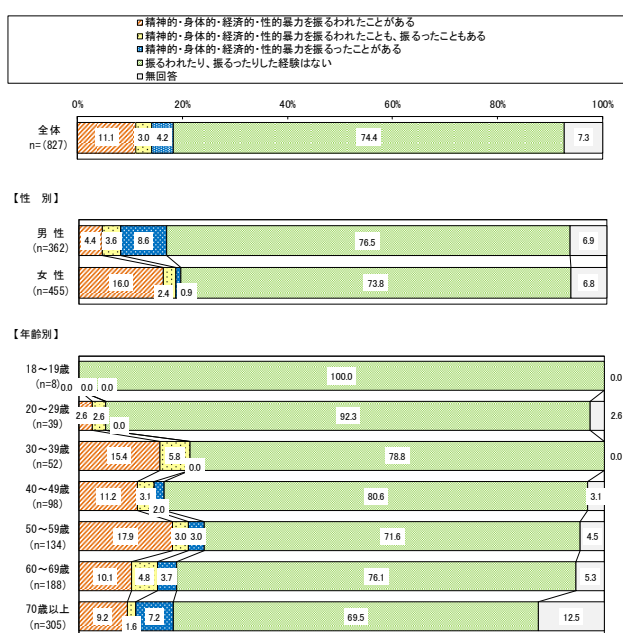
男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、20歳代と30歳代と50歳代で「どのような場合でも暴力だと思う」と回答した割合が9割以上となっている。

(2) 配偶者などから（への）暴力行為（DV）を受けた（行った）経験の有無

問 19 配偶者やパートナーなどから受ける暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。あなたは、配偶者やパートナーなどから、精神的・身体的・経済的・性的暴力のいずれかでも振るわれたり、振るったりした経験がありますか。
次の中から1つだけお選びください。

- ※身体的暴力：「殴る」「蹴る」「物を投げつける」など
- 精神的暴力：「脅す」「長時間無視する」「人格を否定する」「行動を監視する」など
- 経済的暴力：「生活費を渡さない」「働くことを妨害する」など
- 性的暴力：「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しない」など



<全体結果>

配偶者などから精神的・身体的・経済的・性的暴力を、「振るわれたり、振るったりした経験はない」の割合が最も高く、7割強を占めている。「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」が1割強、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことも、振るったこともある」、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るったことがある」が1割未満となっている。

<性別・年齢別>

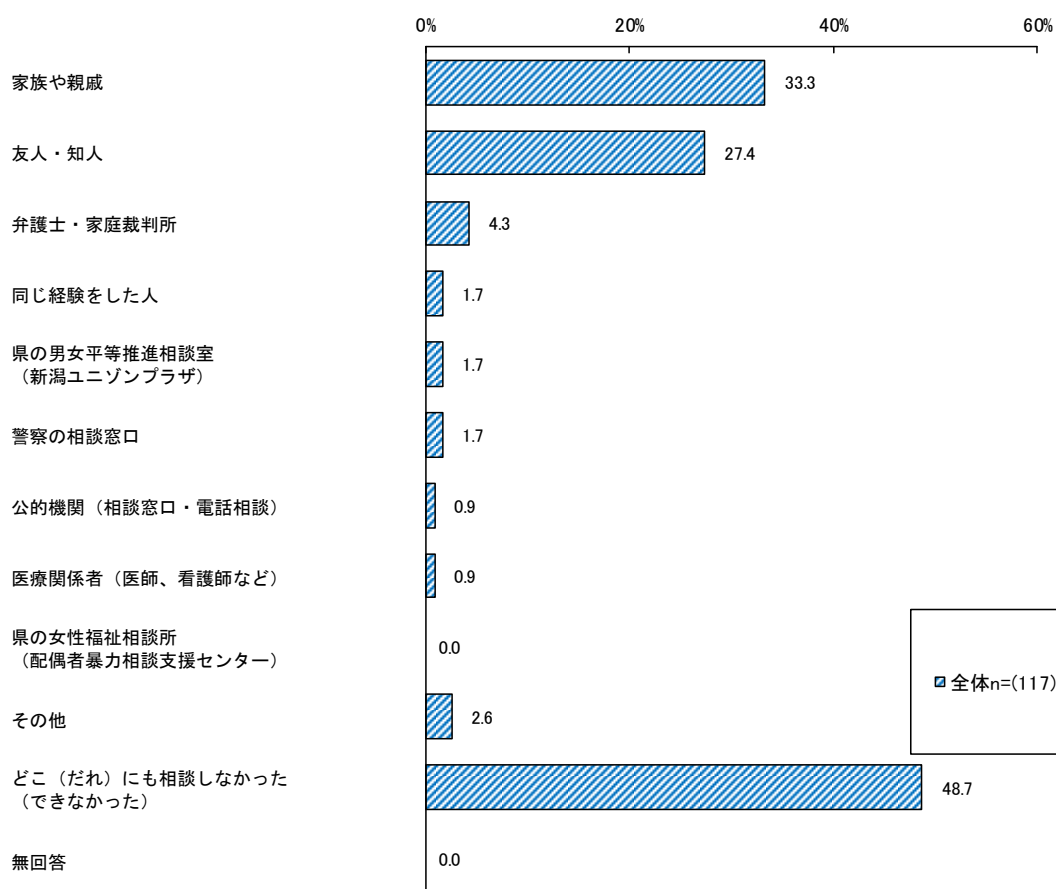
男女別では、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」の割合は、女性の方が高く1割を超えている。

年齢別では、精神的・身体的・経済的・性的暴力を「振るわれたり、振るったりした経験はない」の割合は、20歳代で最も高く、9割を超えている。

一方、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」の割合は、30歳代と50歳代で高く、1割強となっている。

(3) 配偶者などからの暴力（DV）に関する相談先

問 20 [問 19 で「1. 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」
「2. 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことも、振るったこともある」とお答えになった方にお伺いします]
あなたはこのような行為を受けていることを、どこか（誰か）に相談しましたか。
次の中から該当するものすべてお選びください

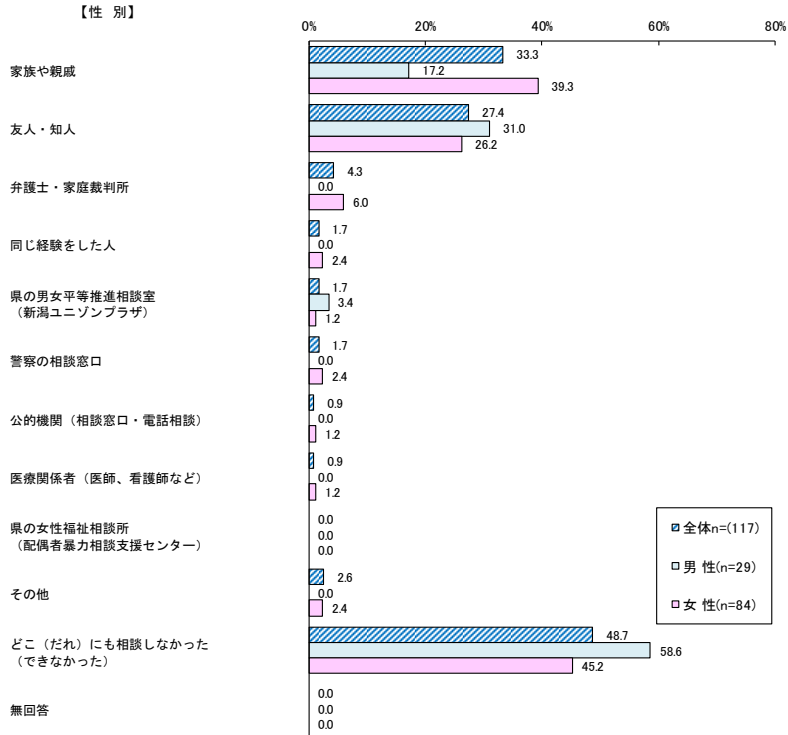


<全体結果>

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した人が最も多く、5割弱となっている。相談先としては「家族や親戚」が3割強、「友人・知人」が3割弱となっている。

<性別・年齢別>

該当者が117人と少ないため、図表のみの掲載とする。



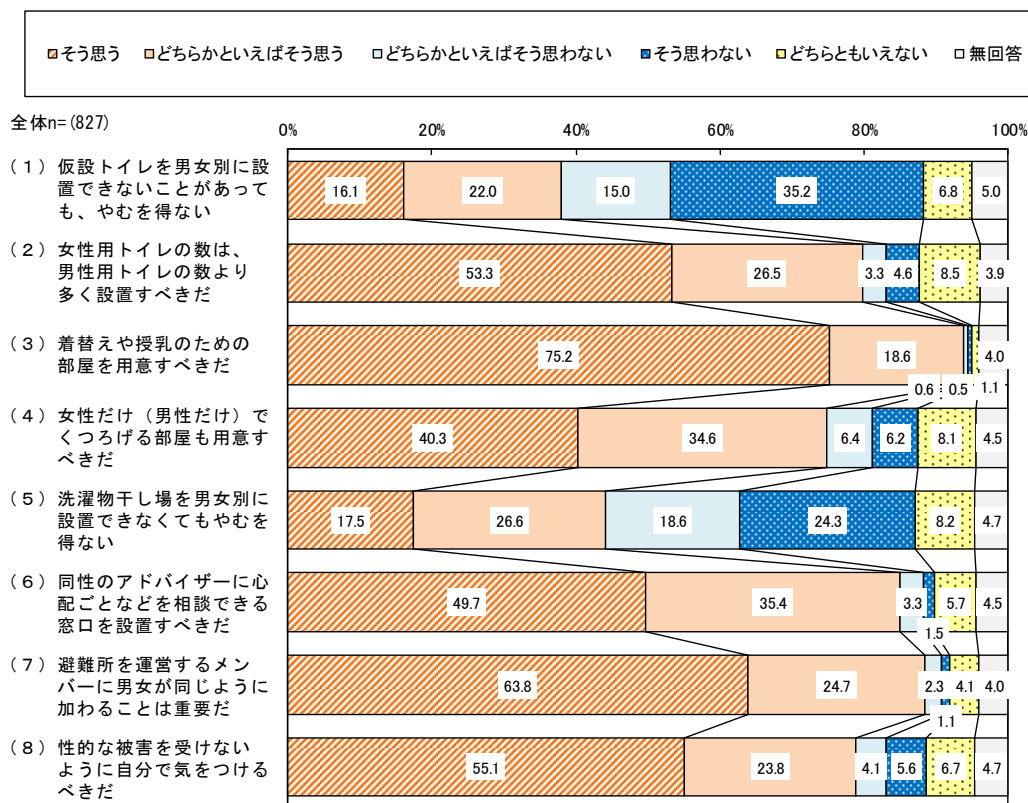
	合計	家族や親戚	友人・知人	同じ経験をした人	県の男女平等推進相談室 (新潟ユニゾンプラザ)	県の女性福祉相談所 (配偶者暴力相談支援センター)	公的機関 (相談窓口・電話相談)	警察の相談窓口
全体	117	39	32	2	2	0	1	2
男性	29	5	9	0	1	0	0	0
女性	84	33	22	2	1	0	1	2
男性、女性のどちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	4	1	1	0	0	0	0	0
18～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0
20～29歳	2	2	2	0	0	0	0	0
30～39歳	11	6	5	0	0	0	0	0
40～49歳	14	5	8	0	1	0	0	0
50～59歳	28	9	6	0	0	0	1	1
60～69歳	28	8	4	2	1	0	0	0
70歳以上	33	9	7	0	0	0	0	0
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0

	合計	弁護士・家庭裁判所	医療関係者 (医師、看護師など)	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった (できなかった)	無回答
全体	117	5	1	3	57	0
男性	29	0	0	0	17	0
女性	84	5	1	2	38	0
男性、女性のどちらでもない	0	0	0	0	0	0
無回答	4	0	0	1	2	0
18～19歳	0	0	0	0	0	0
20～29歳	2	0	0	0	2	0
30～39歳	11	1	0	0	3	0
40～49歳	14	1	1	0	2	0
50～59歳	28	2	0	0	18	0
60～69歳	28	0	0	0	15	0
70歳以上	33	1	0	3	18	0
無回答	1	0	0	0	1	0

7 防災・災害復興対策について

(1) 防災・災害復興対策に関する考え方

問 21 災害などの緊急時における避難所に関する、次のような意見や考え方をあなたは
どう思いますか。それぞれ1つずつお選びください。

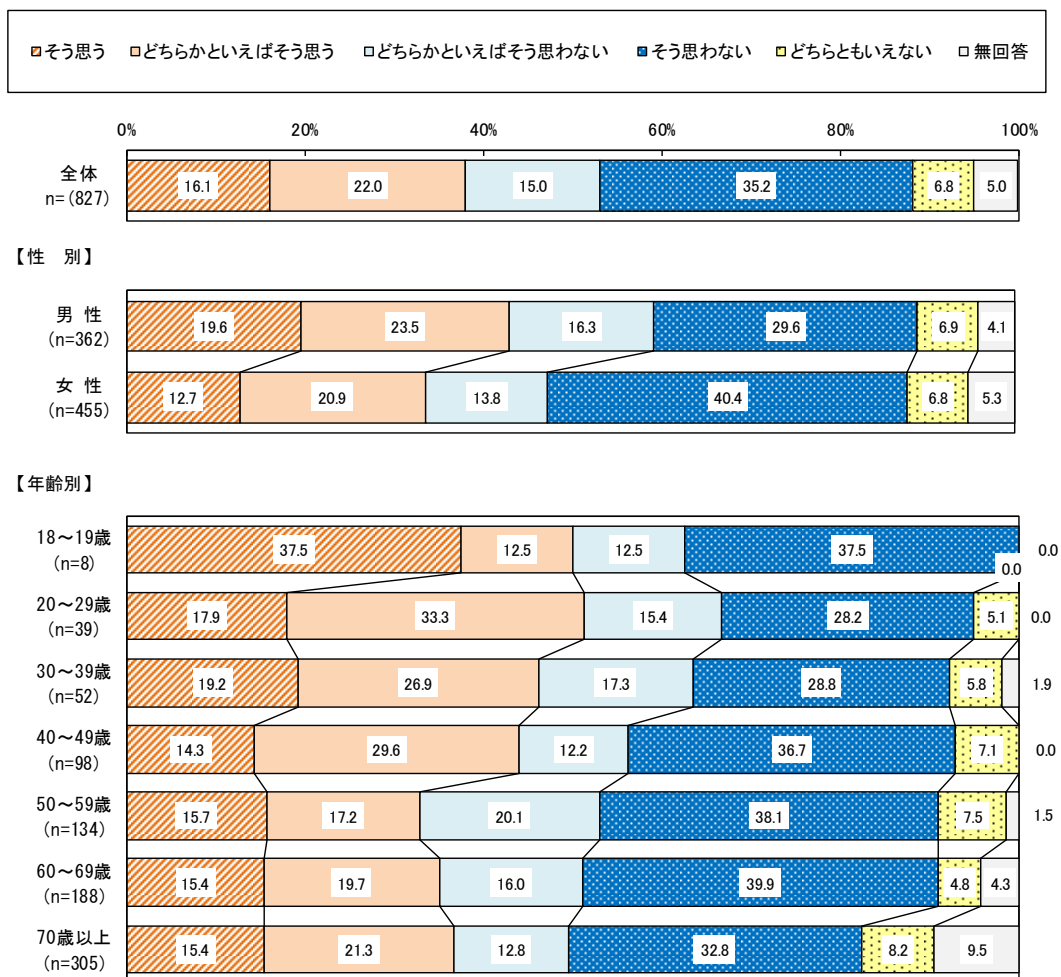


<全体結果>

防災・災害復興対策に関する考え方について8つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(3) 着替えや授乳のための部屋を用意すべきだ】が最も高く、9割強となっている。以下、【(7) 避難所を運営するメンバーに男女が同じように加わることは重要だ】、【(6) 同性のアドバイザーに心配ごとなどを相談できる窓口を設置すべきだ】が8割台、【(2) 女性用トイレの数は、男性用トイレの数より多く設置すべきだ】、【(8) 性的な被害を受けないように自分で気をつけるべきだ】、【(4) 女性だけ(男性だけ)でくつろげる部屋を用意すべきだ】が7割台、【(5) 洗濯物干し場を男女別に設置できなくてもやむを得ない】が4割台、【(1) 仮設トイレを男女別に設置できないことがあっても、やむを得ない】が3割台で続いている。

① 仮設トイレを男女別に設置できないことがあっても、やむを得ない



<全体結果>

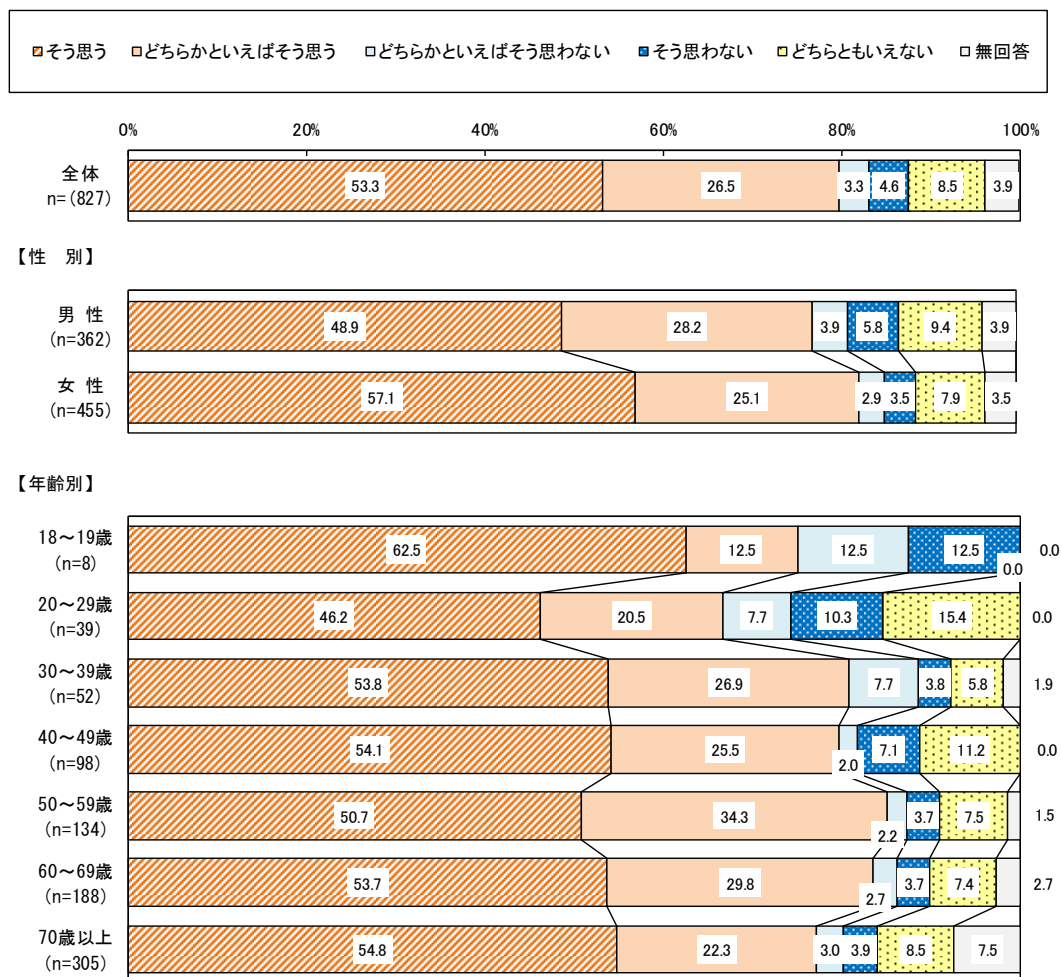
【仮設トイレを男女別に設置できないことがあっても、やむを得ない】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を12.1ポイント下回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、男性の方が高く、『思わない』計の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代で高く、半数を超えている。

② 女性用トイレの数は、男性用トイレの数より多く設置すべきだ



<全体結果>

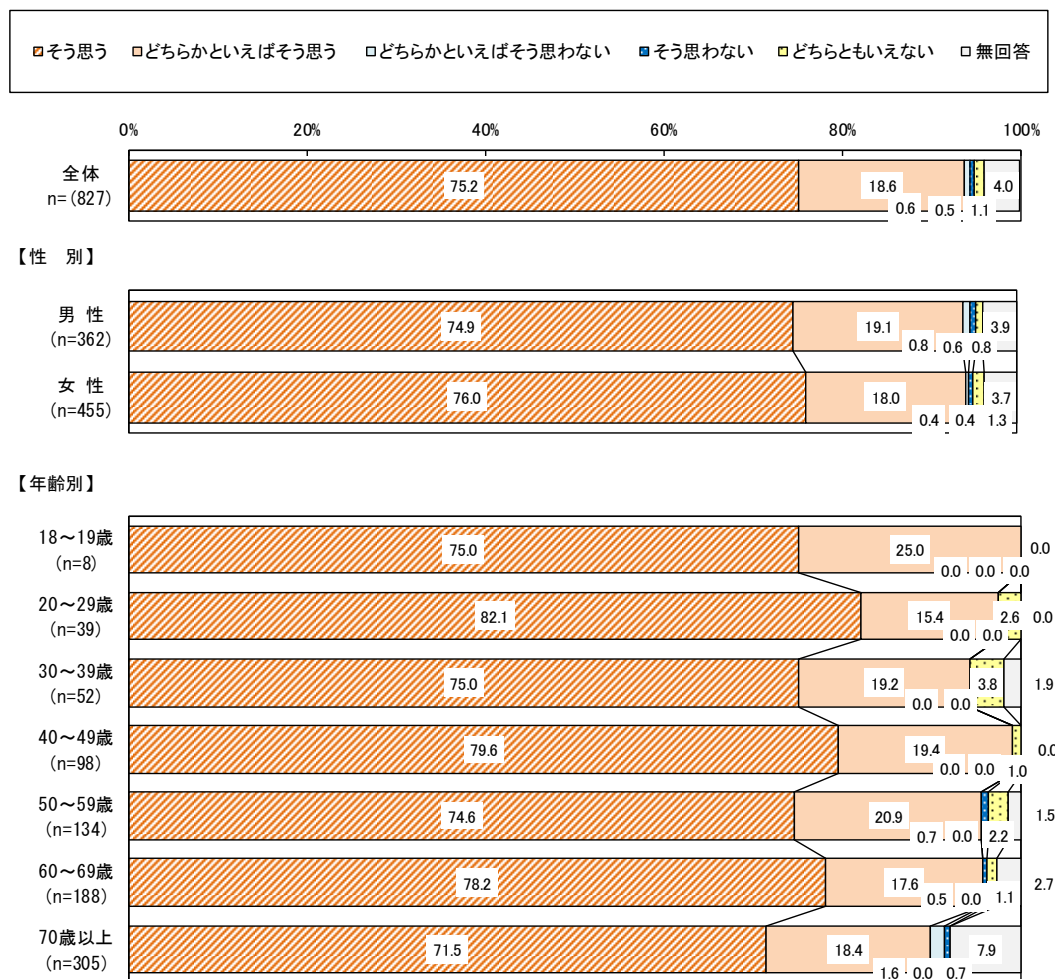
【女性用トイレの数は、男性用トイレの数より多く設置すべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を71.9ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、30歳代~60歳代で高くなっている。

③ 着替えや授乳のための部屋を用意すべきだ



<全体結果>

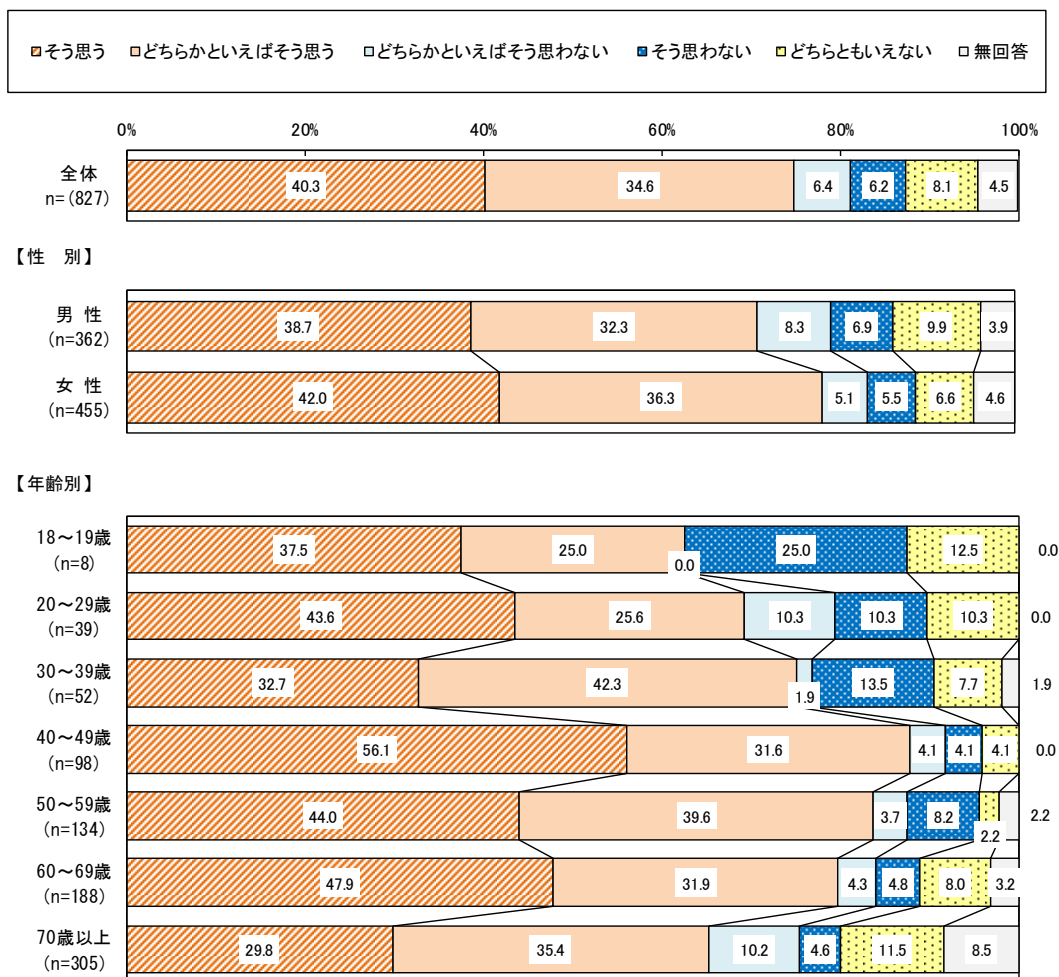
【着替えや授乳のための部屋を用意すべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を92.7ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、70歳以上でやや低くなっている。

④ 女性だけ（男性だけ）でくつろげる部屋も用意すべきだ



<全体結果>

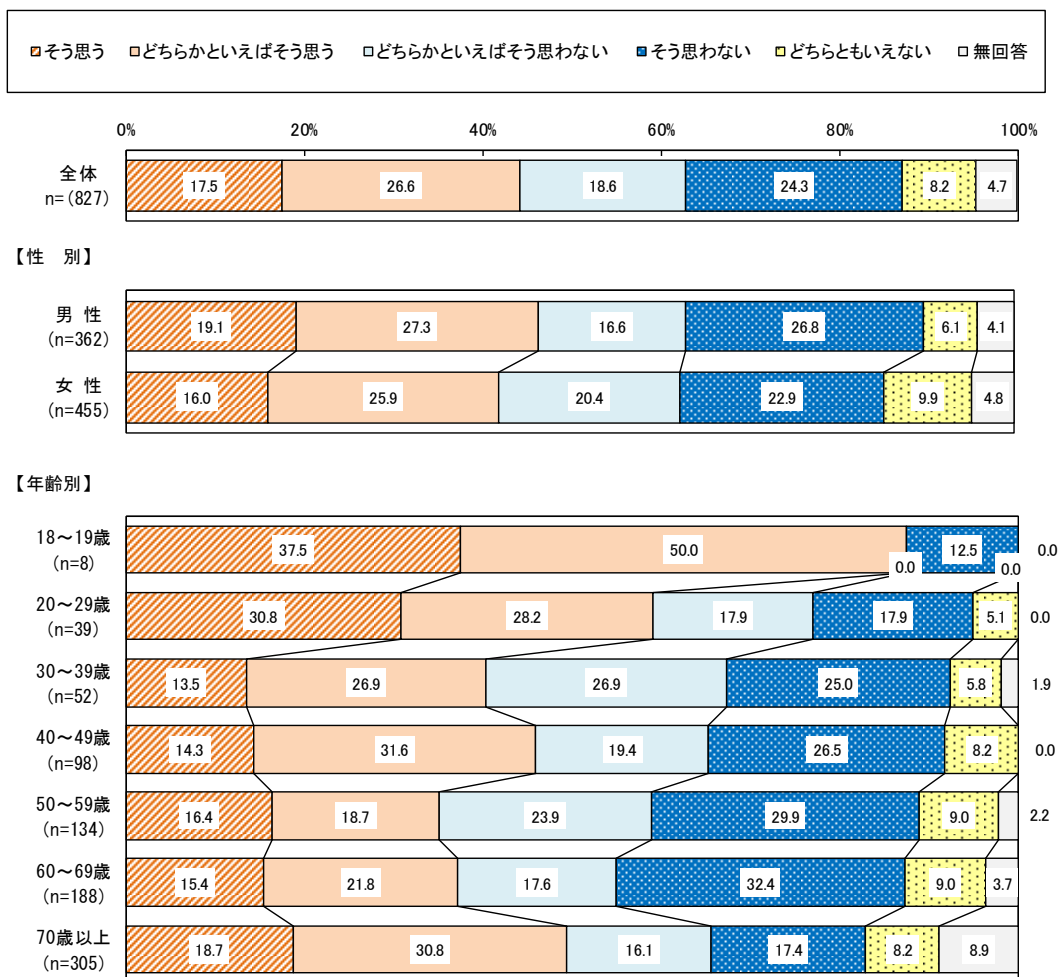
【女性だけ（男性だけ）でくつろげる部屋も用意すべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を62.2ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、女性の方が高く、『思わない』計の割合は、男性の方が高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、40歳代と50歳代で高く、8割を超えている。

⑤ 洗濯物干し場を男女別に設置できなくてもやむを得ない



<全体結果>

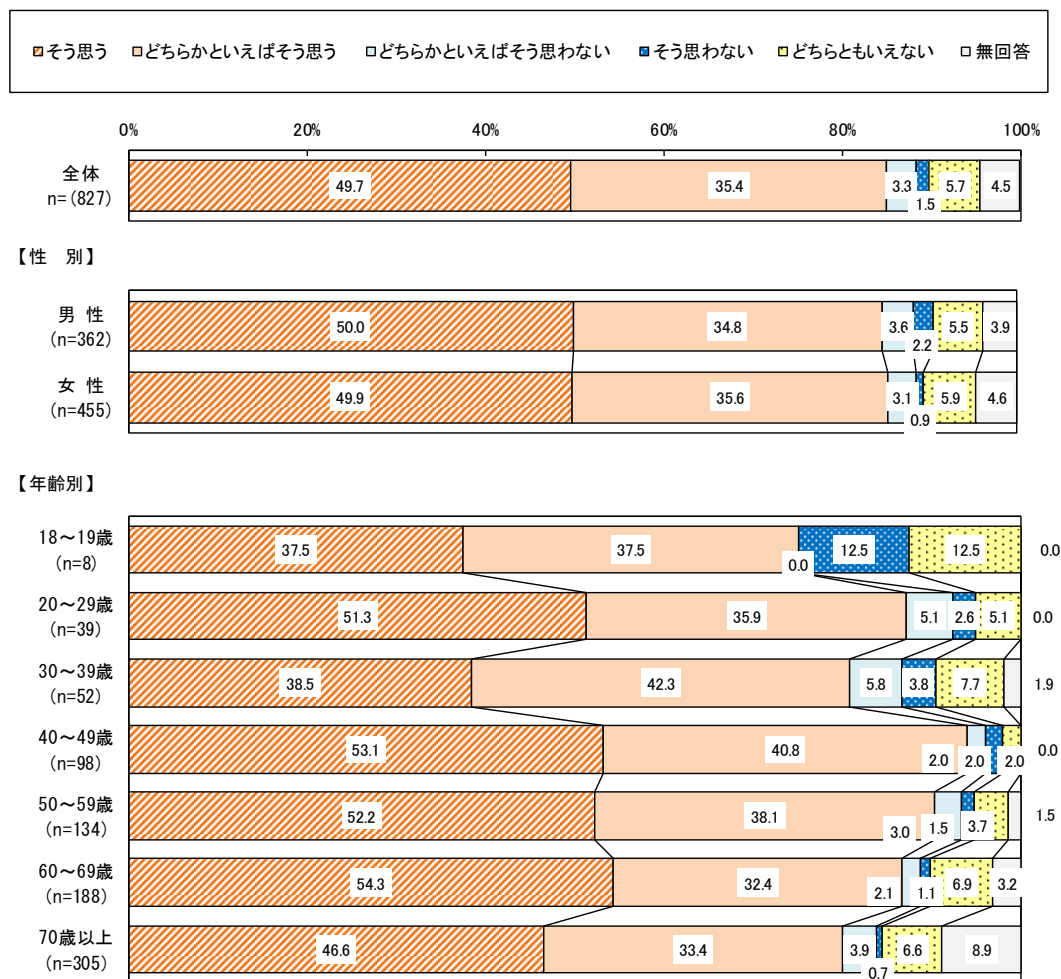
【洗濯物干し場を男女別に設置できなくてもやむを得ない】については、『思う』計の割合と、『思わない』計の割合が拮抗している。

<性別・年齢別>

男女別では、『思う』計の割合は、男性の方がやや高くなっている。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代で最も高く、約6割となっている。

⑥ 同性のアドバイザーに心配ごとなどを相談できる窓口を設置すべきだ



<全体結果>

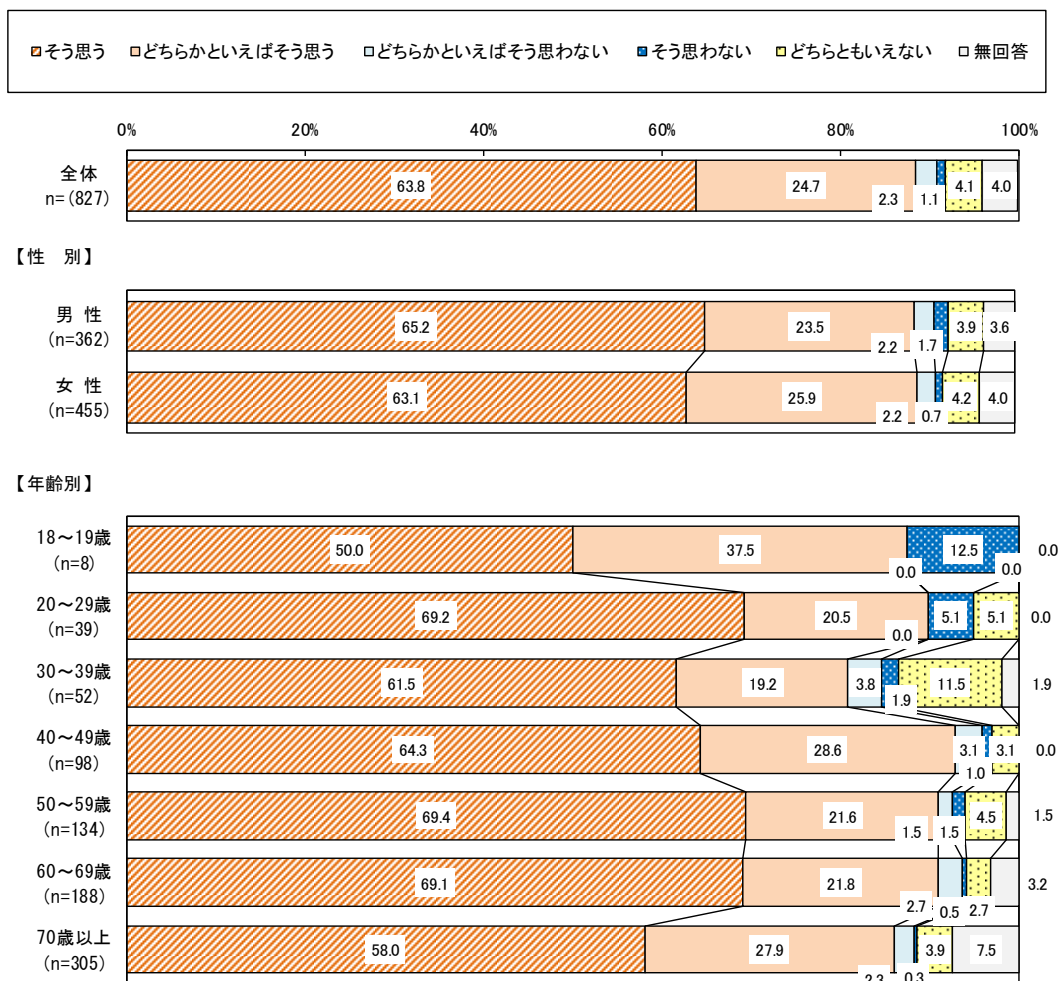
【同性のアドバイザーに心配ごとなどを相談できる窓口を設置すべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を80.4ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、40歳代と50歳代で高く、9割を超えている。

⑦ 避難所を運営するメンバーに男女が同じように加わることは重要



<全体結果>

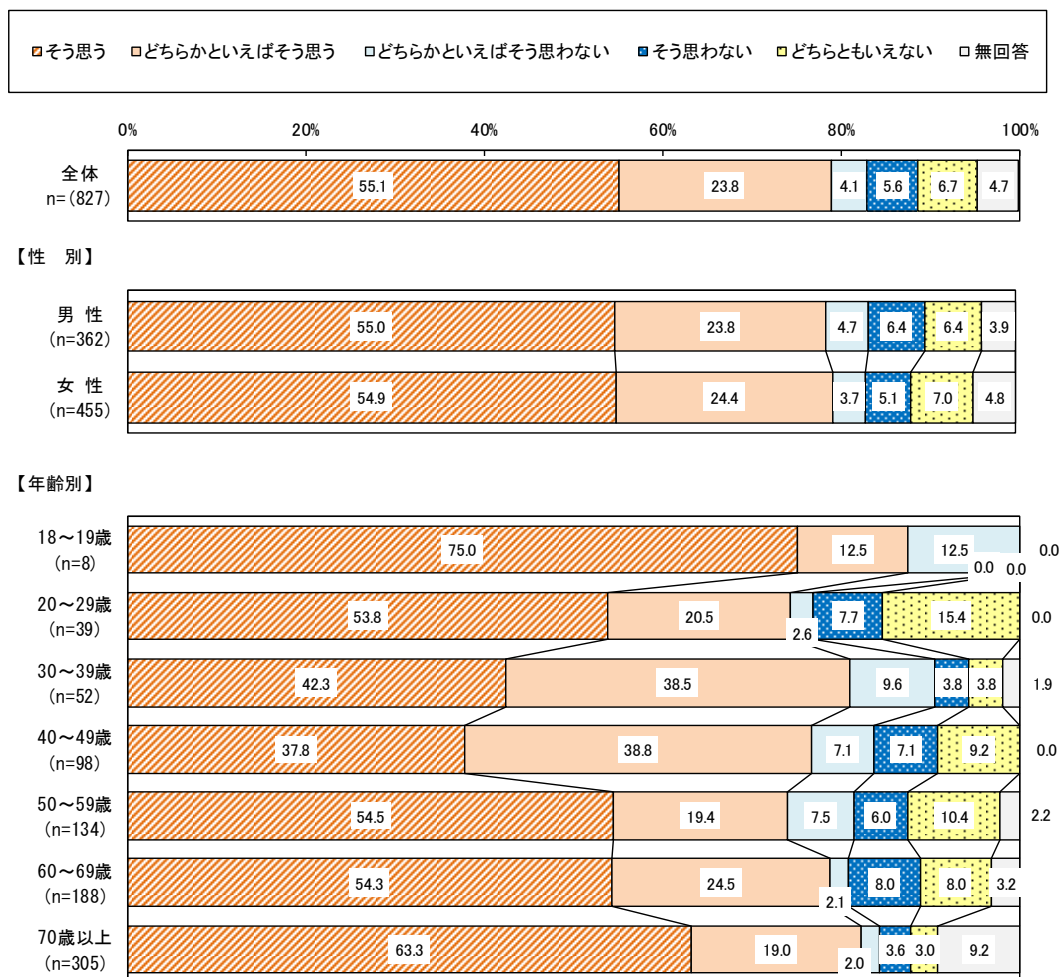
【避難所を運営するメンバーに男女が同じように加わることは重要】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を85.1ポイント上回った。

<性別・年齢別>

男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、20歳代と40歳代~60歳代で高く、9割前後を占めている。

⑧ 性的な被害を受けないように自分で気をつけるべきだ



<全体結果>

【性的な被害を受けないように自分で気をつけるべきだ】については、『思う』計の割合が、『思わない』計の割合を69.3ポイント上回った。

<性別・年齢別>

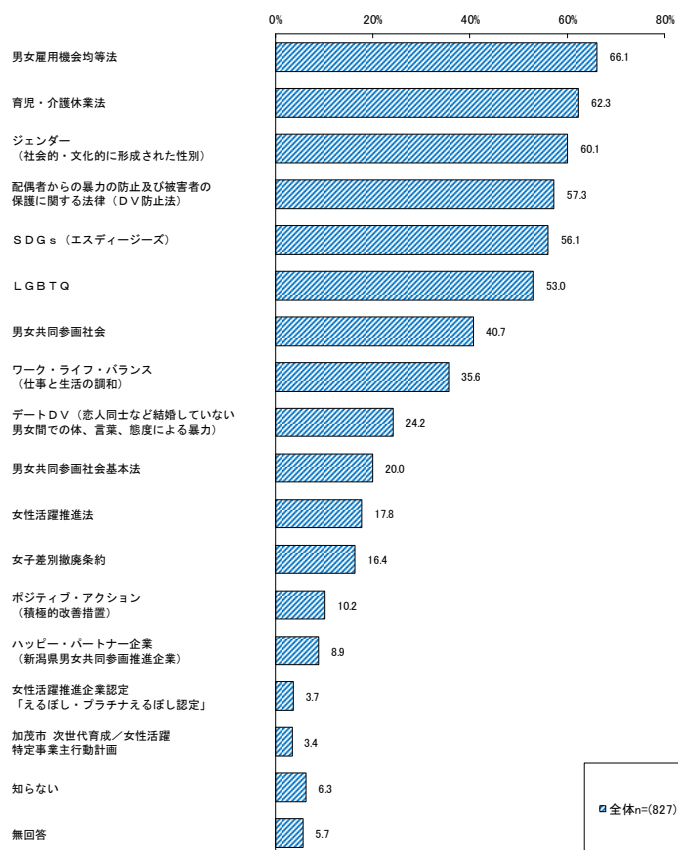
男女別では、特に大きな差は見られない。

年齢別では、『思う』計の割合は、30歳代と70歳以上で高く、8割を超えている。

8 男女共同参画社会の推進に関することについて

(1) 法律や制度の認知度

問 22 あなたは、次に挙げる法律や制度の名称などについてご存知ですか。



<全体結果>

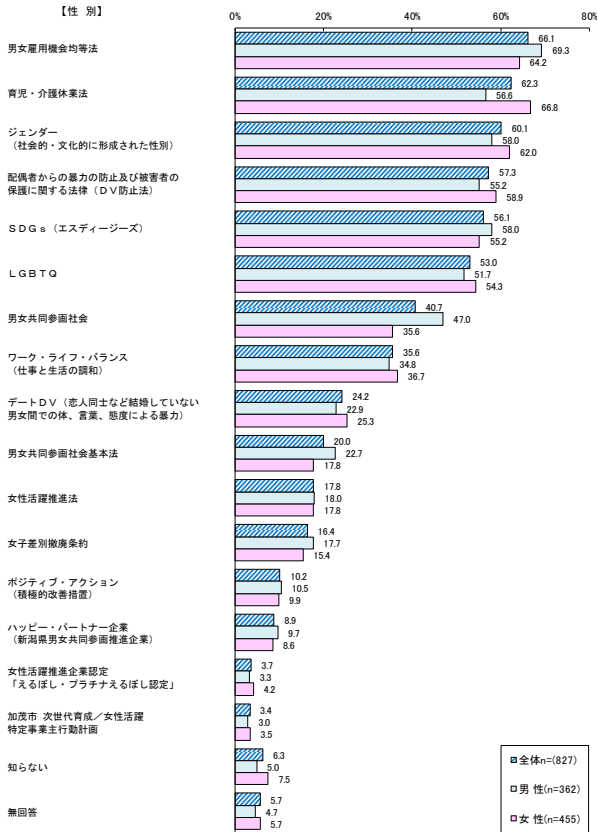
法律や制度の認知度について16項目で調査した。

知っているでは、「男女雇用機会均等法」が6割強で最も高く、次いで「育児・介護休業法」、「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」の割合が6割台、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」、「SDGs(エスディージーズ)」、「LGBTQ」が5割台、「男女共同参画社会」が4割台、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が3割台となっている。

<性別・年齢別>

男女別では、男性では「男女共同参画社会」、「男女共同参画社会基本法」、「男女雇用機会均等法」の割合などが高く、女性では「育児・介護休業法」の割合などが高くなっている。

年齢別では、20歳代では「男女共同参画社会」、「男女共同参画社会基本法」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「女性活躍推進法」、「デートDV(恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力)」、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」、「LGBTQ」、50歳代では「育児・介護休業法」の割合が最も高くなっている。

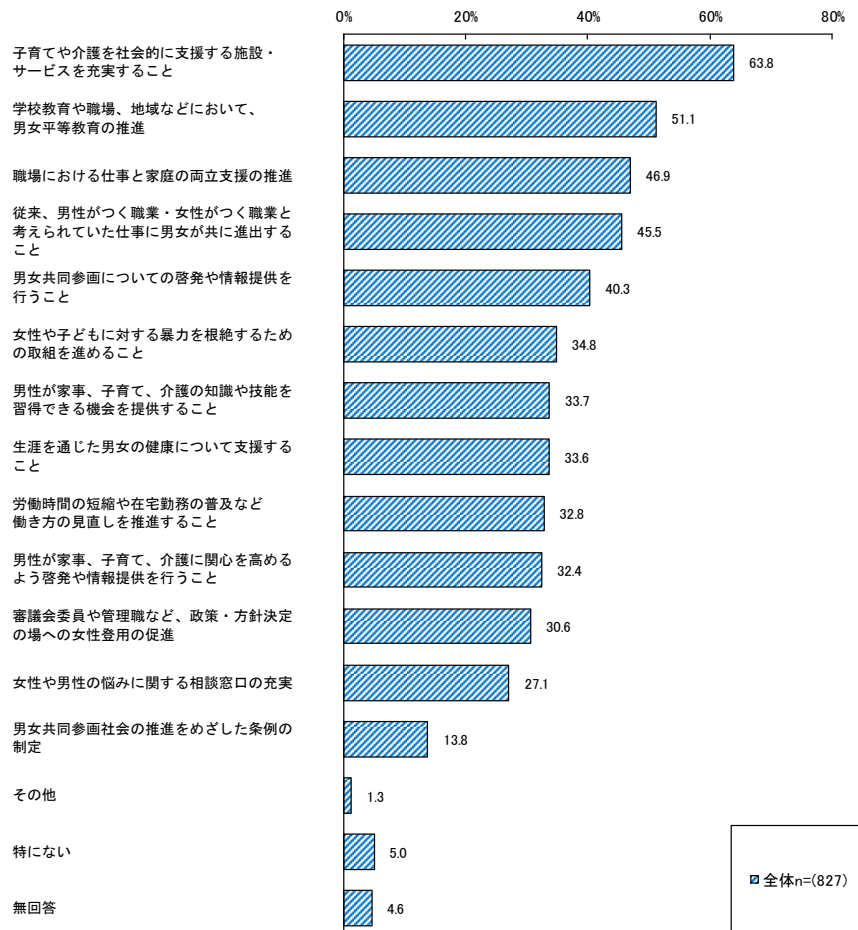


	合計	上段: 回答者数 / 下段: 割合 (%)										
		男女共同参画社会	男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	女性活躍推進法	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)	デートDV (恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力)	ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	知らない	無回答
全体	827	337	165	136	547	515	147	474	200	294		
男性	362	170	82	64	251	205	65	200	83	126		
女性	455	162	81	70	292	304	81	268	115	167		
性別	100.0%	40.7%	22.7%	17.7%	69.3%	56.6%	18.0%	55.2%	22.9%	34.8%		
男性、女性のどちらでもない	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
無回答	9	4	1	1	3	5	0	5	1	0		
年齢	100.0%	44.4%	11.1%	11.1%	33.3%	55.6%	0.0%	55.6%	11.1%	0.0%		
18～19歳	8	4	4	4	6	6	3	3	5	4		
20～29歳	39	25	22	16	31	22	12	24	24	26		
30～39歳	52	24	17	14	37	35	8	30	18	28		
40～49歳	98	31	15	17	69	62	19	54	23	44		
50～59歳	134	54	21	10	94	98	26	92	38	60		
60～69歳	188	76	35	28	135	129	38	117	48	62		
70歳以上	305	122	51	46	175	162	41	153	43	70		
無回答	3	1	0	1	0	1	0	1	1	0		
性別	100.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%		

	合計	上段: 回答者数 / 下段: 割合 (%)									
		ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	SDGs (エスディーズ)	LGBTQ	ハッピー・パートナー企業 (新潟県男女共同参画推進企業)	女性活躍推進企業認定「えるぼし・プラチナえるぼし認定」	加茂市 次世代育成/女性活躍 特定事業主行動計画	知らない	無回答	
全体	827	497	84	464	438	74	31	28	52	47	
男性	362	210	38	210	187	35	12	11	18	17	
女性	455	282	45	251	247	39	19	16	34	26	
性別	100.0%	60.1%	10.5%	58.0%	51.7%	9.7%	3.3%	3.0%	5.0%	4.7%	
男性、女性のどちらでもない	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
無回答	9	4	1	2	3	0	0	1	0	4	
年齢	100.0%	44.4%	11.1%	22.2%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	44.4%	
18～19歳	8	5	0	6	6	0	0	1	0	0	
20～29歳	39	29	8	32	31	6	2	2	1	2	
30～39歳	52	41	0	43	36	8	3	0	0	0	
40～49歳	98	74	0	82	69	15	5	0	0	0	
50～59歳	134	102	15	99	90	19	10	6	2	3	
60～69歳	188	129	23	113	114	13	6	12	5	3	
70歳以上	305	117	26	92	96	14	5	11	31	35	
無回答	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
性別	100.0%	38.4%	8.5%	30.2%	31.5%	4.6%	1.6%	3.6%	10.2%	11.5%	

(2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと

問 23 あなたは、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にとらわれず、それぞれが個性や能力を発揮できる「男女共同参画社会」を推進していくために、加茂市は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



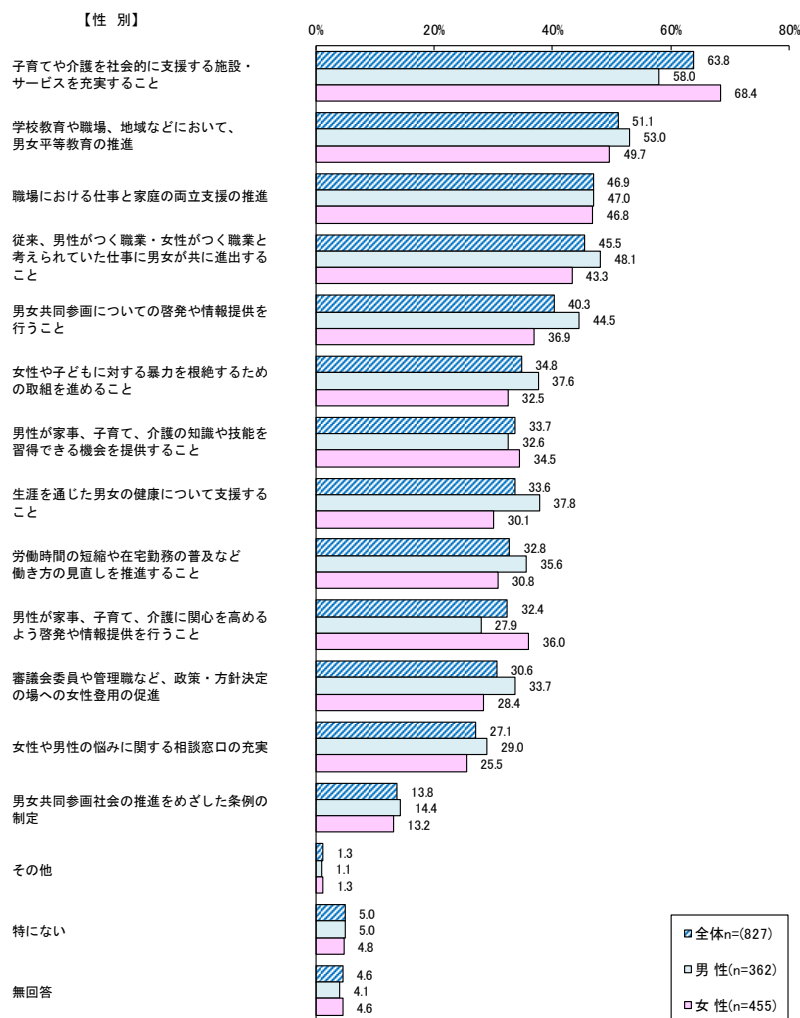
<全体結果>

男女共同参画社会を推進していくために、加茂市は「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」に、最も力を入れてほしいと考える人が多く、6割強となっている。次いで、「学校教育や職場、地域などにおいて、男女平等教育の推進」が5割台、「職場における仕事と家庭の両立支援の推進」、「従来、男性がつく職業・女性がつく職業と考えられていた仕事に男女が共に進出すること」、「男女共同参画についての啓発や情報提供を行うこと」が4割台、「女性や子どもに対する暴力を根絶するための取組を進めること」、「男性が家事、子育て、介護の知識や技能を習得できる機会を提供すること」、「生涯を通じた男女の健康について支援すること」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること」、「男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」、「審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場への女性登用の促進」が3割台などとなっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「男女共同参画についての啓発や情報提供を行うこと」、「審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場への女性登用の促進」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること」、「生涯を通じた男女の健康について支援すること」、「女性や子どもに対する暴力を根絶するための取組を進めること」の割合は男性の方が高くなっている。一方、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」、「男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」などの割合は女性の方が高くなっている。

年齢別では、20歳代では「男性が家事、子育て、介護の知識や技能を習得できる機会を提供すること」、30歳代では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること」、「生涯を通じた男女の健康について支援すること」、「女性や子どもに対する暴力を根絶するための取組を進めること」、20歳代～40歳代では「男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」、50歳代以上では「男女共同参画についての啓発や情報提供を行うこと」の割合が高くなっている。



上段：回答者数／下段：割合(%)

	合計	男女共同参画 についての啓 発や情報提供 を行うこと	学校教育や職 場、地域など において、男 女平等教育の 推進	審議会委員や 管理職など、 政策・方針決 定の場への女 性登用の促進	従来、男性が つく職業・女 性がつく職業 と考えられて いた仕事に男 女が共に進出 すること	子育てや介護 を社会的に支 援する施設・ サービスを実 施すること	労働時間の短 縮や在宅勤務 の普及など働 き方の見直し を推進するこ と	男性が家事、 子育て、介護 に関心を高め るよう啓発や 情報提供を行 うこと	男性が家事、 子育て、介護 の知識や技能 を習得できる 機会を提供す ること	
全 体	827 100.0%	333 40.3%	423 51.1%	253 30.6%	376 45.5%	528 63.8%	271 32.8%	268 32.4%	279 33.7%	
【性 別】	男 性	362 100.0%	161 44.5%	192 53.0%	122 33.7%	174 48.1%	210 58.0%	129 27.9%	118 32.6%	
	女 性	455 100.0%	168 36.9%	226 49.7%	129 28.4%	197 43.3%	311 68.4%	140 30.8%	157 34.5%	
	男性、女性の どちらでもない	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	
	無回答	9 100.0%	4 44.4%	4 44.4%	2 22.2%	5 55.6%	6 66.7%	2 22.2%	3 33.3%	
【年 齢 別】	18～19歳	8 100.0%	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%	2 25.0%	4 50.0%	4 50.0%	3 37.5%	5 62.5%
	20～29歳	39 100.0%	9 23.1%	22 56.4%	15 38.5%	19 48.7%	26 66.7%	20 51.3%	16 41.0%	22 56.4%
	30～39歳	52 100.0%	18 34.6%	27 51.9%	17 32.7%	25 48.1%	40 76.9%	32 61.5%	20 38.5%	17 32.7%
	40～49歳	98 100.0%	34 34.7%	49 50.0%	30 30.6%	46 46.9%	73 74.5%	48 49.0%	40 40.8%	35 35.7%
	50～59歳	134 100.0%	58 43.3%	68 50.7%	38 28.4%	61 45.5%	87 64.9%	46 34.3%	37 27.6%	38 28.4%
	60～69歳	188 100.0%	88 46.8%	107 56.9%	55 29.3%	82 43.6%	127 67.6%	53 28.2%	64 34.0%	68 36.2%
	70歳以上	305 100.0%	123 40.3%	145 47.5%	95 31.1%	139 45.6%	169 55.4%	67 22.0%	87 28.5%	92 30.2%
	無回答	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%

	合計	生涯を通じた 男女の健康に ついて支援す ること	女性や子ども に対する暴力 を根絶するた めの取組を進 めること	女性や男性の 悩みに関する 相談窓口の充 実	男女共同参画 社会の推進を めざした条例 の制定	職場における 仕事と家庭の 両立支援の推 進	その他	特にな	無回答	
全 体	827 100.0%	278 33.6%	288 34.8%	224 27.1%	114 13.8%	388 46.9%	11 1.3%	41 5.0%	38 4.6%	
【性 別】	男 性	362 100.0%	137 37.8%	136 37.6%	105 29.0%	52 14.4%	170 47.0%	4 1.1%	18 5.0%	15 4.1%
	女 性	455 100.0%	137 30.1%	148 32.5%	116 25.5%	60 13.2%	213 46.8%	6 1.3%	22 4.8%	21 4.6%
	男性、女性の どちらでもない	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	9 100.0%	4 44.4%	4 44.4%	3 33.3%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%	1 11.1%	2 22.2%
【年 齢 別】	18～19歳	8 100.0%	4 50.0%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
	20～29歳	39 100.0%	15 38.5%	16 41.0%	13 33.3%	8 20.5%	21 53.8%	1 2.6%	3 7.7%	1 2.6%
	30～39歳	52 100.0%	23 44.2%	25 48.1%	16 30.8%	7 13.5%	31 59.6%	1 1.9%	0 0.0%	2 3.8%
	40～49歳	98 100.0%	27 27.6%	36 36.7%	24 24.5%	10 10.2%	52 53.1%	0 0.0%	4 4.1%	2 2.0%
	50～59歳	134 100.0%	41 30.6%	41 30.6%	36 26.9%	16 11.9%	63 47.0%	1 0.7%	5 3.7%	4 3.0%
	60～69歳	188 100.0%	59 31.4%	72 38.3%	48 25.5%	23 12.2%	88 46.8%	4 2.1%	7 3.7%	7 3.7%
	70歳以上	305 100.0%	107 35.1%	94 30.8%	83 27.2%	48 15.7%	126 41.3%	3 1.0%	22 7.2%	21 6.9%
	無回答	3 100.0%	2 66.7%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%

9 自由記入の結果

自由記入欄に記載してあった内容を整理したものを全て原文のまま以降に掲載する。

なお、ここで指摘された内容は、市民の具体的な声であるため、男女共同参画プランを見直す際に、十分考慮する必要があると考えられる。

	自由意見	属性	
		性別	年齢別
1	目指すべき社会の実現に向け、家庭・教育現場・企業・役所がそれぞれが主体となり、課題解決しなければならない事項があり、各々が連携することにより、達成が促進されると思う。そのコントロールは役所では、ないでしょうか。	男性	60～69歳
2	加茂市は就労する場、企業が他市と比べると少ないと思います。より良い生活にはやっぱり就職の場が大事で市の方でも企業の誘致を一生懸命やるべきだと思います。賃金アップが心のゆとり、家庭のゆとりになる様に大企業誘致も市の大きな役割だと思います。	女性	60～69歳
3	反男女平等、時代錯誤のナントカ会議、ナントカ教会とズルズルベッタリの政党が国を運営している限り加茂市としてナントカできるとは思えない。もっと人口減少して社会がガタガタになって落ちるところまで落ちないと目が醒めないと思う。将来の若者に期待する。教育に力を入れるしかない。	女性	60～69歳
4	男女共同参画社会の前提にはダイバーシティを認める社会の実現が根底にあると考える。逆説的に言えば暗黙知としての「常識」の否定に繋がると考える。歴史的、風土的に培われて来た「常識」の否定は社会を益々混乱させるのではないかと危惧する。「常識」を否定する程我々は成熟して来たのだろうか疑問である。各々の性が互いに取って替わるのではなく、互いの性を尊重し、その性に備わった役割を実践していく事で住みやすい社会が実現できる様に思う。行政にしよ、性差を縮める施策でなく、性差を活かした施策の実現を求める。	男性	60～69歳
5	現状は女性活躍に対して女性自身意識が低いと思われます。結果的に女性が活躍していない（様に）感じられています。女性が意欲的に活躍出来る雰囲気作りがベース。やる気のない者にはチャンスが無い…現状女性活躍していない。男女共同参画と言えどもそれぞれの違い、長所、短所はある。長所を活かし短所を補足し合える社会の実現が理想。男性に子供を生むことは出来ないし、女性に力仕事を求めてもダメ。それを理解しながら共同参画のベース作りが大切。	男性	60～69歳
6	ここに書くことではないが私が嫁いだ家は義父が軍人あがりて男尊女卑が当たり前の家だった。食事は男が先、女はのこり物、男はぜったい家事はしない。義母も又、俺とおめさんはみそ汁とつけ物が有ればいい、働いて来るもんはそうはいかないといつも言ってた。私もフルタイムで働いていたけど、だから夫は今でも何も出来ない。私が入院した時もチンスればいいだけの御飯とパックのおかずですました。男女共同参画があつたらあつたらもう少し変わってたかもしれない。義弟義妹達とは縁をきった。いつまでも精神的暴力を振るわれたくないから。	女性	70歳以上
7	難しい問題ですね	女性	50～59歳
8	国・地方議会議員のクォーター制に反対	男性	40～49歳
9	男女の平等はとても大事な事ですが、社会の傾向で、本当の意味の平等がはきちがえられているような感じを受ける。男女平等の上での男らしさ、女らしさの意味をしっかりとわかるように世間もなあってほしい。	女性	50～59歳
10	男女平等や女性の昇進・昇格と言っても基本給に差があるまま、仕事や責任だけが課せられているのが現状です。	女性	50～59歳
11	悩み事相談窓口の宣伝（利用促進）（各自の悩みは千差万別だと思うが）	男性	70歳以上
12	調査に当たり、年令的な問題もあり、若い時と今の時代の差があるので本当の結果になったかどうか気になります。	女性	70歳以上
13	企業はもちろん、市役所の中でも女性の管理職、リーダーをもっと増やし女性ならではの視点からの市政を期待しております。（市議の中にも、もっと女性がいてもいいと思うのですが…）	男性	50～59歳
14	男女それぞれ身体的な差以外での機会の平等はあるべきだが、元々持っているそれぞれの性の差は尊重すべきでその差を互いが理解し認めあえる社会が望ましい。男性、女性の前に一人の人であることを皆が認識し個々に互いを尊重しあえる社会になるといい。「こうあるべき」にとらわれず「こうありたい」とのぞめる社会になるといい。	女性	40～49歳
15	自分が女子は女子らしくを中ば強要されたというかそういう時代というかなので易容な社会になればいいと思う。もちろん女性だけが特別だとかではなく、男性と女性をいい立場でお互いの特性をいかした本当の共同参画になるといいと思う。男女共同参画という言葉じたいにモヤッとします。	女性	40～49歳
16	年令が上になる事により親世代（現在の親の親世代）では、男は外で働き、お金を稼ぐ事が「仕事」「仕事＝当たり前」女は家で家事、育児する事が「仕事」という中で生活してきた事により実際に男親はどう育児教育に関わっているのか分からず自ら関わらないようにしている人が多いのではないのでしょうか。子供の育児、家事、そして仕事、段階的親の介護も加わり実際母親の立場である私自身も精神的身体的に負担が多く生活にうるおいすらありません。若い世代は多分関わり方が違うと思いますが。たしかに学歴もあれば、それにこした事はありませんが学歴があっても人間として親としての資質があるとは言えません。社会に出て色々な世代の方との関わり方等社会でもまれた方が人間の価値が上がり（自ら率先して行動できるなど）生活にもうるおいが出て色々な問題がなくなるはずだと思います。	女性	40～49歳
17	男女平等は賛成だが、税金をムダに使っては意味がない。ある程度、内容をしばって推進していくべきだ。	女性	40～49歳

	自 由 意 見	属 性	
		性 別	年 齢 別
18	出来ればこの町はけいえいをきちんとかんがえて、人々のおしごとやおしごとでもしむよくな人があったら、はげんとかなにかがたくて人々のおしごとするようにそしてけいえいでもかんがえてこのまちを出来るだけ東日本のまちのように上手にやり移動手段からも	男性	20～29歳
19	男女共同参画社会は女性が体力的や機械を精査する難しい面では出来ない仕事もあります。農業や機械を使う工場等は平等とは言えません。会社に働いて（40年以上）思った事は男性、女性に関わる事があっても共に同じ屋根の下で働くのだから常に協力してお互いに仕事が円滑に出来るように雰囲気作りだと思います。	女性	70歳以上
20	年代的、地域的にもまだまだ封建的な考え方にしばられてる人達がおられると思います。お互い特性を理解し、リスペクトして柔軟な考え方になれるよう、色々な機会に参加し易い事ができれば…。でも現実難しいのかな…。	女性	70歳以上
21	男女の雇用の均等という事が叫ばれていますが、男女の得意分野が有る筈です。一概に同じくするという事についてはあまり賛成できません。	男性	70歳以上
22	その言葉の意味が分かりませんので分かりかねます。	女性	70歳以上
23	無作為抽出、個人が特定されることはないかとあるが本当か？疑問を感じる。男女共同参画以上に加茂市が優先して取組べき課題が多いはずである。	女性	50～59歳
24	正社員の労働時間が8時間ではなく、6～7時間にすることで習い事、資格のための勉強が出来、人の質が高まる事で経済に良い影響をもたらすのではと考えています。	女性	40～49歳
25	推進すべき基本的なことはもう確立しているのだから、アンケートなどに時間を費やさず、積極的に取り組めばよい。このような時間、経費、労力をもっと緊急性の高いものから取り組むべき。税金を無駄に使わない！！	女性	60～69歳
26	私の場合は産業が栄えて職場も多く有り良かったと思います	女性	70歳以上
27	安全安心な加茂市。（ストレスがない社会）おもしろいがありと思える加茂市、加茂市役所が市民を見守っていると感じるせいさく。	男性	70歳以上
28	むつかしい、加茂市ガンバレー、未来有る町に。	男性	70歳以上
29	助成制度や国で行う事に対し遅い。働く人よりも子育てしている母を助ける制度を作るべき。アンケートよりも個人をピックアップして調査するべき。	男性	20～29歳
30	20年も前から男女共同参画が有った様に聞いていますがいつの間にかウヤムヤになり、あの頃活動した方々はどうなったのでしょうか。まず第一に女性が自分の意志・意見をしっかりと持って自分の生き方に自信を持つ事が大切だと思います。	女性	70歳以上
31	見直し、進める、めざしたなどエモーショナルの思考は必要ない。5W2Hで事を実行してください。ディベートなども必要ない。市長がこれをやる。と決め実行して下さい。以上	男性	20～29歳
32	その人によって、金銭面や家庭の事情が異なるため、男性と女性に分けて「こうあるべき」「こうなると良い」と考えず、それぞれの事情に合った生き方ができるよう整えていただけると幸いです。今回の質問ではP4問3が非常に答えにくかったです。男性がやるべき、女性がやるべきというよりも、互いの仕事等とのかねあいを考えて相談し、それぞれの余裕に合わせて割合を決めるべきだと思います。	男性、女性のどちらでもない	18～19歳
33	市民の誰もが性別にとらわれることなく自分が希望する道に進む、又はそのための教育を受けることが出来る世の中のありようであることを希望します。私は幸いにも教育、職業ともに望みどおりで過ごして来れましたので感謝しております。	女性	70歳以上
34	加茂市は土地もあり、有意義な活用が出来ると思うので企業誘致ができればさらに女性活躍の場が増え、加茂市も潤うのではないのでしょうか？	女性	30～39歳
35	問23について、1～15まで全てに○をしました。男女が共に尊重し合い、助け合っていく社会にするためにはこれをしたら良いという簡単な事ではなく、いろいろな方向から考え方や状況を変えていくアプローチが必要だと思ふ。	女性	60～69歳
36	若い人達の考えや行動について把握等の希望、要望等少し調査内容に追加してはどうでしょうか？	男性	70歳以上
37	思えば子供が小学校の4年生位から学童が無くなり夫が何かあると悪いから家に居てくれということで無理やりパートをやめ、主婦になり資格をとって間もなかったことを思い出しました。夫からは外出するお金や時間を与えられず4年位もんもんとした時間を過ごしたことがあります。宗教や考え方、生き方がちがうのはあたりまえなのですが、いろいろな意味で相談ができる所があればと思いました。夫とは話し合いにならないことがあり今でも話し合いできません！	女性	50～59歳
38	70代のおばあさんには難しい内容でした。	女性	70歳以上
39	私は幸い主人も家事育児を積極的にしてくれるし、年齢差のあるご近所さんとも色々とお話や相談、助け合いが出来る環境にいます。男女ではやはり出来ること（力仕事や細かい事）、それぞれの人で得意、不得意が分かります。お互いが助け合えば良いと私は考えます。少しズレている回答でしたら申し訳ありません。	女性	40～49歳
40	子育て、家事は女性の仕事などは時代が変わり男性もしてほしい。もらいたい。（少しずつ我家はやらせています）教育の「共育」ですね。自分自身も倒れそう。	女性	60～69歳
41	男女共同…とありますが、生物的に男性と女性とは体の作りや体力、ホルモンバランス等の違いがあるのでそのことを前提に物事を決めていくべきだと思います。特に年配の男性は理解があまりなく思います。	女性	40～49歳
42	男女に関係なく適材適所での登用、又、家庭生活における変かて現在の仕事に従事する本人にとって負担となる場合は会社や社会全体でサポートが出来るような体制がもっと充実していると思うのではないかと思います。	女性	40～49歳

	自 由 意 見	属 性	
		性 別	年 齢 別
43	専業主婦なので職場での女性のあり方など理解出来ないことがあり、ちゃんと答えられてないと思います。来年度、組長が回ってきます。配布物等の力を要さない仕事は出来そうですが、身体を使う行事、草刈りなど出来るかどうか不安です。組長の年令制度をしてほしいです。深刻に悩んでいます。御考慮ください。	女性	70歳以上
44	特に共同参画などと言わないでも社会全体がゆったりとした余裕のあるモラル共育が必要では！	男性	60～69歳
45	まずは足元の市役所内、議会が男女共同参画社会を正しく理解した上で推進されなければならないと思います。小さい頃からの教育がとても大事で20才以下位の世代だとあまり男だから女だからと意識せずに行動していると思える事があり、良い事だなあと関心します。	女性	50～59歳
46	良く解らないので勉強していきたい。	男性	70歳以上
47	男も女も結婚しない人たちが多い。これを何とかしないとダメでしょう。早急にやるべきです。出会いの場を。	男性	70歳以上
48	今回の質問はどちらかと言うと女性にかたよった質問に思えました。男女均等に思えなかった。	女性	20～29歳
49	人に優しすぎる社会が本当に良い社会なのか疑問に思う。自助努力、社会に頼りすぎず勤勉に働いてこそ社会は豊かになる。チャンスの平等は大切だが、性別、個性、地域、文化など違いがあつてこそ素晴らしいと思える。一人一人の心の問題（ジェンダーなどLGBT）を社会問題（人権問題）にするのは、何かがおかしい。男トイレ女トイレが無くなるか?! 温泉が混浴になるか?! 個人的な問題を社会問題にする傾向を心配している。	男性	60～69歳
50	加茂市として積極的に男女共同参画に前向きな企業を誘致し、若い男女が住める加茂市を作る必要がある。加茂市として市の活性化について活動しているのか? 働く場所がなくなる心配のない公務員では危機感はないだろうが、一般の企業は社員教育、社内改善を進めている。公務員も市民から苦情を言われたらクビになる様な危機感を持たせる。	男性	60～69歳
51	今回は無差別の選出とのこと。私は年令がすでに実社会の就労を終了しておりますので、空論なる返答もあることを了承下さい。	女性	70歳以上
52	男女が意見を出し合い協力し合って進めてゆけば豊かな住み良い社会になると思います。	女性	70歳以上
53	後期高齢者ゆえあまり協力出来ずすみませんでした。	女性	70歳以上
54	問16.17.18.19.20、年令を重ねていますのでお答えできません。	女性	70歳以上
55	小学生の託児施設の創設（4年生以上）。核家族が増え、遠距離通勤をする家庭も多い。加茂市出身でない人が両親やママ友に頼らなくても（預ける、迎え等）子育てするためにはせめて小6までの預かり、託児が必要であり、今の小3までの学童をしていたのでは市外から核家族の子育て世帯を呼び込むことは不可能。学童が3年生までという時点で選ばれない。新潟市はお盆も6年生まで受け入れる民間だっている。両親が仕事をしながら子育てするには必須。加茂では祖父母がいないと子育てできないと今は思われている。仕事をセーブせざるを得ない。特に夏休み冬休みは小学生が一日中一人で過ごしている。西加茂地区に公民館、図書館機能を持つ施設の確保。現在、体育館、プール、図書館が加茂小、南小地域である。児童数の変化と施設建設時期によるものとは思うが片寄りすぎ。西加茂地区の児童は送迎が無ければ図書館にも行けない。線路下、加茂川等一人で行くには危険なので。西加茂地区にも子どもが自由に行ける施設があれば祖父宅、習い事の他に友人宅、図書館、公民館のワークスペースなどで時間を過ごすことができる。施設は文化会館、母子センター、旧西小などあるのだから職員を置いて移動図書館のようにすれば雇用の創出、世代間交流にもつながると思う。ウォーキングポイントdに設定したり、育児施設機能を付ければ施設の利用促進にもなる。それが全世代参加型の社会につながると思う。	女性	40～49歳
56	家庭における男女の協力が大切であって、男女を対立させるような条例の制定等には反対です。	男性	60～69歳
57	女性はどうしても出産で（産前産後等）休まなくてははいけないので、フリになると思います。なので平等といっても限りがあると思いますが男女平等というよりは男女関係なく個人を判断してもらいたいです。私個人の要望はシングルマザーで子の介護をしているため、もっとリモートワーク等ができる社会が増えたらありがたいです。	女性	40～49歳
58	中小企業経営者の意識改革（古い習慣、慣例）が必要だと思う。商工会議所や商工会との連携し女性が就業、子育て後の再就職の支援をする。現状のハローワークだけでは厳しいと思う。またミスマッチによる離職なども防ぐ必要がある。	女性	40～49歳
59	男も女もなく1人の人間として同じようには一番に思いますがやはりそうは行きません。パートナーだけとの問題だけでは限りません。加茂市のような市では親との同居も多くあり、そーゆー間の問題も沢山あると思います。家族仲良く毎日笑顔ですごせたらどんなに良い事でしょうね。男がとか女がとかではなく、まず一人の人間としてどうなのかと言う所が私は大切だと感じております。市長の活躍には日々注目し、感謝しております。これから頑張って下さい。応援しております。	女性	40～49歳
60	かくかく時代になり空家がふえる事を皆様はどう思いますか。又、子供のいない国になり外人が半数となる国になる、どう思いますか。	無回答	無回答
61	自営業（農業）の為、社会的な事はある程度理解しても職場の事については正直答えられる経験と知識に乏しいのでこの意識調査は我々農家にとっていかなものかと思ってしまいました。	男性	60～69歳

	自 由 意 見	属 性	
		性 別	年 齢 別
62	市の方、やること多くてたいへんですね。おつかれさまです。若い人の意見に反する年寄りの意見があったら、すっぱり切り捨ててくださることを望みます。加茂市の多数派である年寄りみんなが賛成する意見を採用していたら、若い人がいなくなってしまう。だまっているけど、市を応援している人もいることを忘れずに。声の大きい人にまどわされないよう。期待しています。職員さんの健康も大事にしてください。	女性	40～49歳
63	共働き家庭が増加しているなか、子育てに祖父母の支援がうけられない場合もある。加茂市民を増やすことにもつながる子育て家庭への支援とし、学童（児童館）の利用時間を三条市のように19時までにするこや、3年生までの利用でなく、4年生以降も希望があればあずけられる環境、親が仕事と子育て両立できるよう加茂市もサポートを広げるべきです。	女性	30～39歳
64	「男」と「女」で区別することはナンセンスなのではないでしょうか？	男性	50～59歳
65	問14、加茂市で働く場所を増やして下さい。	女性	30～39歳
66	女性というだけで差別されていた時代にいた人間とおして納得のいかない経験をたくさんしてきました。（e x. 女性は課長補佐までの昇格のみetc.）今では価値観も少しずつ変化し、意識の中に男女共同参画やワークライフバランスなど定着しつつあるように感じています。一足飛びには難しいかもしれないが、せめて先進国レベルまで方を並べられるようになることを期待しています。	女性	70歳以上
67	女性が家事育児をするのが当たり前という認識の方が職場で多いと夫は感じているそうです。世代のギャップなのか、中学・高校での家庭科の授業で少しでも男女同じく学ぶ機会と上の世代へのけいはつがひつようだと思います。	女性	30～39歳
68	女性が社会に出やすくなるためには育児が行いやすい環境や十分なお金（賃金）が必要だと思います。女性の機会を増やすためにも市として子育てしやすい環境を作っていただきたいです。（補助金や減税など）	男性	30～39歳
69	私の様な者が申し上げるのではないが、女性あつての男性であり男性あつての女性と言う意識が薄れているように思える。価値観の多様性も人間の進化によるものだが、人として生きるために互いに尊重することを忘れてはならないと思う。	男性	60～69歳
70	71才なので、昔はこうであつたら良かったなあと思う事を書かせてもらいました。	女性	70歳以上
71	加茂市長は若い女性であり好感がもてます。しかし市議会議員や市の役職者に女性はあまりおらず魅力がない。市及び団体等が女性を支援することをもっとアピールし、民間企業の見本になるべきだと思います。若い女性が加茂市に住み働きたいと思う具体的な政策を期待します。若い女性の一人暮らしの補助、若い夫婦の補助、子育て支援金等。私は50代ですが、退職後、加茂市では働く場が少ないため拠点を新潟市や県外にしても良いか…とも考えます。老年期の生活は若い人の助けになることだと思います。男女参画と共にバランスのとれたアイデアをお願いします。	女性	50～59歳
72	男女が平等に…という考えは良くないと思う。性別による特手不得手は存在するので、男だから女だからという考えではなく、個人として互いに理解し、協力し合うことが大切だと思う。1人1人の得意な分野で活躍していける社会が望ましい。	女性	30～39歳
73	年配者の固まった意識を変えないかぎり社会は変わっていけない気がする。	女性	50～59歳
74	男女分け隔てなく個性、能力が発揮出来る社会で有りた	女性	70歳以上
75	男女共同参画社会に関することでは特にはないですが、今回のようなアンケートはQRコードをよみてスマホで回答できたらいいと思いました。紙もむだであり郵送代ももったいないうえにこちらもわざわざポストに出しに行くのが手間でメリットはあまりないように思います。	女性	40～49歳
76	若い時と年齢を重ねてくると考え方実行が変わって来ました。	男性	70歳以上
77	いくら男女同参平等といっても現実的には無理があると思う。と言うのも女性男性は元々脳のつくちが違うのである程度まではできるかも知れないが完全にはできないと思う。結局女性の負担は無くならないと思う。	女性	60～69歳
78	夫婦、子供、4人世帯の場合（例）圧倒的に女性が家事・育児に時間をとられ“仕事”を続ける環境など考えられない。支援するならば正社員でも6Hの就労を認めるくらいが現実的と思う。	男性	60～69歳
79	もっと自由で物事を良い方向へ導いて行く。	男性	60～69歳
80	私自身加茂市に於いて「男女共同参画」にどの程度取り組んでいるのか具体的に把握していないこともありQ23について非常に答えにくい間でありご了解下さい。社会全体がまだまだいろいろな分野での男女差別であるということと無自覚の内に（今までがそうであったからなど）男女差別的な活動が行われていると思います。（女性自身も含めて）これからの時代は女性もほとんどが事業に就かなければならなくなると 생각합니다。そういう意味でもあらゆる分野での男女共同参画についてももっともっと深めていくことが大切だと思います。	女性	70歳以上
81	加茂市でのこの「男女共同参画社会」を推進して行くという事はとても良い事だと思います。若い人達の住み良い町作りにして人口がふえる事を願います。	女性	70歳以上
82	子どもがどのような環境で育つか、これからの未来の加茂市の姿となると思うので、加茂に住みたい、加茂で働きたい、加茂で子育てしたいという若い人が増えるようにという観点のもと、男女共同参画に力を注いでほしいです。	女性	50～59歳
83	質問及び答えが状況（会社、家族、地域）次第で変わらうと思うので、決まり切った問答でのアンケートで何が得られるのか不明。	男性	60～69歳

	自 由 意 見	属 性	
		性 別	年 齢 別
84	もっと若い人を呼び寄せるような取り組みをした方が良いと思う。(若い人の方が古い差別的な考えをもたないと思うので…)加茂はお年寄りだらけになってきている…。たとえば、ゆるキャラが加茂にもいたら良いと思っていたので、かわいいキャラで活性化してほしい。(一般公募するのであればぜひ応募します!)正直、りすのこーちゃん、カモンモンちゃん(非公式)はイマイチ…	女性	20～29歳
85	市民の日本一の長寿加茂市	男性	70歳以上
86	近年は男女が互いに人権を尊重する社会になってきたように思います。社会においても家庭においても、1人1人が持っている能力や個性をだせる場所がたくさんあるといいと思います。最近ニュースなどで親が子供を虐待したり、殺したりするニュースを聞いたりすると、本当に心が痛くなります。私自身、子育て、家事、その他悩み事などお互いに協力していき軽減していく事が大事だと思います。	女性	60～69歳
87	女性と男性が同じくらいの比率でいるので、いろいろな場面で女性が参加できるように加茂市としてできることを進めてほしいと思います。このことが家族や子どもたち、地球全体の向上につながるものと思います。一歩ずつでも前進できるように自分自身もできることに努めていきたいと思っています。	男性	60～69歳
88	このアンケートを藤田市長が拝覽されるかは分かりませんが若い女性の市長だからこそご意見があるかと思います。同じ女性として色々な取組みやYouTube、メルカリなどを取り入れられる姿勢が素晴らしいと思っています。男女が平等に働いたり支援が受けられるよう加茂市として頑張っていたきたいです。私は転勤が多いため、もし今後加茂に戻る事があれば進化した面が楽しみです。	女性	20～29歳
89	男女共同参画社会がどのような社会なのか説明を受けてもイメージがわかりません。「性別にとらわれない社会」はどんな社会?以前、入院した時に男性の看護師に担当してもらいました。本当に嫌でした。嫌悪感だけでした。	女性	60～69歳
90	現在73才です。私達の子育ての頃とちがいは男性も家庭に目を向ける様になったので、今の人達(嫁)は楽になったと思います。	女性	70歳以上
91	男性だから、女性だからとの理由だけで本人の意思とはかけ離れた扱いを受けるべきではないと思う。周囲には親世代の考え方で仕事、子育てに携わっている方々も多くパートナーのどちらかあるいはお互いが不利益を受けている例がまだ多い様に思う。育ってきた環境教育は大切だと思う。	男性	30～39歳
92	退職して年令も70才以上になり答えづらい所が多々あった。	女性	70歳以上
93	提案、アンケートの内容がパートナーや結婚をしたことがある人に対しての物が多いと感じるため、もともとのアンケート対象者をしっかりとえらんでおこなうべきであると感じた。よって無作為にえらぶべきではないと考えます。	男性	20～29歳
94	“男女平等”にと簡単に言うけれど職種に因つては男性が女性をカバーしなければならず(例えば力士など)男性の方が不利となりうるでしょうし(同賃金の場合)、又、その反対もあるでしょうけど。	女性	70歳以上
95	何でも女性が参画すればいいというのではなく能力のある人が(男女問わず)能力を発揮できるポジションで働くことのできる社会がよいと思います。(女性を特に意識することなく)＝ただトップを女性にするとかそういうことではなく適材適所です。(パフォーマンスだけでなく、中身のあるものにしてほしいです。)逆に男性より女性が優遇されていることもあると思います。男女平等という所と男性の役割、女性の役割というのもあると思います。男女とか関係なく子供とかお年寄り、人にやさしい加茂市であってほしいです。私は子供(中、高、大生)がいてフルタイムで正社員で働いていますが(年寄りとも同居)子供のこととかいろいろサポートしてもらってますが、あまりサポートない高校や大学もお金がかかります(1むしろ小中より)。それに子供や老人のいない単身の人たちは何もサポートないような気がします。そういった方にもぜひ!	女性	50～59歳
96	結婚や出産、育児への積極的な支援や行政や企業による就労制度の大幅な見直しを行わなければ男女共同参画社会の実現は難しいと思う。出生率、子どもの人口を増やさなければ日本は衰退する一方である。	男性	40～49歳
97	出産後の退院時～1週間(それ以上)程度の育児を義務にする。実家に規制する同居する方もいると思うが、第2子、第3子の場合は人手が多い方がよい。特に夜寝ない乳児期は地獄。夫婦の子供なのだから母親がやって当然は通用しない。入学時にぶつかる小1の壁。学童にもっと力を入れるべき。放課後、学校の長期休みに人手不足でシルバーに頼るのは危険。体力や動きに追いつかず任せられない。	女性	40～49歳
98	アンケートが役に立つと思わない(60代なので)。10～30代限定でよいのでは?	女性	60～69歳
99	男と女は同じでは無い。	男性	40～49歳
100	年をとっておりますので、今の感覚では色々な部分で解らないことも多くあります。かつて共働きで40年も就業して来たと言う思いで記入させていただきました。	女性	70歳以上
101	以前、主人に言われたことを覚えて忘れもしません。「女は家にいるもんだ。」と…。当時39才…この世代でもこういう考え方、感覚が自然と植えつけられ育ってきている人もいるんだ…と思いました。その一言は、私の人生において、私自身が自分のことを選択してはいけないんだ…と思わせる一言でした。もしそれが結婚だというのなら…女性は結婚を選ばなくなる人も増えますね。もちろん女性の中でも家庭のことを優先されている方もいらっしゃる。必ずしも“家にいる”ということを選択する家庭も多いと思います。子どもが生まれたら母がみるという無言のプレッシャーも女性にとって母にとつてとても重圧。母になった女性も1人の社会の一員として様々な選択ができ、個人の人生を自らの力で歩めるような社会、環境制度の充実を願っています。	女性	40～49歳

	自 由 意 見	属 性	
		性 別	年 齢 別
102	子ども園で5才の男児の口から「女のくせに」という言葉を聞いた事がある。子どもは大人やメディア等から男女差別的なものから影響を受けている（サザエさんとカクレヨンしんちゃんとか）。子どもへの教育は大切だと思う。男女共同参画は、女性を社会に押し出し、男性を家事育児に向かわせる事ではなく、男女が状況に応じて役割を務める事が出来る様に社会からその障壁を無くす事だと思う。男性も女性も自由に生き方、働き方を選択できる様にする。育休等を取り易くする為には人的ソースが減っても仕事を回せる様に生産性の向上が必要。「育休取りました」と「その為に業務改善に取組みました」をワンセットでの実施例を発信すべき。	男性	40～49歳
103	市の提案するグループ活動を経済、社会趣味といったものに区分けして公民館活動中に入れていき年令の別ではなく誰でも参加できるようにしてゆき公民館活動や商工会議所の講演などを誰でも聞くとか出来る様にして行き公民館活動を誰でも参加できるようにしたらどうでしょう。そうすれば男女といわずとも学びたい人は集まってくる様になると思う。加茂は活動使う場所は産業センターコミュニティなど多くあるのでその中で公民館活動を活発にしていけば良いと思う。	男性	70歳以上
104	わからない所は○をつけなくてすみません	女性	70歳以上
105	アンケートを受けて思ったのですが、内容が女性の社会的立場をどう思うか？男性によるのもどう思うか？など男女共同よりかはかなり女性よりのアンケートだったと思いました。（別に悪いとかではなく、暴力もよくないと思います）でも中には弱い男性もいるということ、男は強い当たり前、それを論じる必要なしみたいに感じました。男女問わず心の弱い人でもがんばって生きていける社会だといいです。	男性	40～49歳
106	個人情報に縛られない、家庭単位ではなく、地域で気軽に相談し合い、助け合える時代に戻る事が大事だと思う。但し、気持ちに余裕が必要。金銭的にも。経験と実績も必要。それを受け入れる勇気も必要。考える知恵も必要。	女性	50～59歳
107	この調査自体に関して気になったことがありますのでお伝えしたいと思います。家庭生活における役割分担→「平等」に分担しているの平等とはどういう状態を指すのか分かりませんでした。量的に同じにするのではなく、特定の人に負担が偏らないようにすることが重要なのでは？〇〇すべきという表現→この表現自体が特定の考え方を押し付けることにつながるのではないかとニュートラルな表現をされた方が良いと思います。DVについての質問→現在あるいは過去に被害を受けた方にとっては侵襲的な質問です。相談窓口の案内を同封するなど配慮した方が良いかと思えます。加茂市が男女共同参画推進計画を策定しようとしていることをこの調査用紙が届いて初めて知りました。内容を審議する場に女性はもちろんのこと、様々なバックグラウンドや属性の方に入ってもらい、多様な生き方が尊重されるような計画ができるようにぜひご配慮いただきたいと思えます。	女性	30～39歳
108	藤田明美ガンバレ！！議員さんガンバレ！！市役所の皆様ガンバレ！！私は大昔みたいに男がかせいで女が家庭を守るべきだと思います。それが子供達の為だと思います。女が本を読み始めたのがいけなかったのでしょうか？私は“本”大好きです。	女性	60～69歳
109	本調査が有用であると思えません。	男性	60～69歳
110	今回のアンケートについてです。問19での質問の暴力の範囲が広く悩みました。個別に別れていれば答えやすかったと思います。	女性	60～69歳
111	加茂市は高齢化社会です。若いファミリー層が安心して生活できる地域で住みやすい地域を作る事が将来的に若者が加茂集まって活性化につながって行くのではないのでしょうか？	女性	60～69歳
112	とても大切な調査であると思えますが…なかなか積極的行動に移行されない事業と思えます。家族、パートナーとの話し合いのきっかけになってとてもいい調査でした。スピード感をもちつつ確実な成果が出る事を期待してます！！	男性	50～59歳
113	2.5	女性	60～69歳
114	一般的に男性に向いている仕事、女性に向いている仕事は確かにあるとは思いますが。なので無理矢理男性の仕事に女性をつかせようとしたり、女性の仕事を男性にさせたり、そういうことは必要とは思いませんが、それぞれ個人の能力、向き不向き、意欲などに応じて、男性だから女性だからという考えは持たずに個人をみていく必要があるのではないかと思います。	女性	40～49歳
115	頑張ってより良い加茂市を目指して下さい。ごころう様です。	男性	70歳以上
116	なにもだれにもききたいしない。自分のことは自分で守るしかない。色々なところから情報をしりえて。くるべきときにそなえる。	女性	50～59歳
117	母は女手ひとつで僕たち3人を育ててくれました。フルパートでボーナスはなく、とても大変そうでした。最低賃金で時給制。これは母が悪いのでしょうか。母は、かわいそうです。だから3人大学出てなんとかしたいです。	男性	20～29歳

Ⅲ 職員アンケート調査概要

1 調査方法

- (1) 調査対象 加茂市職員
- (2) 調査方法 直接配布・回収
- (6) 調査期間 令和4年夏期（8月）

2 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女共同参画などについて
- (3) 男女の職業生活に対する考え方について
- (4) ワーク・ライフ・バランスについて
- (5) 人権について
- (6) 男女共同参画に関する施策などについて

3 回収結果

- (1) 有効回収票 250 票（男性 116 票、女性 134 票）
- (2) 有効回収率 68.7%

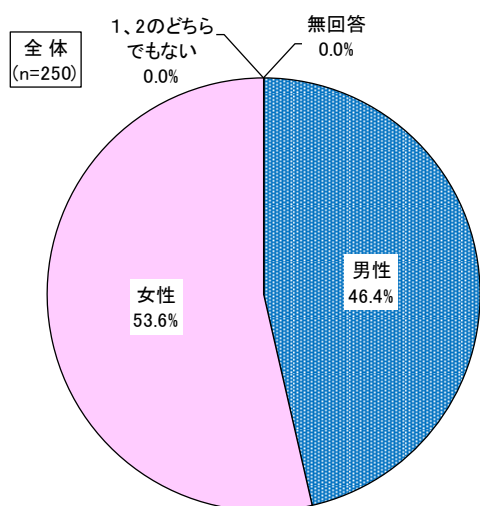
◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

- 1. 本文及び図表中の回答者の割合は、百分比（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2. 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
- 4. 回答数が極端に少ない（概ねに 10 以下の）属性については分析対象外とした。

IV 職員アンケート調査結果

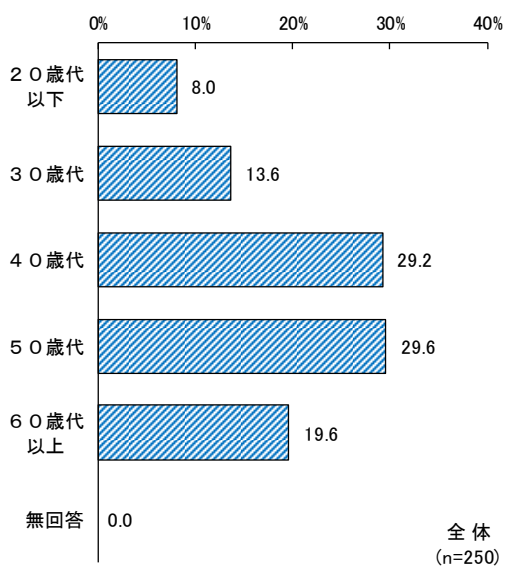
1 回答者の属性

(1) あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)



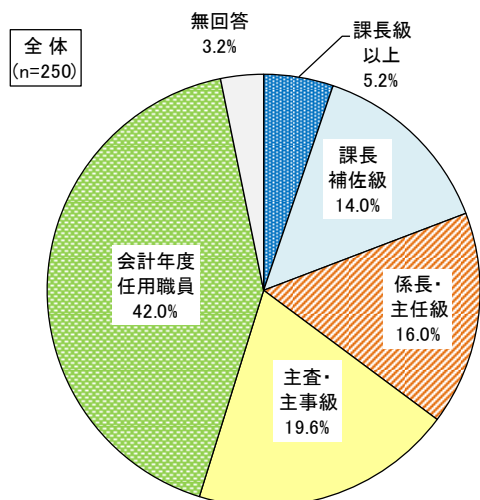
性 別		
回答者総数	100.0%	(250人)
男性	46.4%	(116人)
女性	53.6%	(134人)
1、2のどちらでもない	0.0%	(0人)
無回答	0.0%	(0人)

(2) あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)



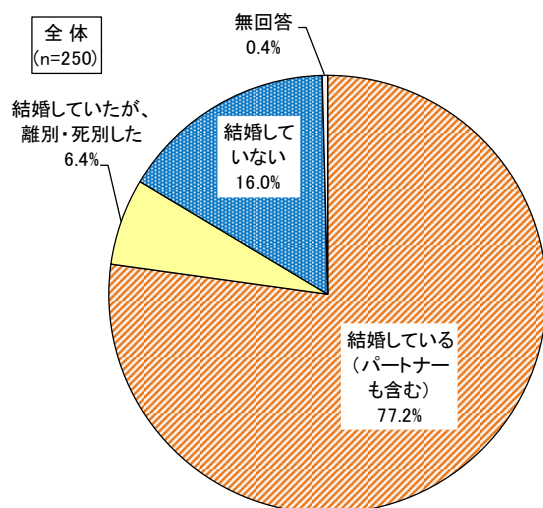
年 齢 別		
回答者総数	100.0%	(250人)
20歳代以下	8.0%	(20人)
30歳代	13.6%	(34人)
40歳代	29.2%	(73人)
50歳代	29.6%	(74人)
60歳代以上	19.6%	(49人)
無回答	0.0%	(0人)

(3) あなたの職位はどれですか。(○は1つだけ)



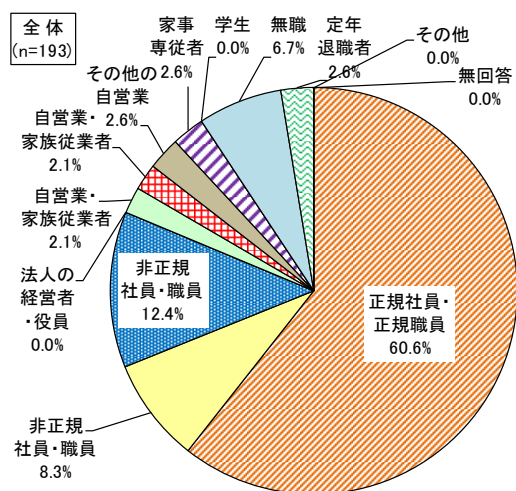
職 位 別		
回答者総数	100.0%	(250人)
課長級以上	5.2%	(13人)
課長補佐級	14.0%	(35人)
係長・主任級	16.0%	(40人)
主査・主事級	19.6%	(49人)
会計年度任用職員	42.0%	(105人)
無回答	3.2%	(8人)

(4) あなたは現在結婚されていますか。(○は1つだけ)



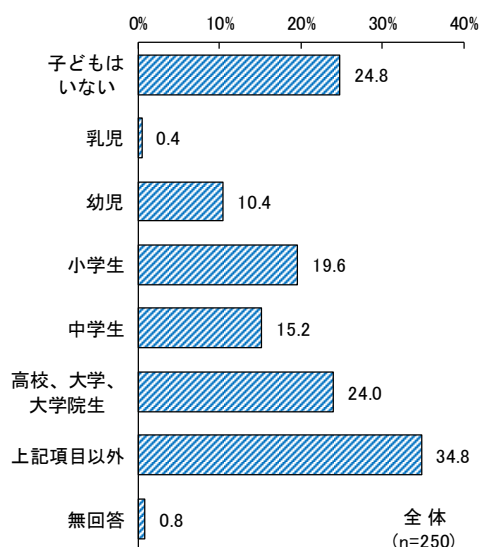
婚 姻 状 況		
回答者総数	100.0%	(250人)
結婚している (パートナーも含む)	77.2%	(193人)
結婚していたが、離別・死別した	6.4%	(16人)
結婚していない	16.0%	(40人)
無回答	0.4%	(1人)

(5) [(4) で「1. 結婚している (パートナーも含む)」と答え方にお伺いします]
 あなたの配偶者・パートナーの就労状況は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)



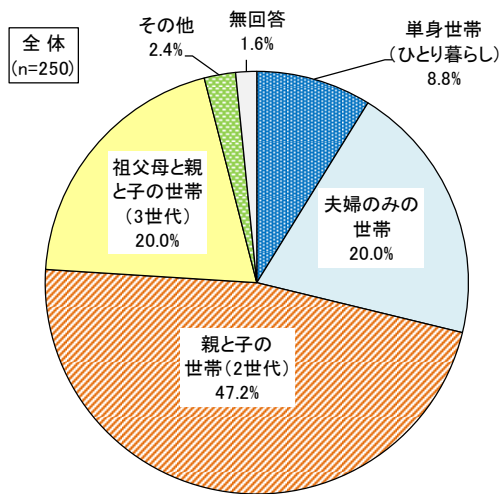
回答者総数	割合	人数
正規社員・正規職員 (会社員・公務員・教員・団体職員など)	60.6%	117人
非正規社員・職員 (派遣社員・契約社員・臨時職員)	8.3%	16人
非正規社員・職員 (パート・アルバイト)	12.4%	24人
法人の経営者・役員	0.0%	0人
自営業・家族従業者 (農林漁業)	2.1%	4人
自営業・家族従業者 (商業・工業・サービス業など)	2.1%	4人
その他の自営業	2.6%	5人
家事専従者 (主婦・主夫)	2.6%	5人
学生	0.0%	0人
無職	6.7%	13人
定年退職者	2.6%	5人
その他	0.0%	0人
無回答	0.0%	0人

(6) あなたにはお子さんはいますか。(○はあてはまるものすべて)



回答者総数	割合	人数
子どもはいない	24.8%	62人
乳児 (1歳未満)	0.4%	1人
幼児 (1歳以上～小学校就学前)	10.4%	26人
小学生	19.6%	49人
中学生	15.2%	38人
高校、大学、大学院生 (高専、短大、専門学校生を含む)	24.0%	60人
上記項目以外 (学校は卒業した、既に働いている、結婚した等)	34.8%	87人
無回答	0.8%	2人

(7) あなたのご家庭の構成（同居の家族のみ）は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

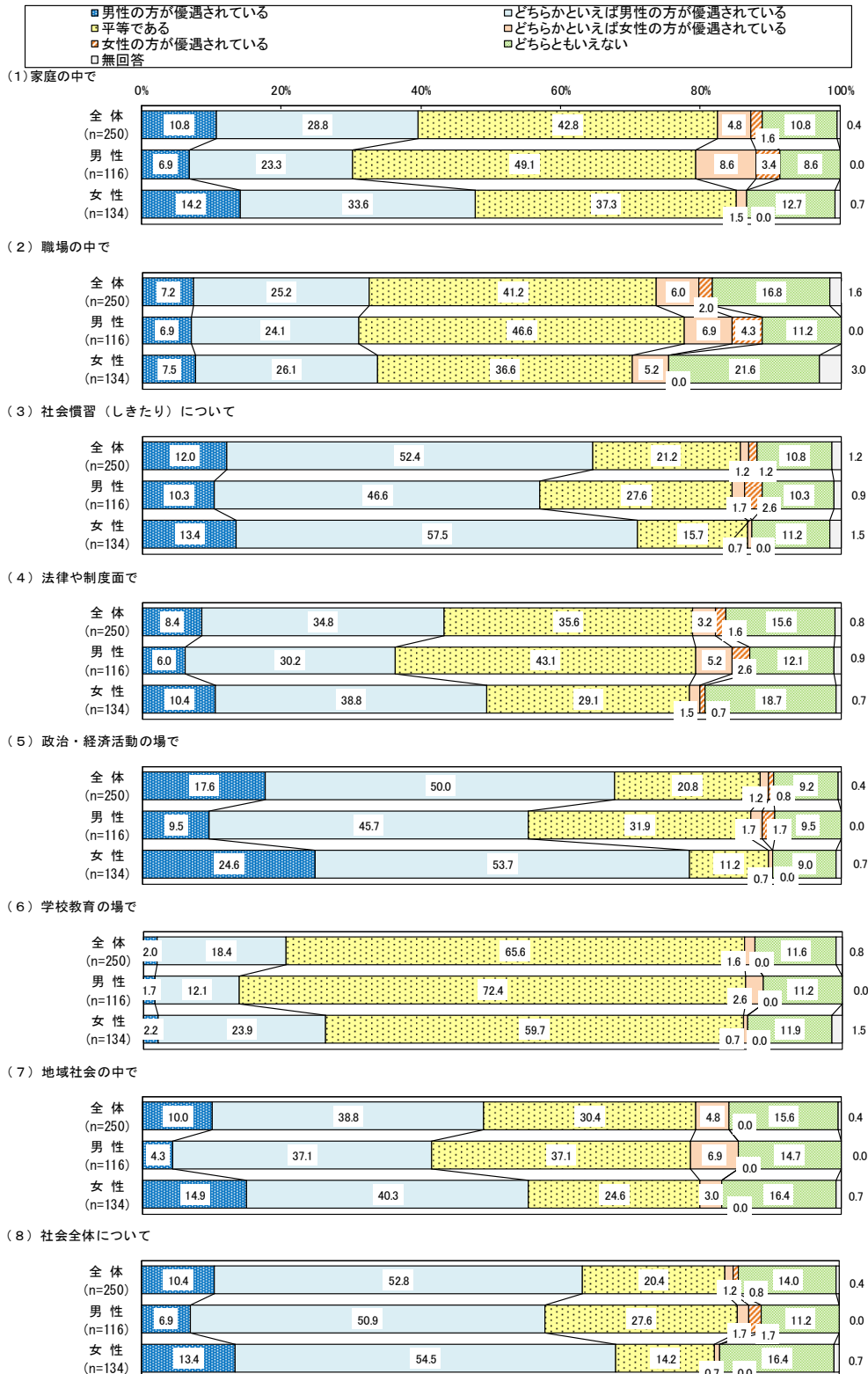


世帯構成		
回答者総数	100.0%	(250人)
単身世帯 (ひとり暮らし)	8.8%	(22人)
夫婦のみの世帯	20.0%	(50人)
親と子の世帯 (2世代)	47.2%	(118人)
祖父母と親と子の世帯 (3世代)	20.0%	(50人)
その他	2.4%	(6人)
無回答	1.6%	(4人)

2 男女共同参画について

(1) 男女の地位の平等について

問2 あなたは、(1)～(8)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



<全体結果>

男女の地位の平等感について8つの項目で調査した。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(5) 政治・経済活動の場で】、【(3) 社会慣習（しきたり）について】、【(8) 社会全体について】が6割台、【(7) 地域社会の中で】、【(4) 法律や制度面で】が4割台、【(1) 家庭の中で】、【(2) 職場の中で】が3割台で続いている。

一方、「平等である」と感じている項目は、【(6) 学校教育の場で】が6割強で最も高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

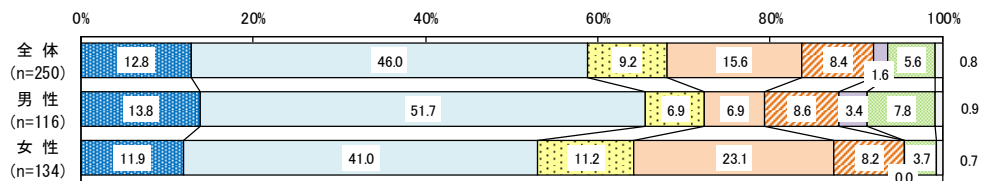
<性別>

男女別では、すべての項目の『男性が優遇されている』と感じている人は、女性が男性を上回っている。

(2) 男女が社会のあらゆる分野に参画していくために最も重要なこと

問2 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。1つだけお選びください。

- 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- 男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会慣習(しきたり)を改めること
- 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
- 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- その他
- わからない
- 無回答



<全体結果>

今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、最も重要なことは「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会慣習(しきたり)を改めること」の割合が最も高く、5割弱を占めている。「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が1割台となっている。

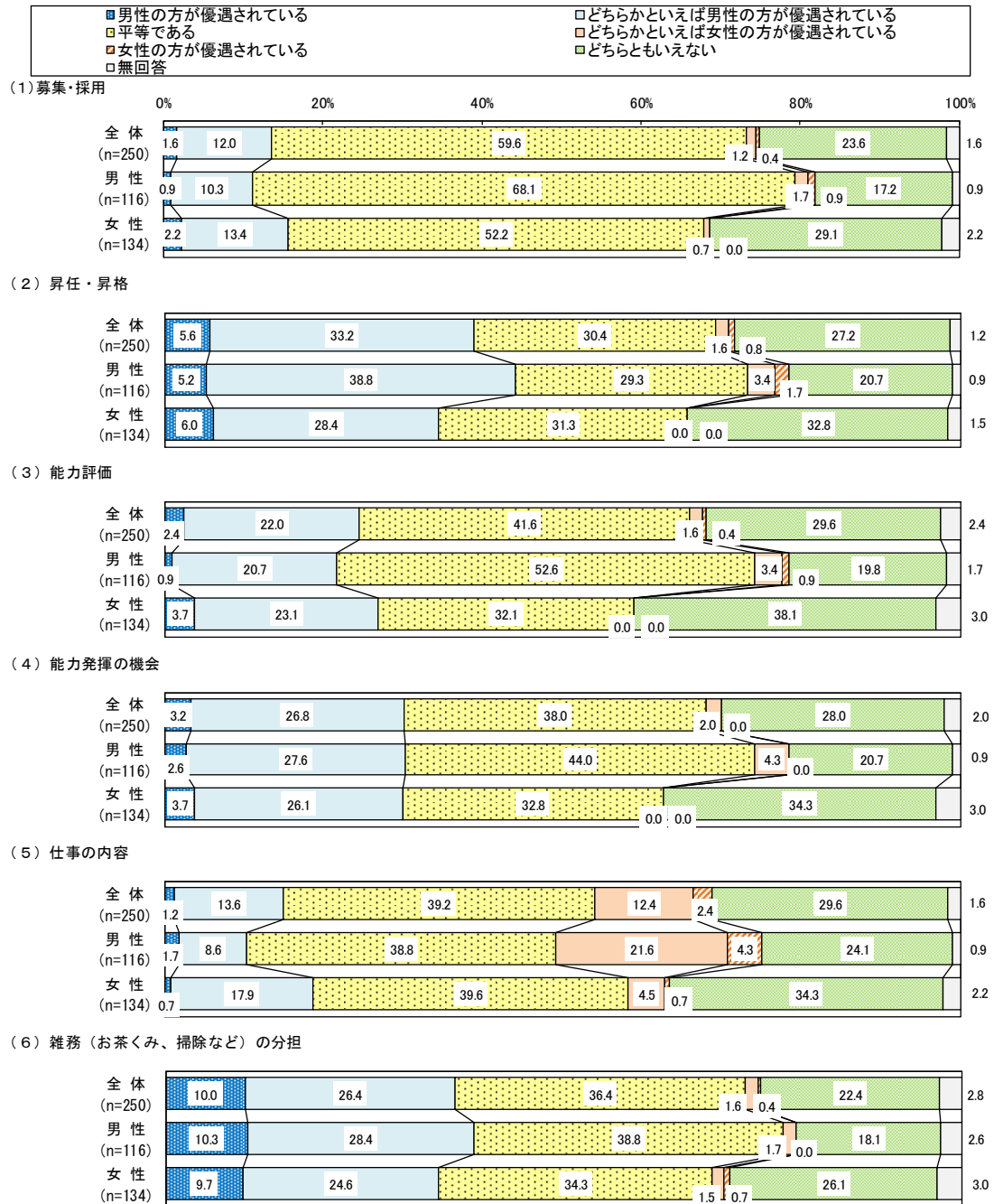
<性別>

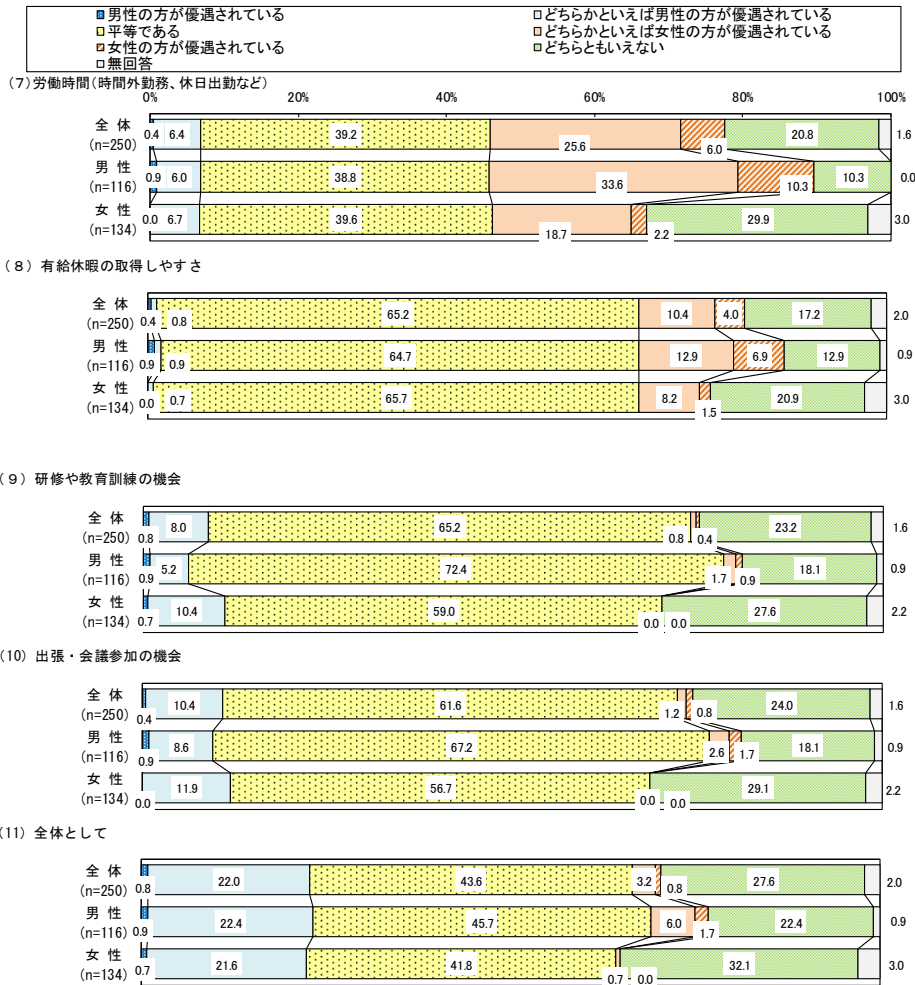
男女別では、「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会慣習(しきたり)を改めること」の割合は、女性より男性の方が高く、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

3 男女の職業生活に対する考え方について

(1) 職場における男女間の格差

問3 あなたは、加茂市役所において、次の各事項で男女の差はどのようになっていると思いますか。(1)～(11)についてあなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。





<全体結果>

職場における男女間の格差について11つの項目で調査した。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(2) 昇任・昇格】、【(6) 雑務(お茶くみ、掃除など)の分担】、【(4) 能力発揮の機会】が3割台となっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている』計の割合は、【(7) 労働時間(時間外勤務、休日出勤など)】が3割台、【(5) 仕事の内容】、【(8) 有給休暇の取得しやすさ】が1割台、『男性が優遇されている』計の割合より高くなっている。

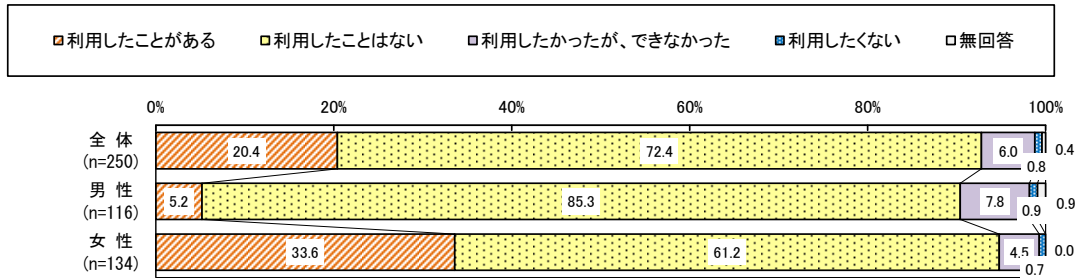
一方、「平等である」と感じている項目は、【(8) 有給休暇の取得しやすさ】、【(9) 研修や教育訓練の機会】、【(10) 出張・会議参加の機会】が6割台、【(1) 募集・採用】が約6割、【(11) 全体として】、【(3) 能力評価】が4割台で高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

<性別>

【(2) 昇任・昇格】、【(6) 雑務(お茶くみ、掃除など)の分担】では、『男性が優遇されている』と感じている人は、男性が女性を上回っている。

(2) 育児休業の取得について

問4 あなたは、これまでに育児休業制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。1つだけお選びください。



<全体結果>

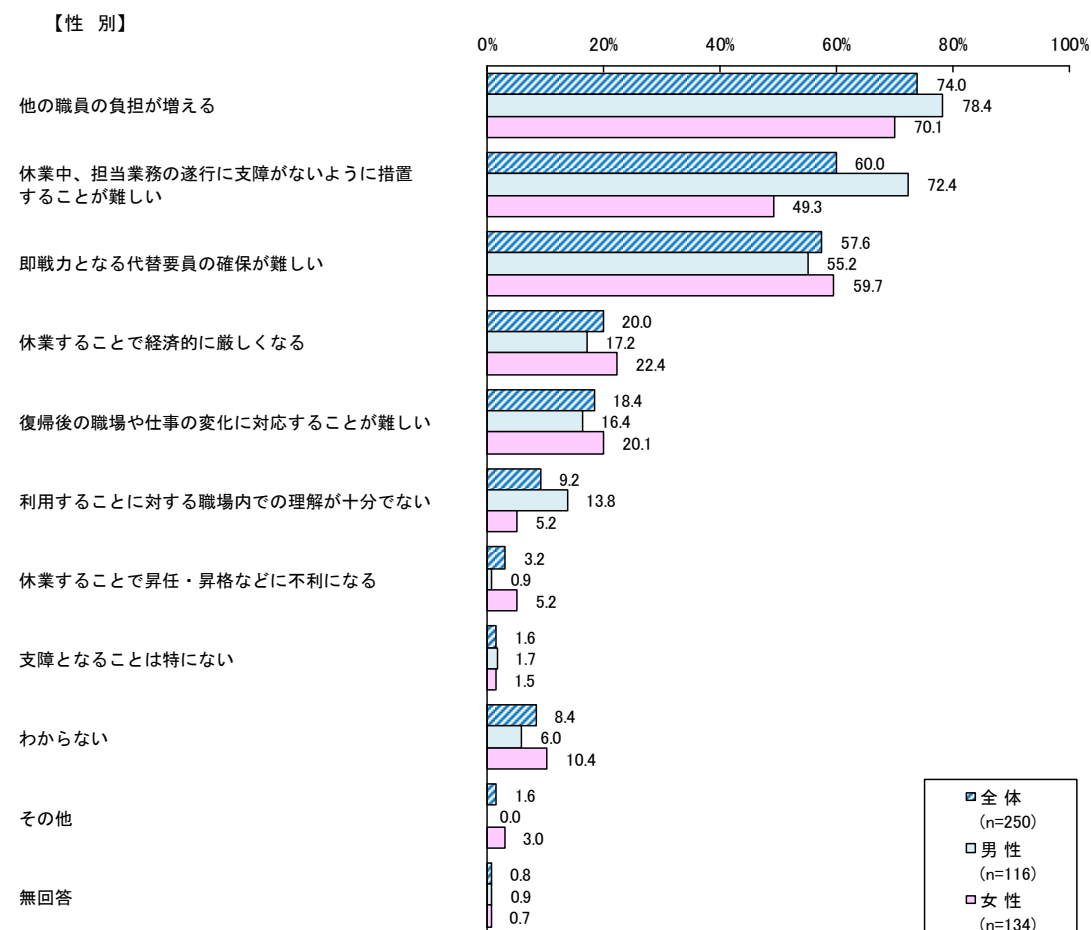
育児休業の取得については、「利用したことがない」の割合が最も高く、7割強を占めている。「利用したことがある」の割合が約1割となっている。

<性別>

男女別では、「利用したことがない」の割合は、女性より男性の方が高く、「利用したことがある」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

(3) 育児休業を利用する上で支障となること

問5 あなたは、職場において育児休業制度を利用しようとする上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。次の中から3つお選びください。



<全体結果>

育児休業を利用する上で支障となることは、「他の職員の負担が増える」の割合が最も高く、7割強を占めている。次いで、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」が6割、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」が6割弱となっている。

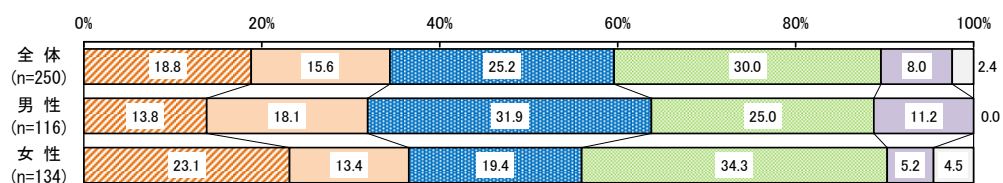
<性別>

男女別では、「他の職員の負担が増える」、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」、「利用することに対する職場内での理解が十分でない」の割合は男性の方が高くなっている。一方、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」、「休業することで経済的に厳しくなる」、「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」の割合は女性の方がやや高くなっている。

(4) 現状についての考え方

問6 令和4年4月1日現在、一般行政職の女性の採用割合は31.9%となっており、加茂市職員の管理職(課長補佐以上)における女性比率は40.7%となっています。あなたは、現状についてどのように思いますか。1つだけお選びください。

- 現状で十分である
- 現状では不十分だが、やむを得ない
- 現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用をすすめるべきである
- わからない
- その他
- 無回答



<全体結果>

現状についての考え方は、「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用をすすめるべきである」の割合が高く、四分の一を占めている。「現状で十分である」、「現状では不十分だが、やむを得ない」が2割弱となっている。

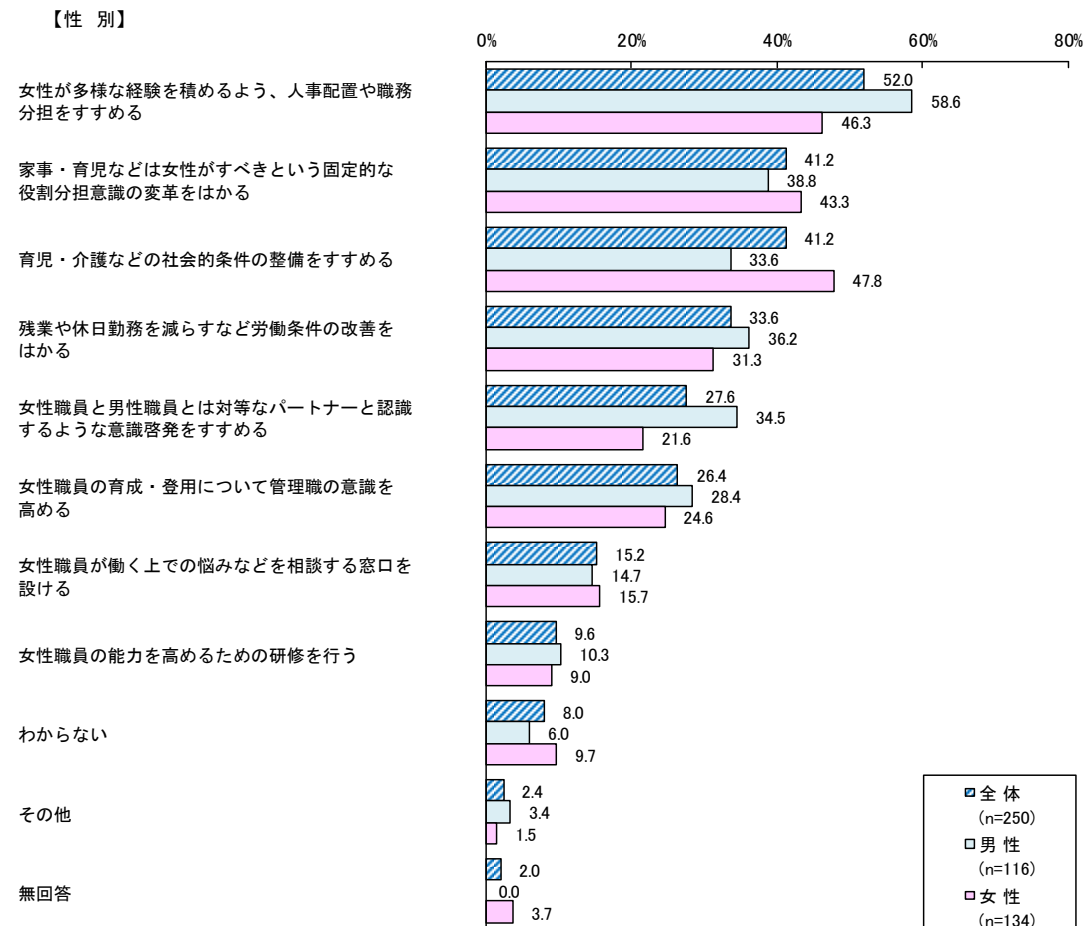
一方、「わからない」が3割となっている。

<性別>

男女別では、「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用をすすめるべきである」の割合は、女性より男性の方が高く、「現状で十分である」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

(5) 女性の職域拡大・登用をすすめるために重要なこと

問7 あなたは、加茂市役所において、女性の職域拡大・登用をすすめるためにはどのようにしたらよいと思いますか。次の中から3つお選びください。



<全体結果>

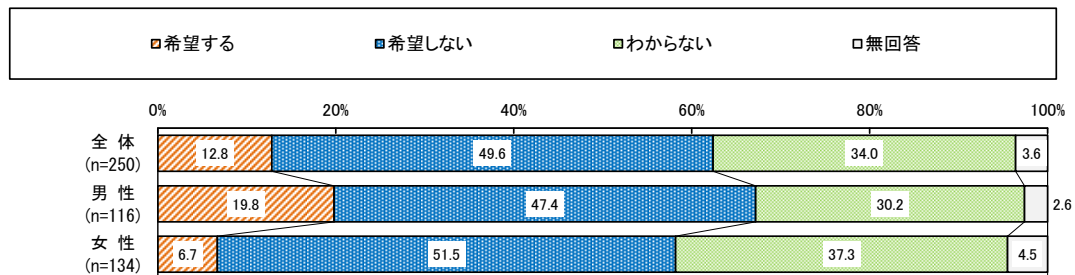
女性の職域拡大・登用をすすめるために、「女性が多様な経験を積めるよう、人事配置や職務分担をすすめる」の割合が最も高く、5割強を占めている。次いで、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」、「育児・介護などの社会的条件の整備をすすめる」が4割台、「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる」が3割強となっている。

<性別>

男女別では、「女性が多様な経験を積めるよう、人事配置や職務分担をすすめる」、「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる」、「女性職員と男性職員とは対等なパートナーと認識するような意識啓発をすすめる」などの割合は男性の方が高くなっている。一方、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」、「育児・介護などの社会的条件の整備をすすめる」などの割合は女性の方が高くなっている。

(6) 管理職への昇格・昇任について

問8 あなたは管理職への昇格・昇任を希望しますか。1つだけお選びください。



<全体結果>

管理職への昇格・昇任を「希望しない」の割合が高く、約5割を占めている。「希望する」の割合が1割強となっている。

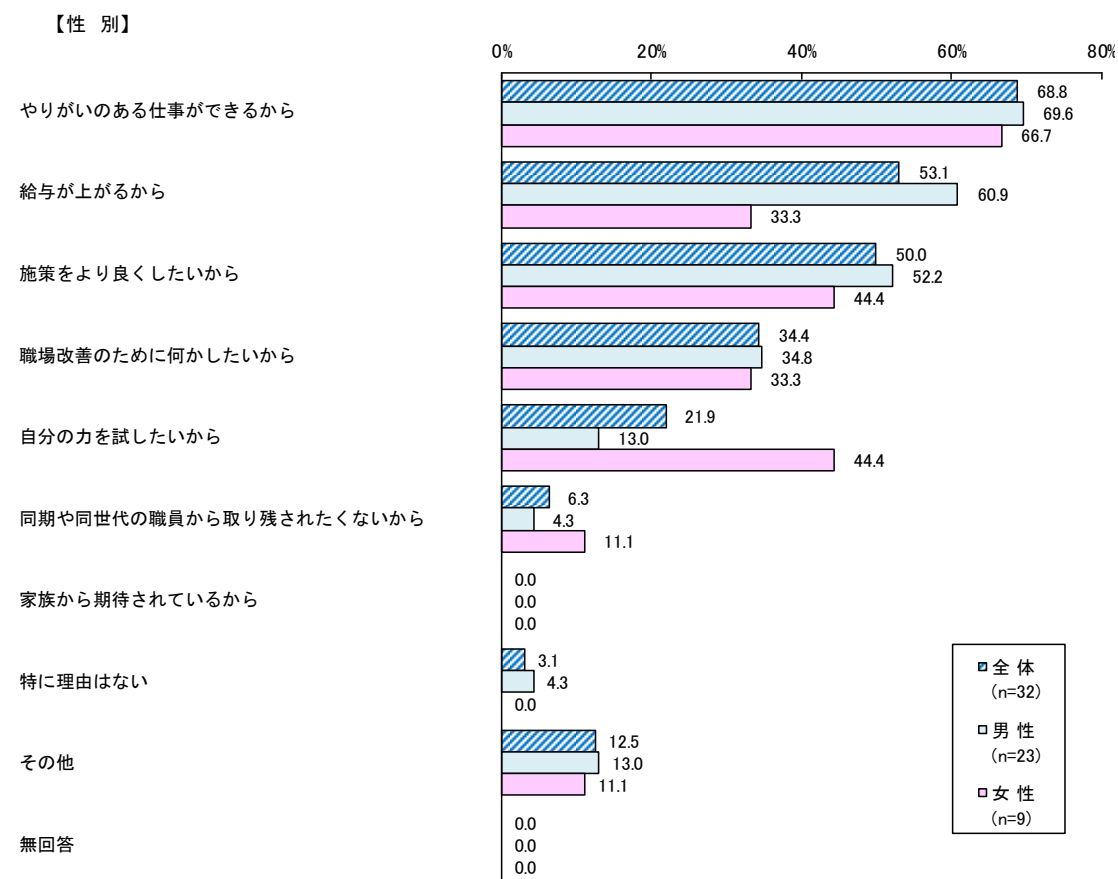
一方、「わからない」が3割強となっている。

<性別>

男女別では、「希望する」の割合は、女性より男性の方が高く、「わからない」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

(7) 管理職への昇格・昇任を希望する理由

問9 管理職への昇格・昇任を希望する理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。



<全体結果>

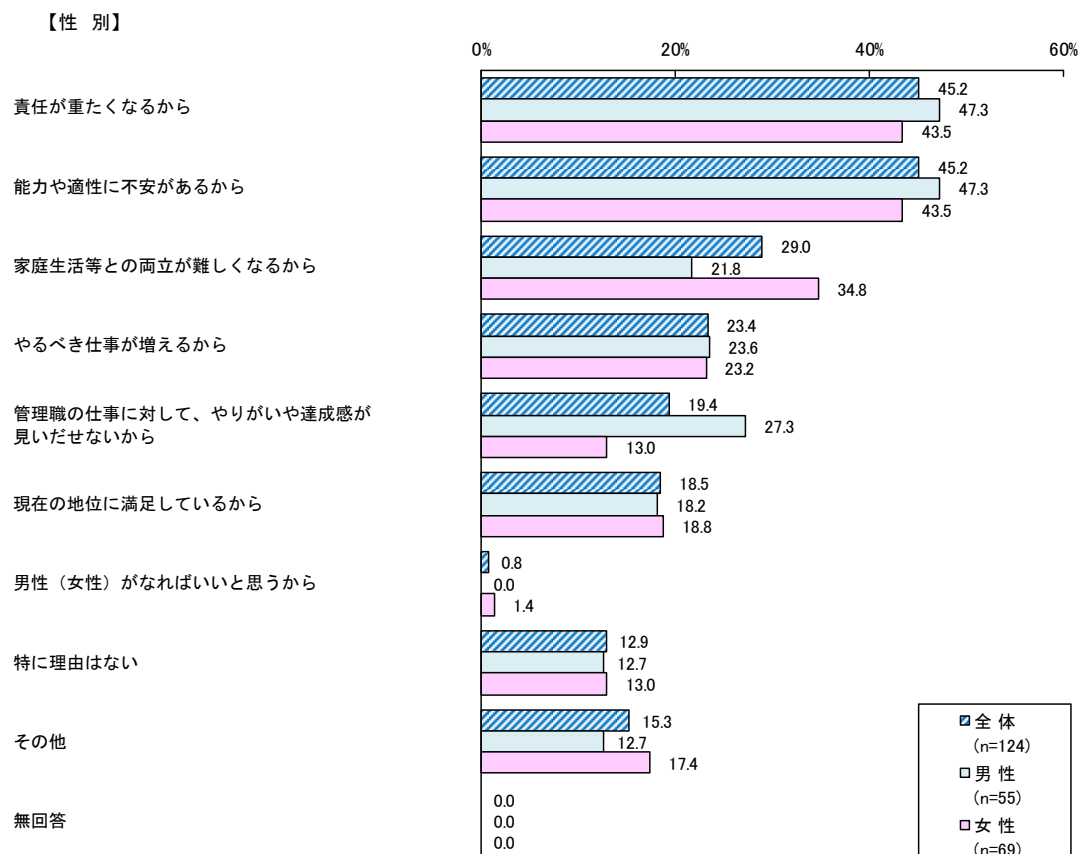
管理職への昇格・昇任を希望する理由は、「やりがいのある仕事ができるから」の割合が最も高く、7割弱を占めている。次いで、「給与が上がるから」、「施策をより良くしたいから」が5割台、「職場改善のために何かしたいから」が3割台となっている。

<性別>

該当者が32人と少ないため、図のみの掲載とする。

(8) 管理職への昇格・昇任を希望しない理由

問10 管理職への昇格・昇任を希望しない理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。



<全体結果>

管理職への昇格・昇任を希望しない理由は、「責任が重たくなるから」、「能力や適性に不安があるから」の割合が最も高く、4割強を占めている。次いで、「家庭生活等との両立が難しくなるから」、「やるべき仕事が増えるから」が2割台となっている。

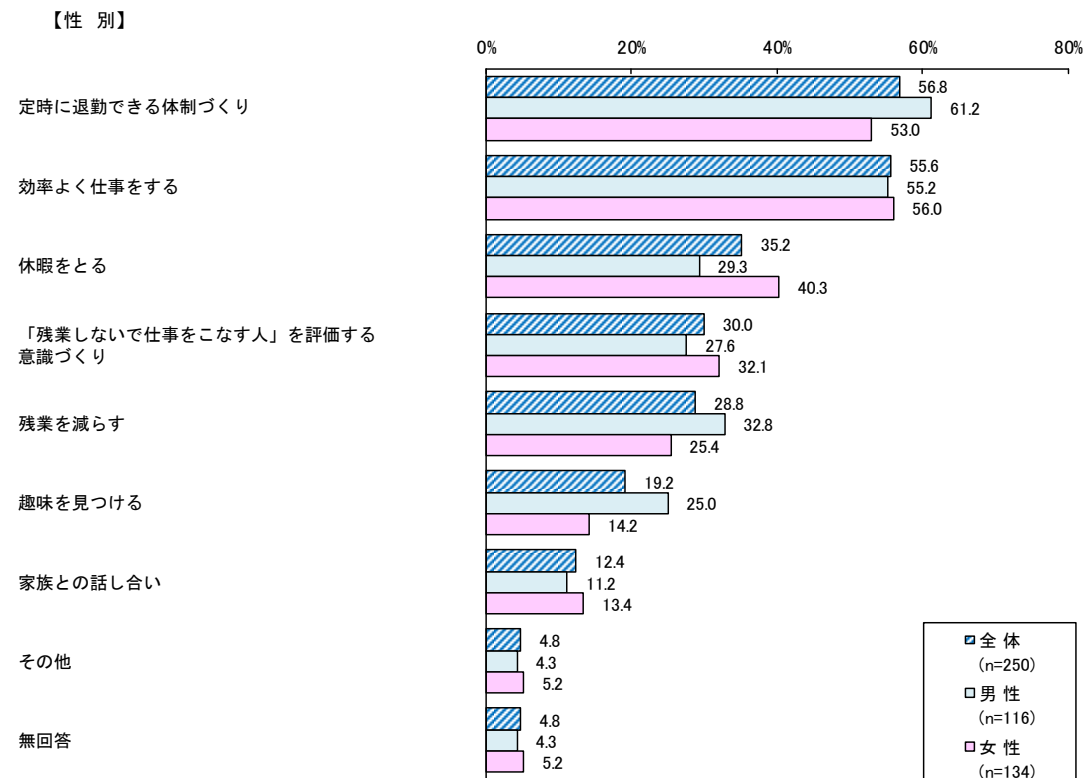
<性別>

男女別では、「管理職の仕事に対して、やりがいや達成感が見いだせないから」の割合は男性の方が高くなっている。一方、「家庭生活等との両立が難しくなるから」の割合は女性の方が高くなっている。

4 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと

問 11 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことは何だと思えますか。
次の中からいくつでもお選びください。



<全体結果>

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことは、「定時に退勤できる体制づくり」、
「効率よく仕事をする」の割合が高く、5割強を占めている。次いで、「休暇をとる」、「『
残業しないで仕事をこなす人』を評価する意識づくり』が3割台となっている。

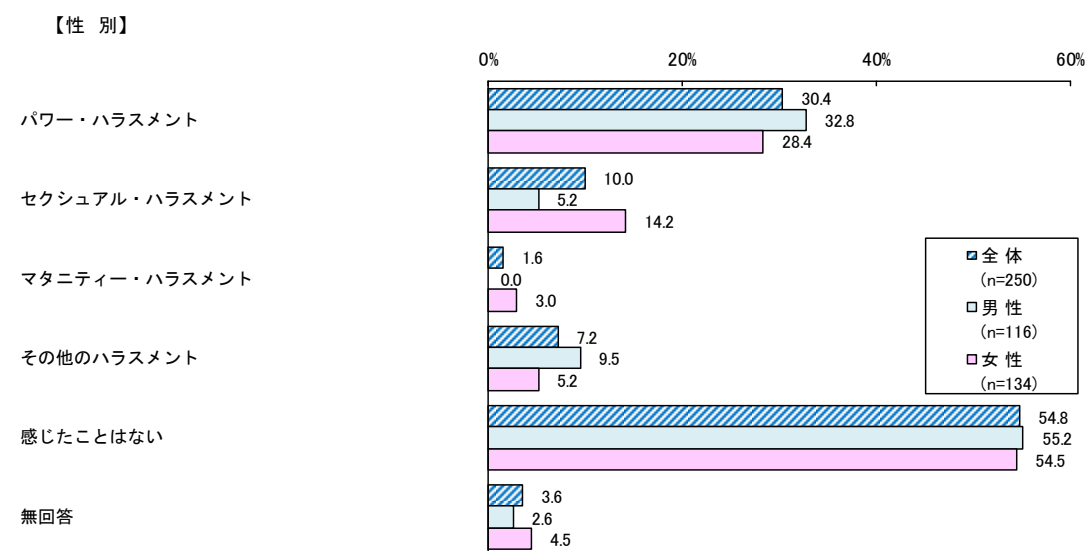
<性別>

男女別では、「定時に退勤できる体制づくり」、「残業を減らす」の割合は男性の方が高くなっ
ている。一方、「休暇をとる」の割合は女性の方が高くなっている。

5 人権について

(1) 職場でのハラスメントを受けた経験の有無

問 12 あなたは、職場でのハラスメントについて、自分やまわりの人が経験したことがありますか。次の中からいくつでもお選びください。



<全体結果>

職場でのハラスメントを「感じたことがない」の割合が最も高く、5割強を占めている。次いで、「パワー・ハラスメント」が約3割、「セクシュアル・ハラスメント」が1割となっている。

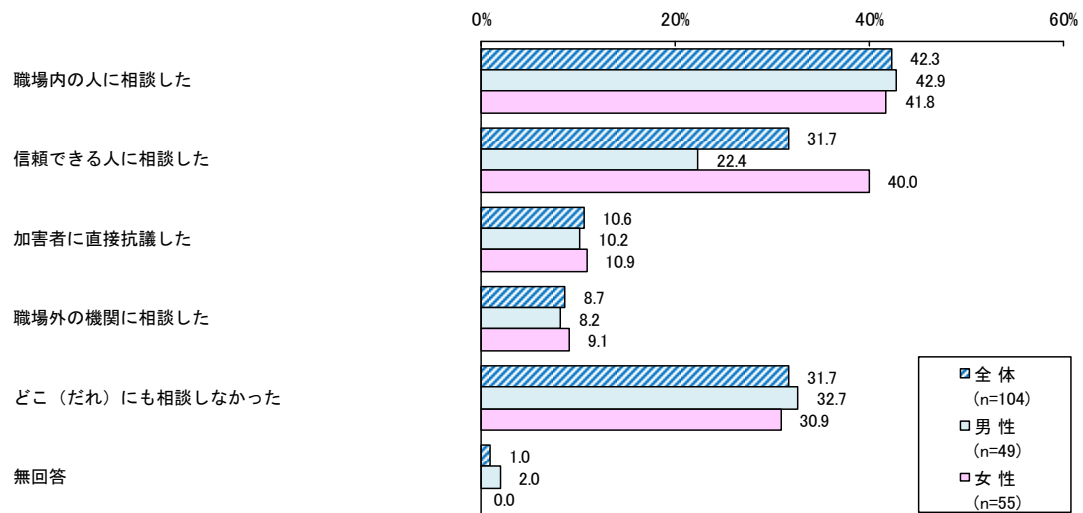
<性別>

男女別では、「セクシュアル・ハラスメント」の割合は女性の方が高くなっている。

(2) ハラスメントを受けた時の対処法

問 13 あなたは、ハラスメントに対してどのような対応をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

【性別】



<全体結果>

「職場内の人に相談した」の割合が最も高く、4割強を占めている。次いで、「信頼できる人に相談した」が3割強、「加害者に直接抗議した」が約1割となっている。

一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が3割強となっている。

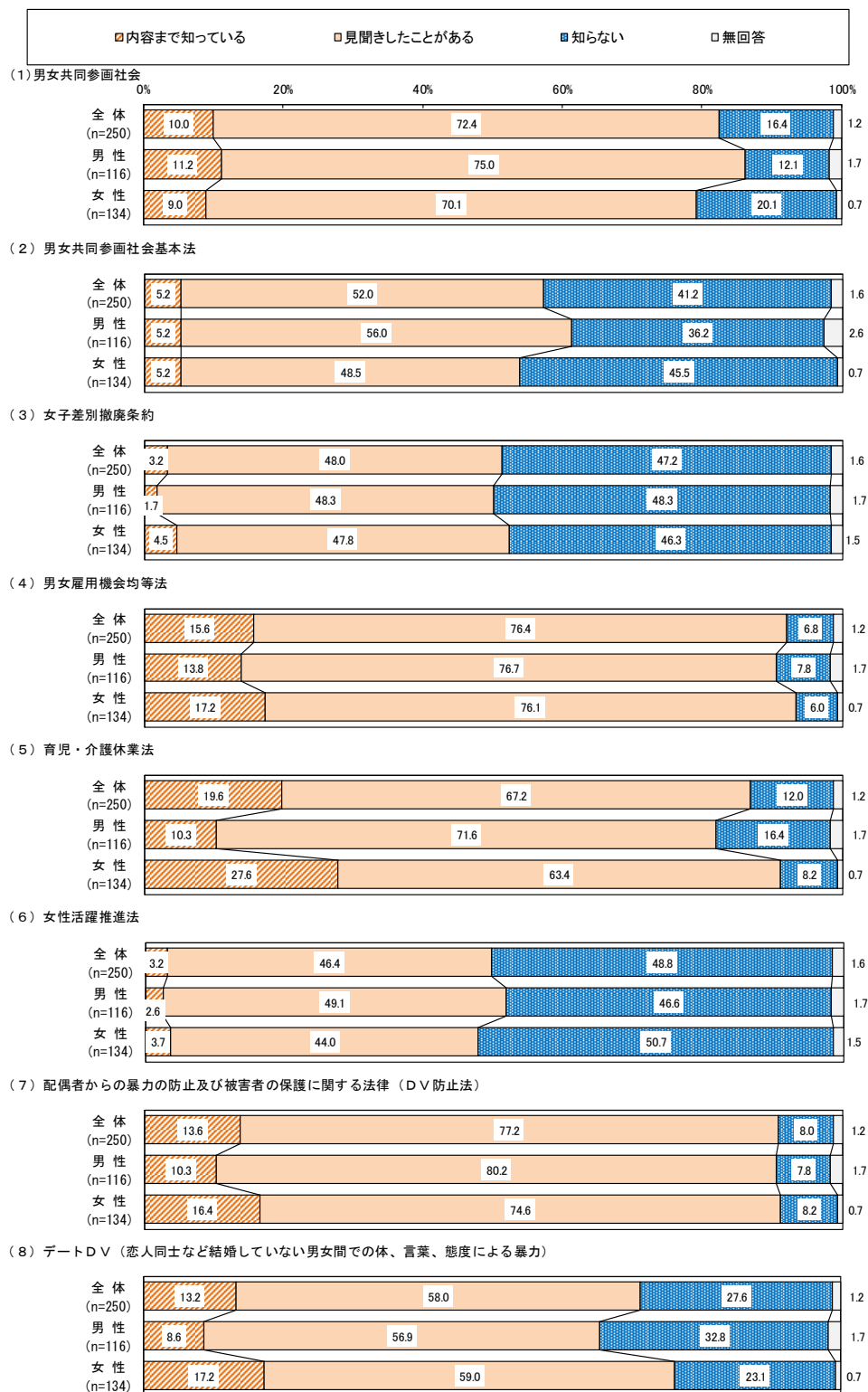
<性別>

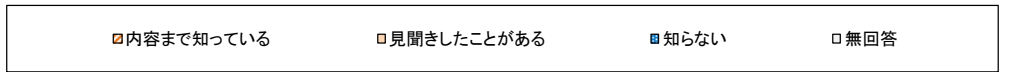
男女別では、「信頼できる人に相談した」の割合は女性の方が高くなっている。

6 男女共同参画に関する施策などについて

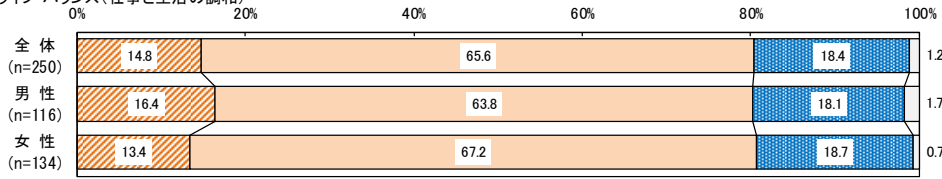
(1) 法律や制度の認知度

問 14 あなたは、次の男女共同参画に関する事項を、どの程度ご存知ですか。
それぞれ1つずつお選びください。

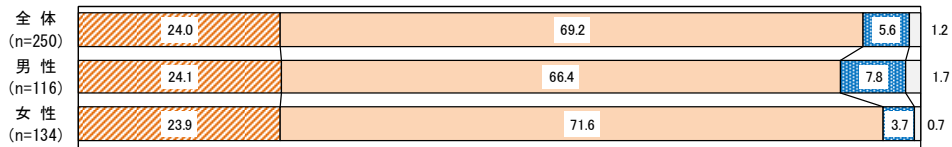




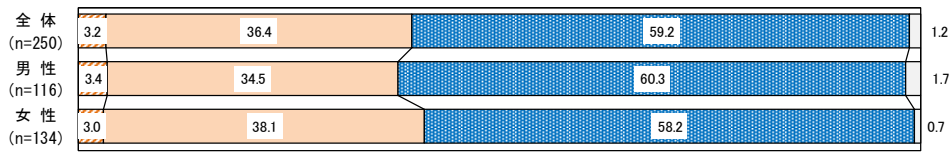
(9) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



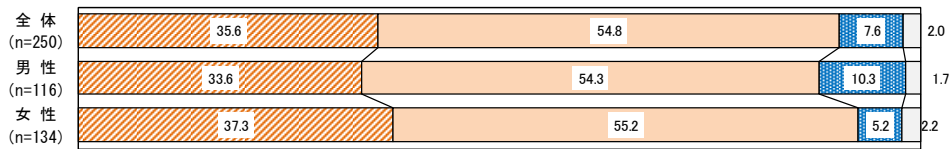
(10) ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)



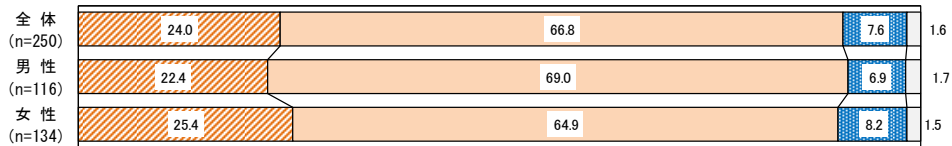
(11) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)



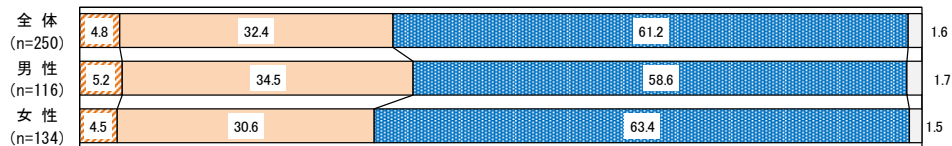
(12) SDGs(エスディー・ジーズ)



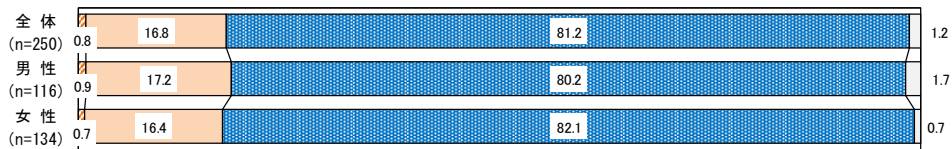
(13) LGBTQ



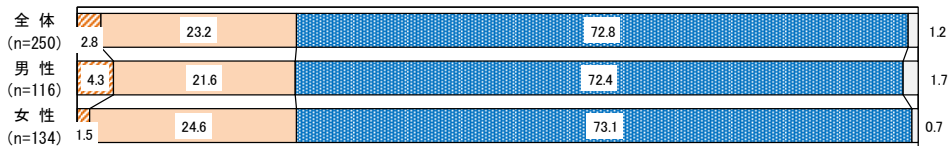
(14) ハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)



(15) 女性活躍推進企業認定「えるぼし・プラチナえるぼし認定」



(16) 加茂市 次世代育成/女性活躍 特定事業主行動計画



<全体結果>

法律や制度の認知度について16項目で調査した。

「内容まで知っている」では、「SDGs（エスディーゼーズ）」が3割強で最も高くなっている。

「見聞きしたことがある」では、【(7) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）】、【(4) 男女雇用機会均等法】、【(1) 男女共同参画社会】が7割台で高くなっている。

「知らない」では、【(15) 女性活躍推進企業認定「えるぼし・プラチナえるぼし認定」】が8割強で最も高くなっている。

<性別・年齢別>

男女別では、「見聞きしたことがある」の割合は、男性では【(1) 男女共同参画社会】、【(2) 男女共同参画社会基本法】、【(5) 育児・介護休業法】、【(6) 女性活躍推進法】、【(7) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）】の割合が高く、女性では【(10) ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】の割合が高くなっている。

「内容まで知っている」の割合は、女性では【(5) 育児・介護休業法】、【(7) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）】、【(8) デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）】の割合が高くなっている。

7 自由記入の結果

自由記入欄に記載してあった内容を整理したものを全て原文のまま以降に掲載する。

なお、ここで指摘された内容は、職員の具体的な声であるため、男女共同参画プランを見直す際に、十分考慮する必要があると考えられる。

	自由意見	属性	
		性別	年齢別
1	性別にこだわらず、みんなの幸せを考えられる人を評価してほしい。	男性	50歳代
2	ジェンダーフリーにLGBTQが重なりややこしい世の中になった！	男性	60歳代以上
3	男女や年齢ではなく、人を評価して欲しい。正直やっつけられないです。	男性	30歳代
4	ハラスメントに対する認識を持っていない、思い至らない人がいるので役職を持っている人は講習等を受けるべきである。	女性	60歳代以上
5	「男女共同参画」と「男女平等」は違うと思います。男女が平等になることは決してない（できない）と思うのです。男には子どもを産めませんから。「男女共同参画」を進める上で「形式的な平等（のようなもの）」を目指すのではなく、「個々人の希望をかなえる」ことを目指してはいかがでしょうか。	男性	40歳代
6	初年度と一定程度回数を重ねた後に必ず内外へ結果を公表してください。	男性	30歳代
7	男女共同参画よりも能力を考え、適材適所にして欲しい。世の中の風潮が男女共同参画、男女差別を無くすという方向に行っているのはわかるが行きすぎとも思うこともある。このアンケートは1〜2P目で誰が記入したか推測できそうな内容。	女性	50歳代
8	男女共同参画は、職場環境、働き方、家事育児分担等全体的の同時に取り組むべき。	男性	40歳代
9	加茂市役所は女性でも活躍しやすい職場になったと思います。ただ、家庭での役割があるので、家で疲れては良い仕事も出来ないしプラス研修は機会があっても積極的に受けられないという方も多いのではと思っています。子育てや食事を作ることは女性のみのもではないので、共同参画の考えが広まればもっとワークライフバランスがとれた良い職場環境になると信じています。	女性	50歳代
10	男女共同参画よりも、職員（男女問わず）の能力や意識改革の方が先なのでは…と思う。（自分も含めて）	女性	50歳代
11	降任より昇任を希望制にしてほしい。	女性	40歳代
12	権利の主張をするということがワガママを言うことと同じ意味に見なされていた時代が長すぎたため、声を上げようにも上げづらい状況が固定化してしまっていると思っています。このような状況を改善するのはなかなか容易なことではありませんが、なんとか性別関係なく独立「個人」として尊重されるような社会に近づけるように願います。	男性	40歳代
13	“家事・育児は女性がするもの”という考えが残っているせいか、残業するような大変な仕事や分量の多い仕事は男性がやり、多くの女性は定時または早めに帰っているのでは正してほしい。	男性	30歳代
14	女性の職域拡大・登用をすすめることも大切だとは思いますが、昇格・昇任を希望しない人に対する理解を深めることも大切かと思えます。（男性は昇格・昇任しなければいけないという風潮があると思うので）	男性	30歳代
15	活躍したくない女性も一定数いることについて議論されていない。全ての女性が最前線で戦うことを望んでいるわけじゃない。そのような女性を登用すると病気になります。	男性	50歳代
16	女性の管理職への登用は素晴らしいことだと思います。ですが、家庭の事情などでそれを望んでいない人も一定数います。	女性	30歳代